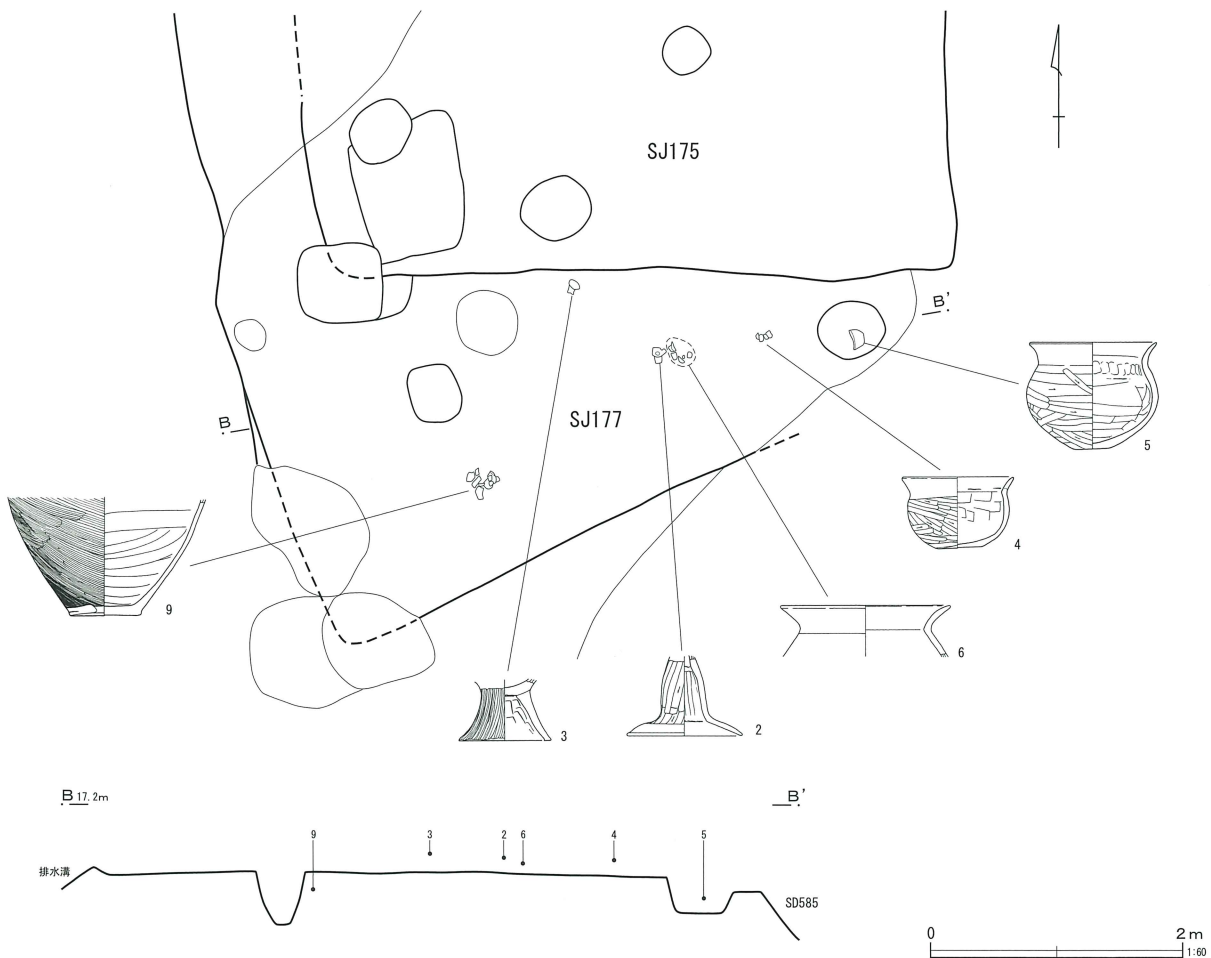
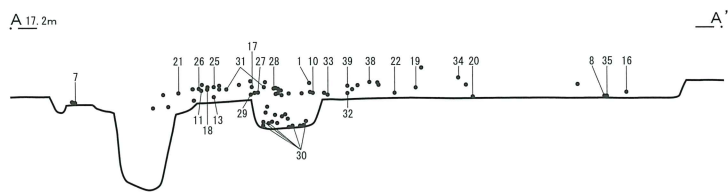
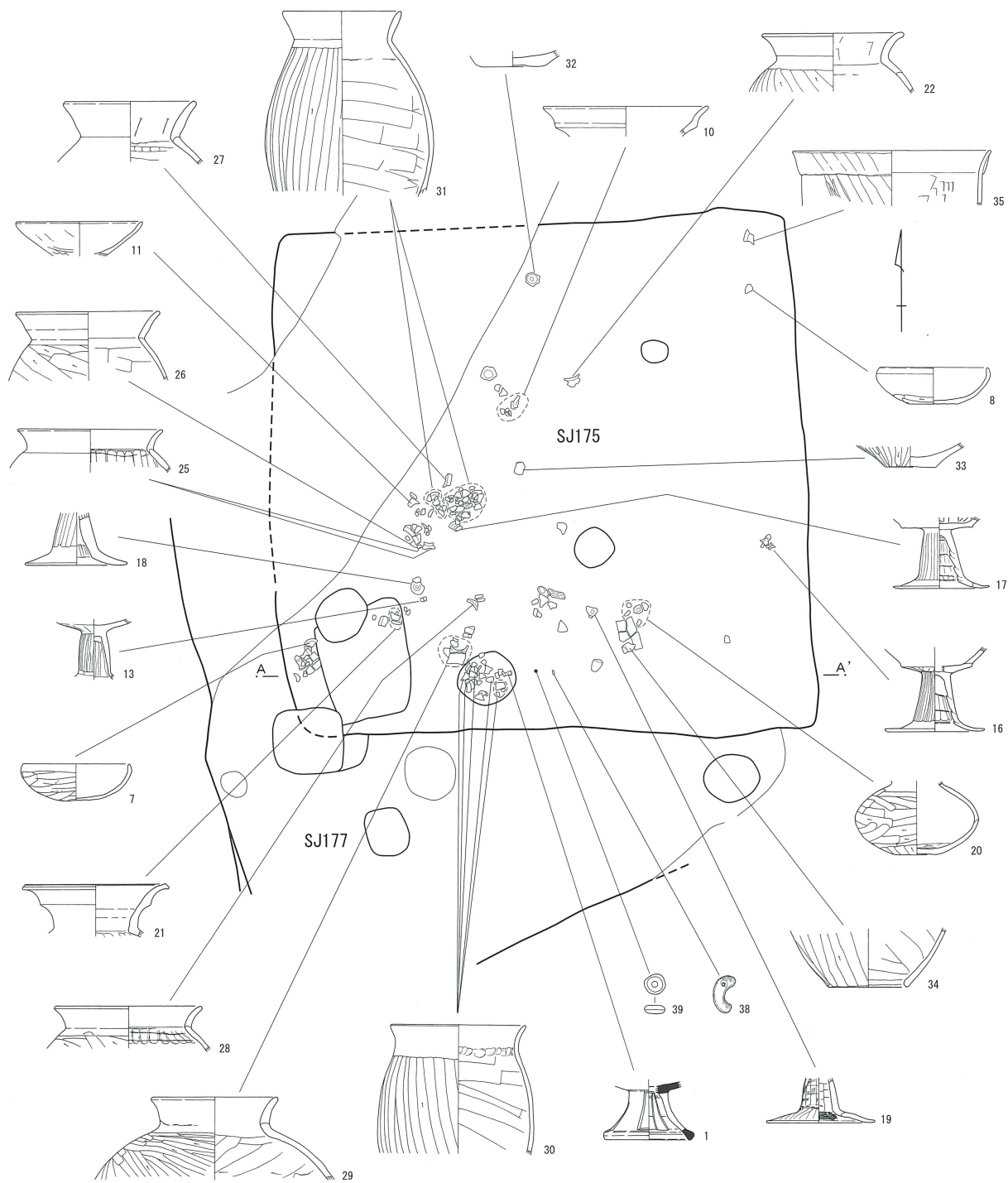


- 第175号住居跡
- 1 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
  - 2 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 底面に炭化物層
  - 3 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
  - 4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
  - 5 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量
  - 6 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 (掘り方)
- ピット2
- 7 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・焼土ブロック (φ2~3mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
- ピット4
- 8 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量
  - 9 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
- 10 黒色土 10YR2/1 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
  - 11 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
- ピット5
- 12 黒色土 10YR3/1 焼土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子多量 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
  - 13 明黄褐色土 2.5Y7/6 黄褐色土ブロック主体
  - 14 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土ブロック (φ2~3mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量

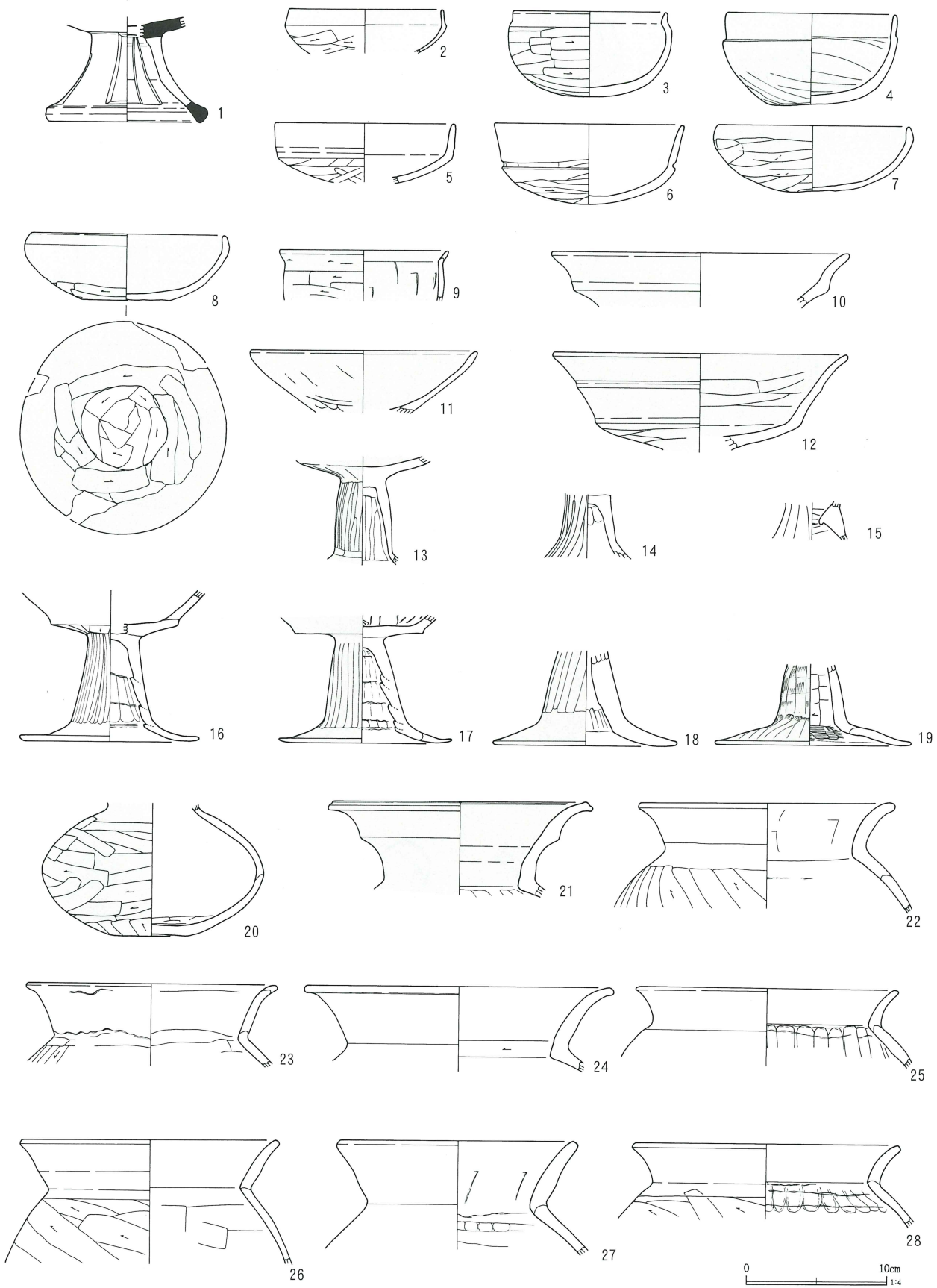
- 第176号住居跡
- 15 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
  - 16 黄褐色土 2.5Y5/3 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
- 第177号住居跡
- 17 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
  - 18 暗褐色土 10YR3/4 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 (掘り方)
- ピット1
- 19 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 (柱痕)
  - 20 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
  - 21 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量
- ピット2
- 22 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子多量
  - 23 黒色土 10YR2/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
  - 24 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量
  - 25 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量
- ピット3
- 26 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm)・焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
  - 27 黒色土 10YR2/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
- 第178号住居跡
- 28 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量



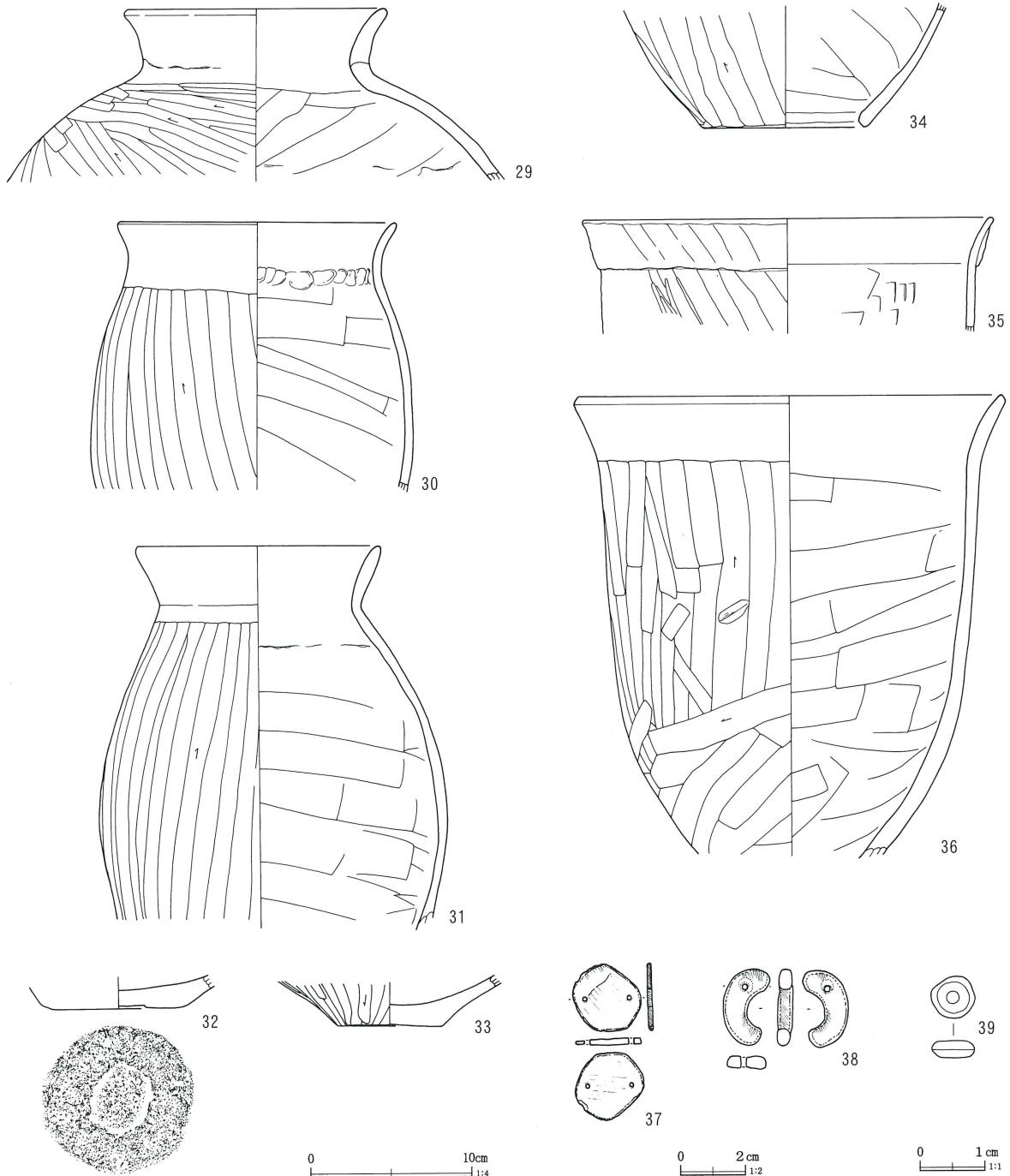
第139図 第177号住居跡遺物出土状況



第140图 第175号住居跡遺物出土状況



第141图 第175号住居跡出土遺物 (I)



第142図 第175号住居跡出土遺物(2)

のみで、図示できる遺物は出土しなかった。

本住居跡の時期は不明である。

**第179号住居跡(第138図)**

G-35グリッドに位置する。第131・177号住居跡、第344号井戸跡、第585号溝跡と重複する。切り合う住居跡の中ではもっとも古い。

西側は調査区域外にかかる。検出された範囲は東西3.6m、南北1.5mである。

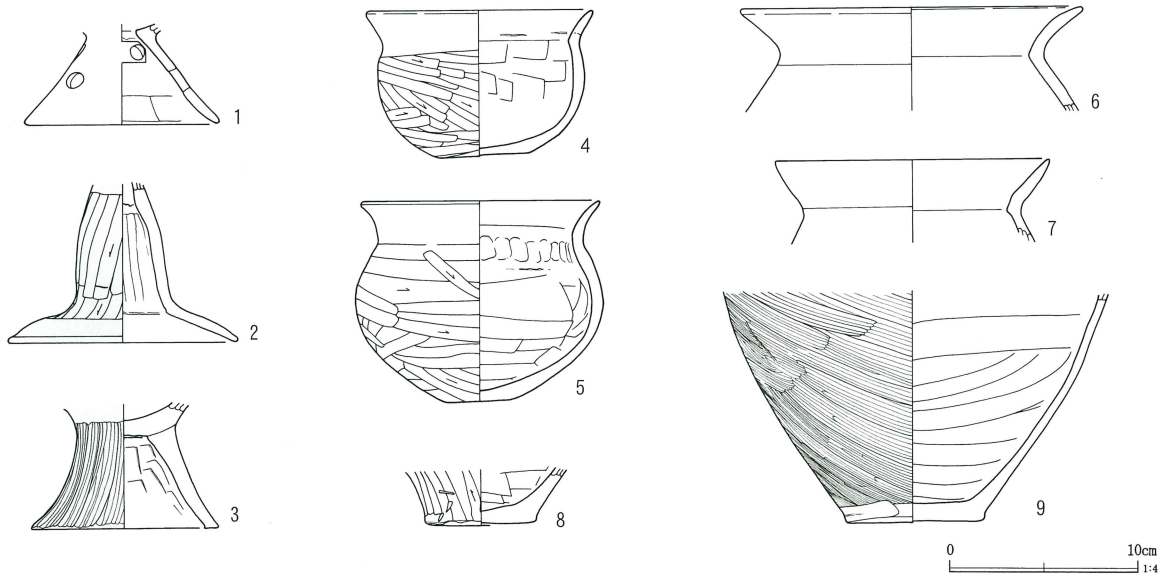
炉は床面が被熱し、範囲は33×18cmである。

遺物は切り合う第177号住居跡の遺物と混在しており、図示した器台と甕(第144図1・9)は本住居跡に帰属する可能性がある。

本住居跡の時期は下田町Ⅱ期である。



第143図 第176号住居跡出土遺物



第144図 第177号住居跡出土遺物

### 第180号住居跡（第145・146図）

F・G-33・34グリッドに位置する。第181・182・183・184号住居跡、第2・601号溝跡、第328号井戸跡と重複する。切り合う住居跡のなかではもっとも新しい。東コーナーを第2号溝跡に、床面を第328号井戸跡によって切られている。

形状は正方形に近く、規模は東北-西南5.3m、南東-北西5.4mである。埋土の堆積状況は、この住居跡が徐々に埋没していった状況を示している。確認面から床面までの深さは25cmである。主軸方向はN-40°-Wである。

カマドは南東壁に設けられているが、大半が第2号溝跡にかかり、検出されたのは粘土を貼った袖の先端のみである。

貯蔵穴はカマドの右、南コーナーにあり、形状は

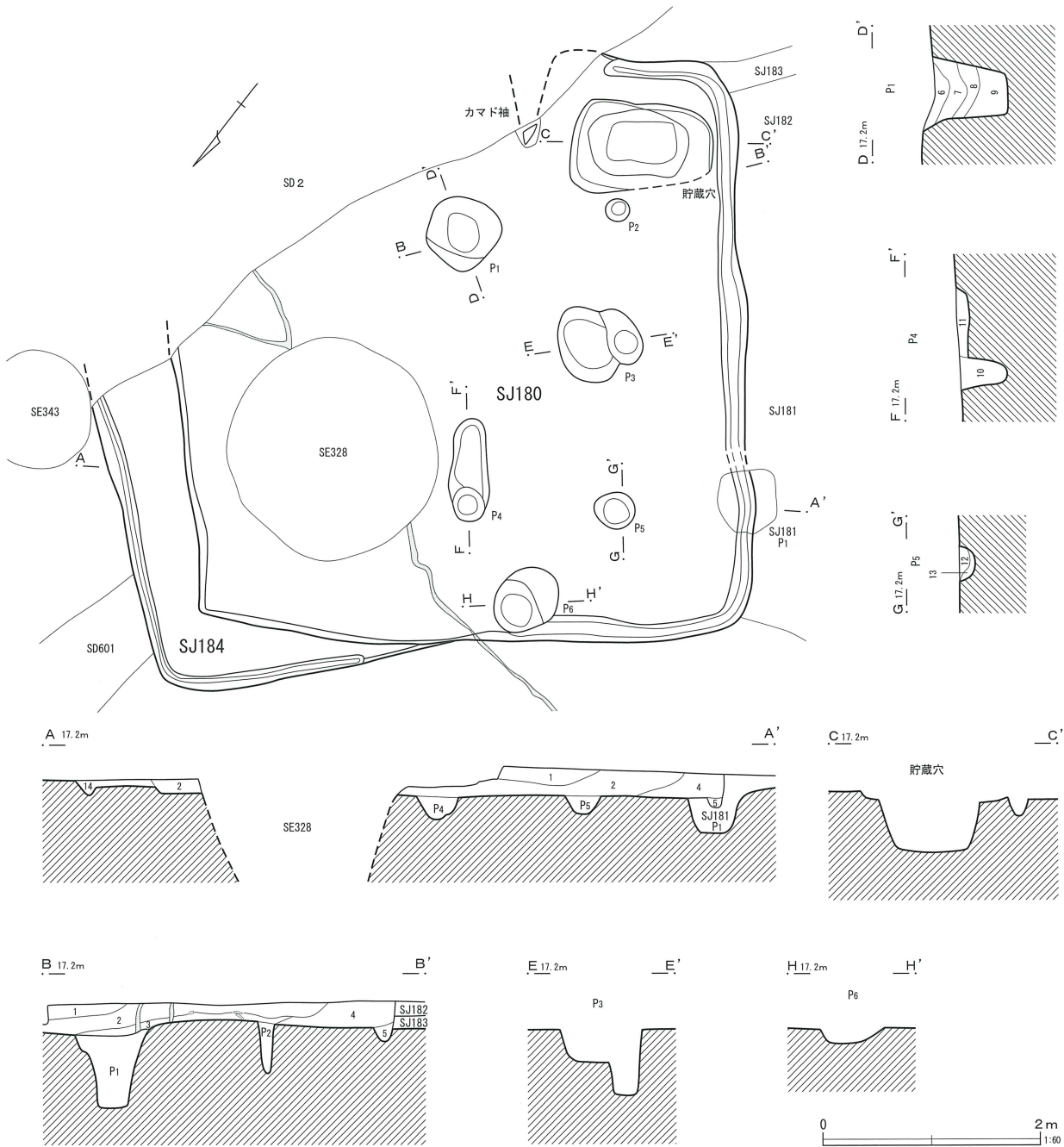
楕円形で、底が平らで深いバケツ状の掘り込みである。規模は130×84cm、深さは47cmである。

壁溝は南西側の壁に検出された。幅15~25cm、深さ5~11cmである。

ピットは6基検出された。柱痕は確認できなかった。P1~5は規則的に並んでおり、柱穴が含まれているものと思われる。P2・5が主柱穴とするならば、北東側の柱穴は井戸跡と溝跡によって削平されたと解釈できる。ピットの深さはP1から順に73cm、45cm、60cm、43cm、15cm、14cmである。

出土遺物の量は多く、種類も豊富である。土師器 坏・壺・甕・甑などがある。坏の多いことが特徴といえる。

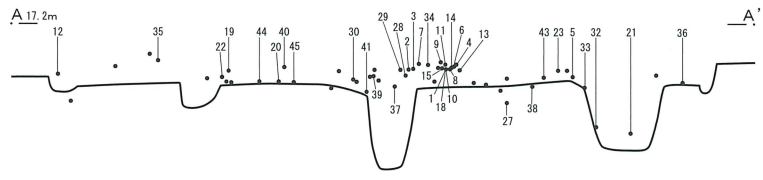
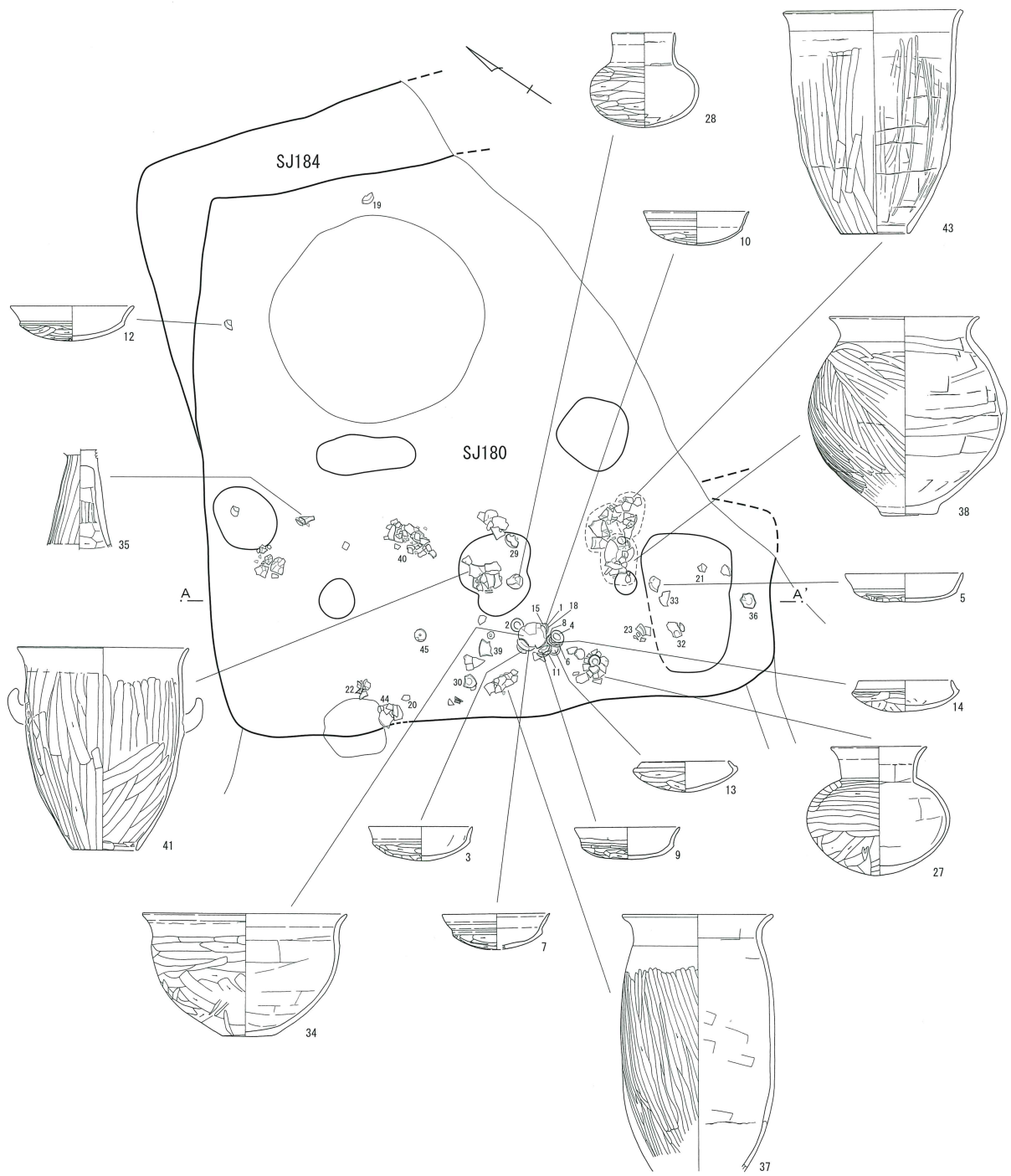
本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。



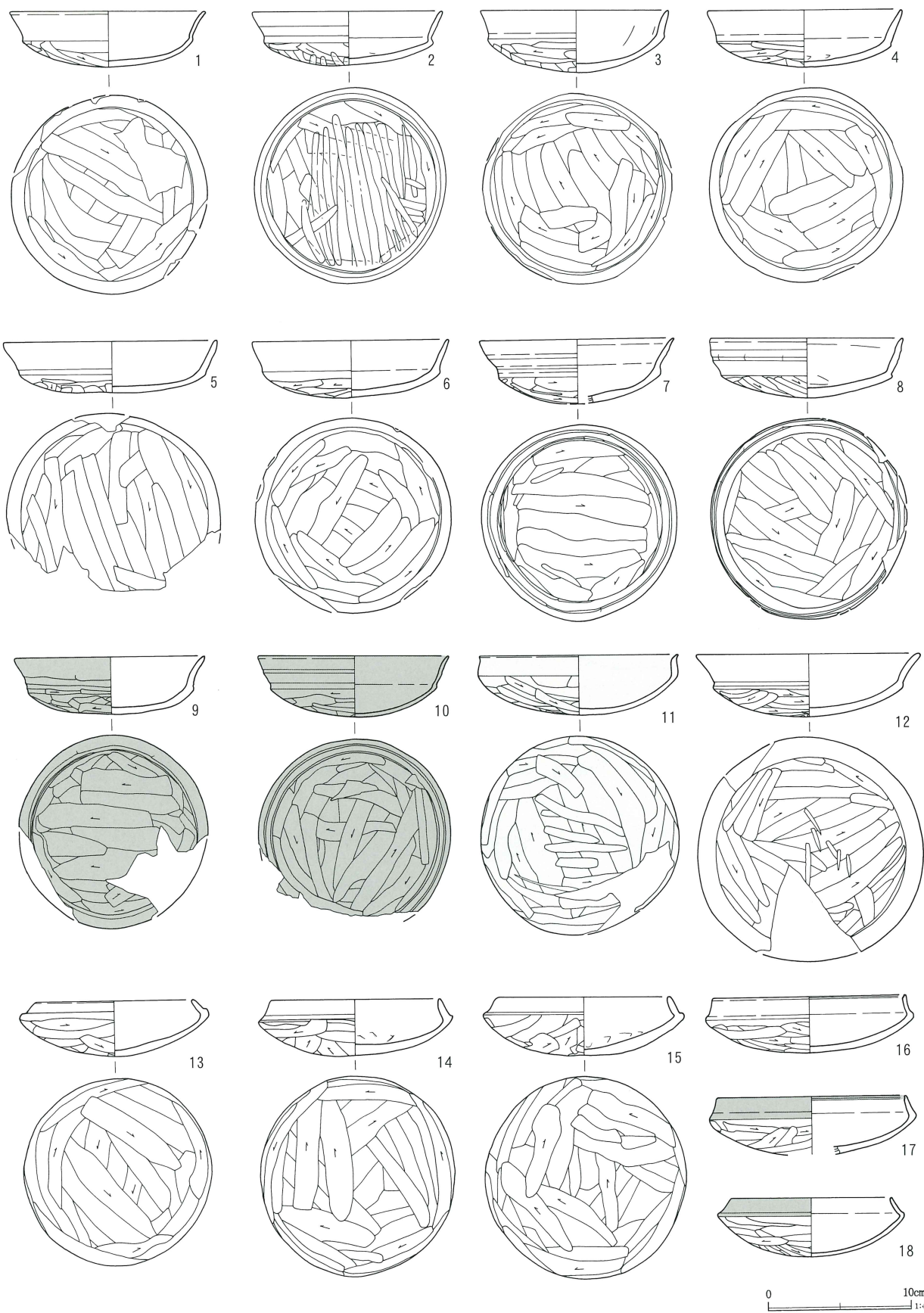
第180号住居跡

- |                |   |                   |   |
|----------------|---|-------------------|---|
| 1 暗褐色土 10YR3/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量                     | 8 黒褐色土 2.5Y3/1    | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量                                       |
| 2 黒褐色土 10YR3/2 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 含む 焼土ブロック (φ2~5mm) 少量      | 9 オリーブ黒色土 5Y3/2   | 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 粘性あり  |
| 3 黒色土 10YR2/1  | 炭化物粒子多量 焼土ブロック (φ2~5mm) 含む 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量               | 10 黒褐色土 2.5Y3/1   | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 多量 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量                                   |
| 4 黒褐色土 10YR3/1 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 含む 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 | 11 黒褐色土 10YR3/1   | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土ブロック (φ3~5mm) 含む 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| 5 黒褐色土 10YR2/2 | 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量   | ピット5              |   |
| ピット1           |   | 12 黒褐色土 10YR3/1   | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む 焼土粒子 (φ1~2mm) 少量   |
| 6 暗褐色土 10YR3/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土ブロック (φ3~5mm) 少量      | 13 にぶい黄褐色 10YR4/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量                                       |
| 7 黒褐色土 10YR3/1 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量                     | 第184号住居跡          |   |
|                |   | 14 黒褐色土 10YR3/1   | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量                                       |

第145図 第180・184号住居跡

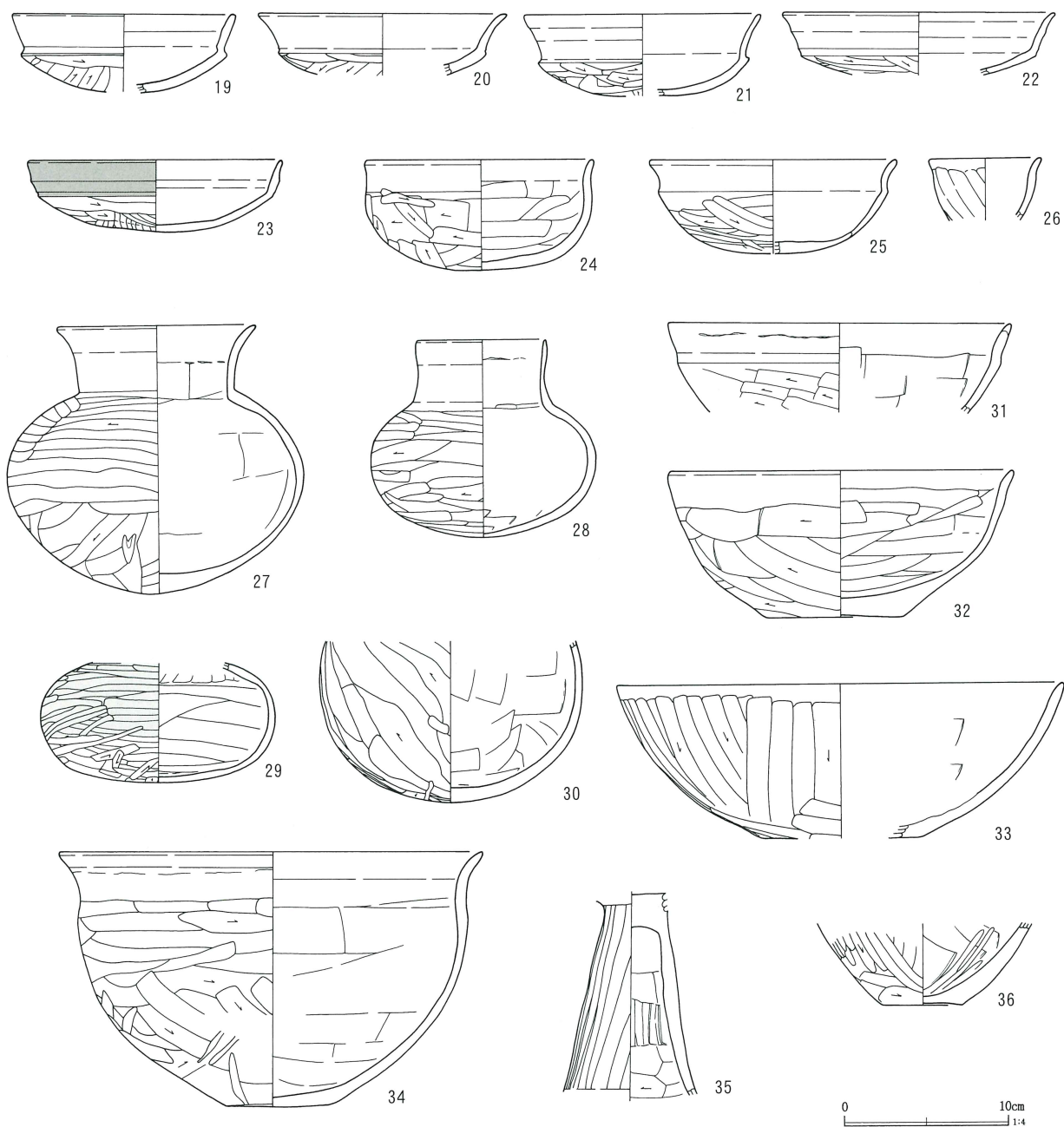


第146图 第180号住居跡遺物出土状況

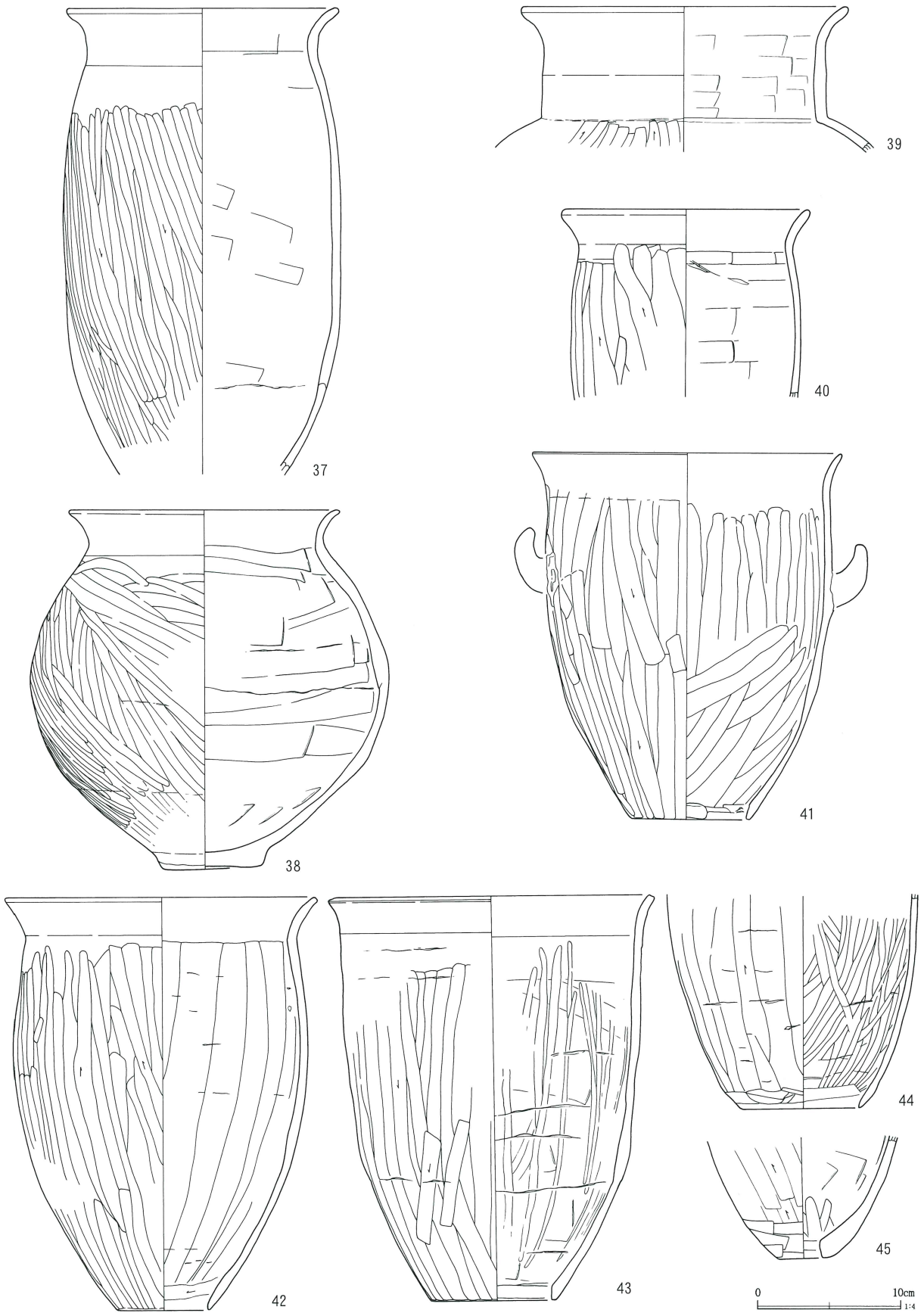


第147图 第180号住居跡出土遺物 (I)





第148図 第180号住居跡出土遺物 (2)



第149图 第180号住居跡出土遺物 (3)

#### 第181号住居跡 (第150図)

F-33・34グリッドに位置する。第180・182・183・193号住居跡と重複する。切り合い関係は、第180号住居跡より古く、第182・183・193号住居跡よりも新しい。

形状は方形で、西側は調査区域外にかかる。規模は南北3.4mで、カマドを含む南東壁の長さは2.4mである。確認面から床面までの深さは20cmである。主軸方向はN-44°-Wである。

カマドは南東壁に構築されている。燃焼部のみが検出された。規模は70×50cm、深さは10cmである。あまり焼けておらず、底面に径10cmほどの被熱範囲が認められた。袖は粘土で構築されている。

壁溝は南東壁に認められた。幅10~13cm、深さ10~12cmである。

ピットは1基検出された。住居跡の規模から、2本柱穴の片方とも考えられるが、柱痕はない。深さは33cmである。

出土遺物の量は少ないが、残りは比較的良好である。カマド内などから土師器小型甕などが出土した。埋土出土の遺物の中には、切り合う住居跡のものが含まれている可能性がある。

本住居跡の時期は下田町VI期である。

#### 第182号住居跡 (第152図)

F・G-34グリッドに位置する。第176・180・181・183・193号住居跡と重複する。切り合い関係は第180・181号住居跡よりも古く、第183号住居跡より新しい。第176・193号住居跡との関係は把握できなかった。

排水溝と第180・181号住居跡との間にあり、南コーナーのみが検出された。その大半が第183号住居跡と重なり合っている。当初同じ住居跡として掘り下げたため、南西壁の立ち上がりは断面のみで確認された。検出された範囲は東北-西南で1.8m、南東-北西は1.9mである。埋土は一層で、確認面から床面までの深さは13cmである。主軸方向はN-47°

-Wである。

カマドは南西壁に設けられていたと推定され、排水溝際に燃焼部の掘り込みの下部のみが検出された。規模は69×50cm、深さは8cmである。下層に灰が堆積している。被熱面は検出されなかった。

壁溝は南東壁のみに検出された。掘り込みはわずかで、幅12~20cm、深さ1~5cmである。

出土遺物の大半は重なる第183号住居跡といっしょに取り上げたため、確実に本住居跡に伴う遺物はない。

本住居跡の時期は下田町VI期の範疇に収まると考えられる。

#### 第183号住居跡 (第152図)

F・G-34グリッドに位置する。第180・181・182・193号住居跡と重複する。切り合い関係は、第180・181・182号住居跡よりも古い。第193号住居跡との関係は明らかにできなかった。

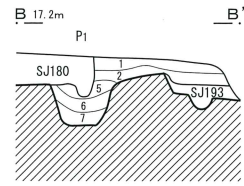
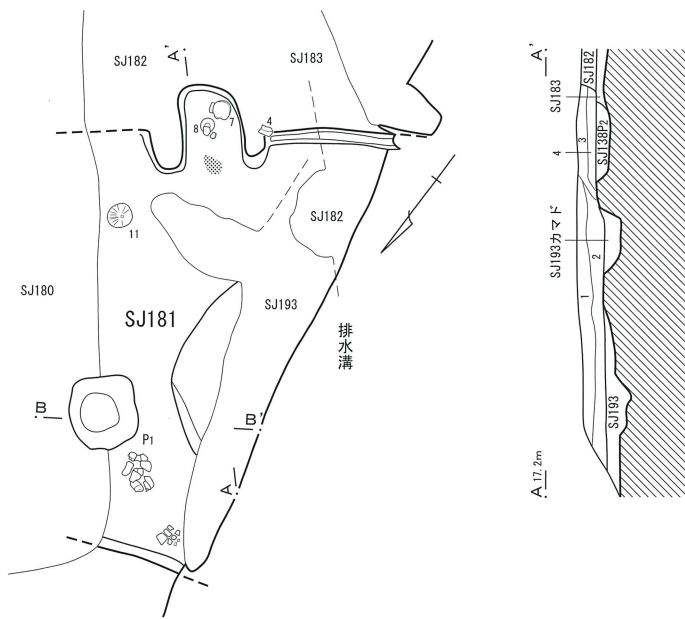
南コーナーのみが検出され、その範囲は東北-西南で2.2m、南東-北西は2.0mである。埋土は一層で、確認面から床面までの深さは14cmである。南西壁を基準とした傾きはN-58°-Wである。

壁溝は南東壁に検出され、掘り込みは浅く、幅8~21cm、深さ3~6cmである。

ピットは2基接して検出された。規模は大きく、ピットの深さはP1から順に42cm、104cmである。

埋土からの出土遺物は第182号住居跡と混在する。本住居跡に伴う遺物として、調査時に判断したのは土師器坏1点(第153図3)のみである。

本住居跡の時期は下田町VI期の範疇に収まると考えられる。

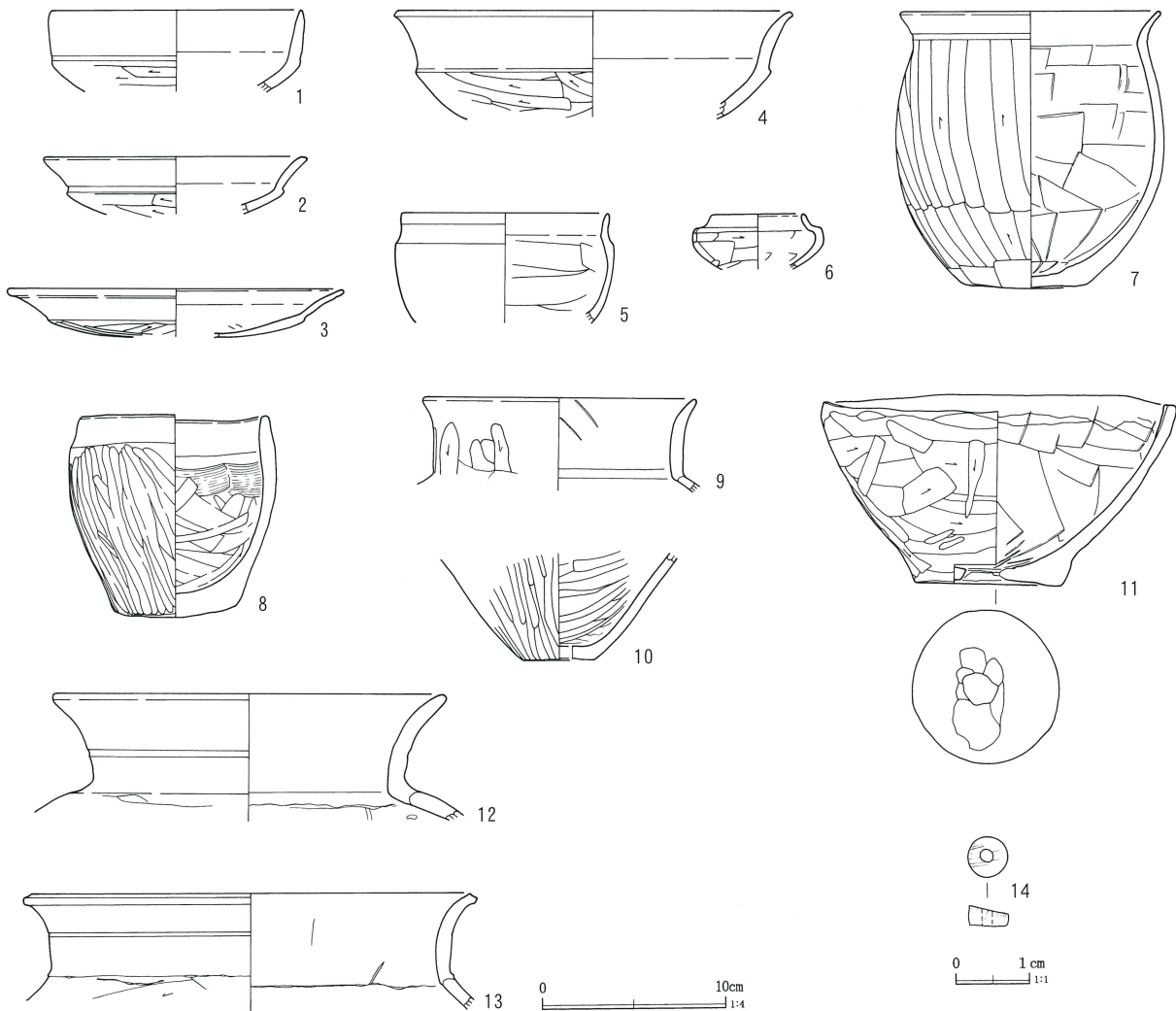


第181号住居跡

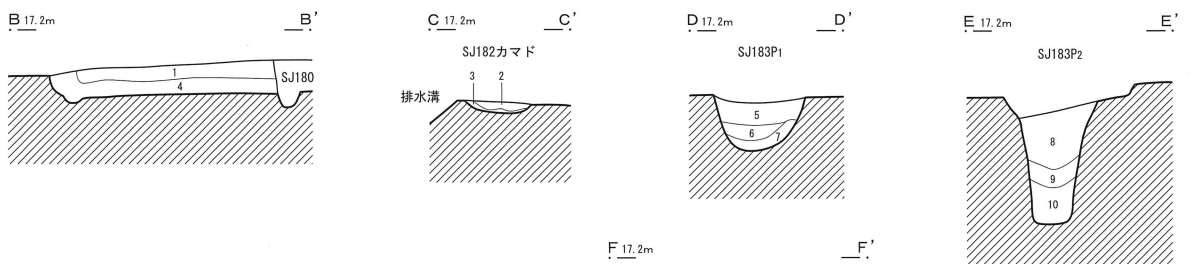
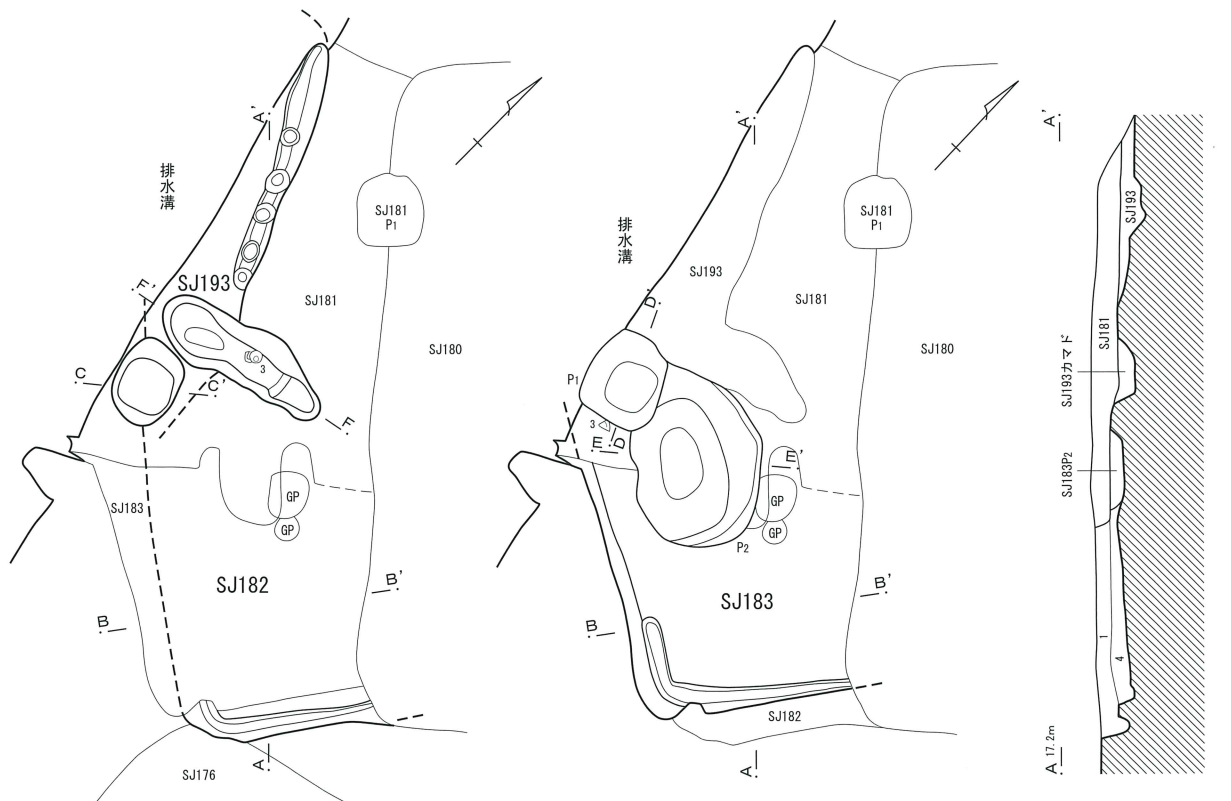
- 1 暗褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土ブロック (φ2~3mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
- 2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック (φ3~10mm)・焼土ブロック (φ2~5mm) 少量
- カマド
- 3 黒褐色土 10YR3/1 焼土ブロック (φ2~10mm) 多量  
黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
- 4 暗灰色土 N3/0 灰主体
- ピット 1
- 5 黒褐色土 10YR3/1 焼土ブロック (φ2~5mm) 多量  
黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
- 6 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量  
焼土ブロック (φ3~5mm) 少量
- 7 黒褐色土 黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・焼土ブロック (φ3~5mm) 少量



第150図 第181号住居跡



第151図 第181号住居跡出土遺物



第182号住居跡

1 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土粒子・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量

カマド  
2 黒褐色土 10YR3/1 焼土ブロック (φ2~5mm) 含む 炭化物粒子 (φ1~3mm) 多量  
3 灰色土 N5/0 灰層

第183号住居跡

4 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量

ピット1  
5 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・焼土ブロック (φ2~10mm) ・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量

6 黒色土 2.5Y2/1 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) ・焼土ブロック (φ2~5mm) ・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量

7 黄灰色土 2.5Y4/1 黄褐色土ブロック (φ3~15mm) 多量

第183P1

5 黄褐色土 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量  
6 黒褐色土 (φ2~5mm) 含む 炭化物粒子 (φ1~3mm) 多量  
7 灰色土 (N5/0) 灰層

ピット2

8 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土ブロック (φ2~5mm) ・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量

9 オリーブ黒色土 5Y3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 少量 粘性あり  
10 灰色土 5Y4/1 黄褐色土ブロック (φ3~15mm) 多量 粘性あり

第152図 第182・183・193号住居跡

第184号住居跡 (第145図)

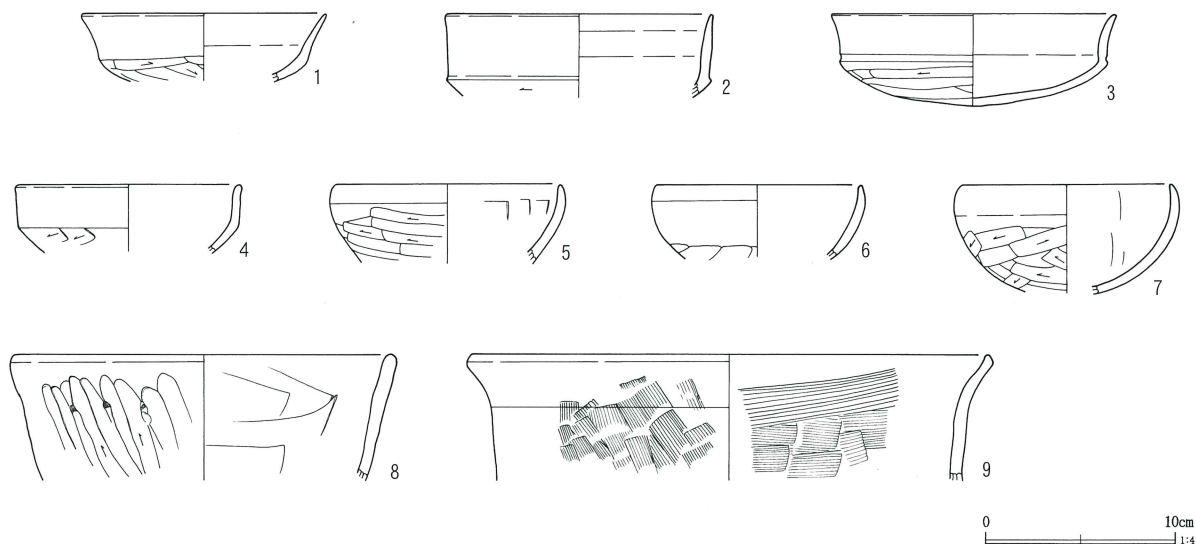
G-33グリッドに位置する。第180号住居跡、第2・601号溝跡に切られている。

検出されたのは北コーナー部のみで、北東壁の長さは2.8m、北西壁の長さは2.6mである。埋土は一層で浅く、確認面から床面までの深さは5cmである。北東壁を基準とした傾きはN-47°-Wである。

壁溝はほぼ巡っているが、掘り込みは浅い。幅10~18cm、深さ5~8cmである。ピットなど、他の施設は検出されなかった。

出土遺物は少なく、いずれも土師器の破片である。図示できる遺物はなかった。

本住居跡の時期は不明であるが、古墳時代後期に属する可能性がある。



第153図 第182・183号住居跡出土遺物

第185号住居跡 (第155図)

H-34・35グリッドに位置する。第192・212・213・214号住居跡、第588号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第192・212号住居跡より新しい。第213・214号住居跡との関係は明らかにできなかった。

形状は正方形に近く、規模は東南-西北4.4m、南西-北東4.3mである。埋土の残りは浅く、確認面から床面までの深さは13cmである。主軸方向はN-67°-Eである。

カマドは北東壁に設けられている。燃烧部の掘り込みはなく、床面からわずかにくぼむ程度である。煙道は短く、先端は底がピット上に掘り下げられている。袖は粘土を貼り付けて構築されている。袖先

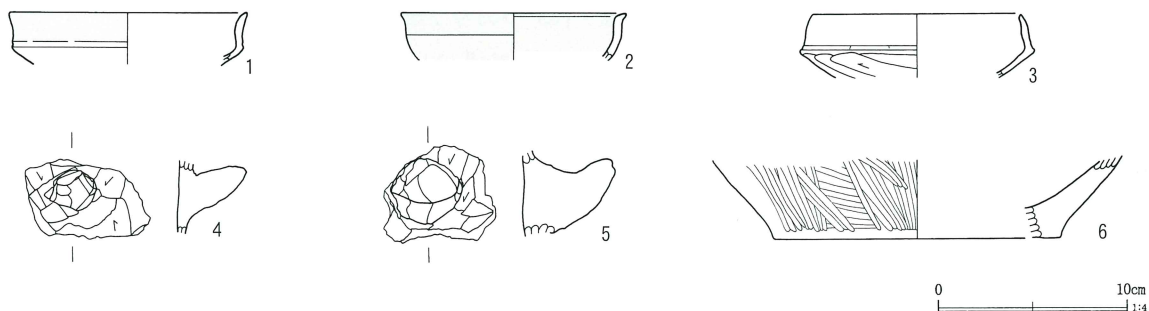
端から煙道までの長さは103cm、焚口の幅は65cmである。被熱面はほとんどない。底には炭化物の堆積が認められ、その上に天井部の崩落土が認められた。

ピットは3基検出された。いずれも掘り込みは浅く、柱痕は検出されなかった。ピットの深さはP1から順に20cm、13cm、36cmである。

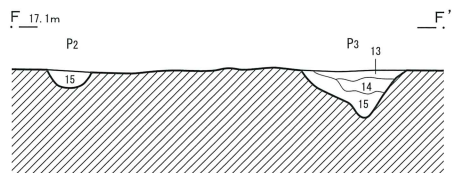
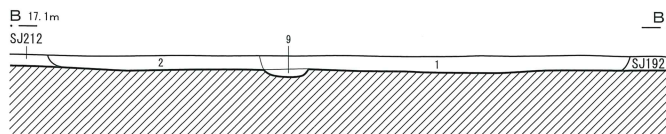
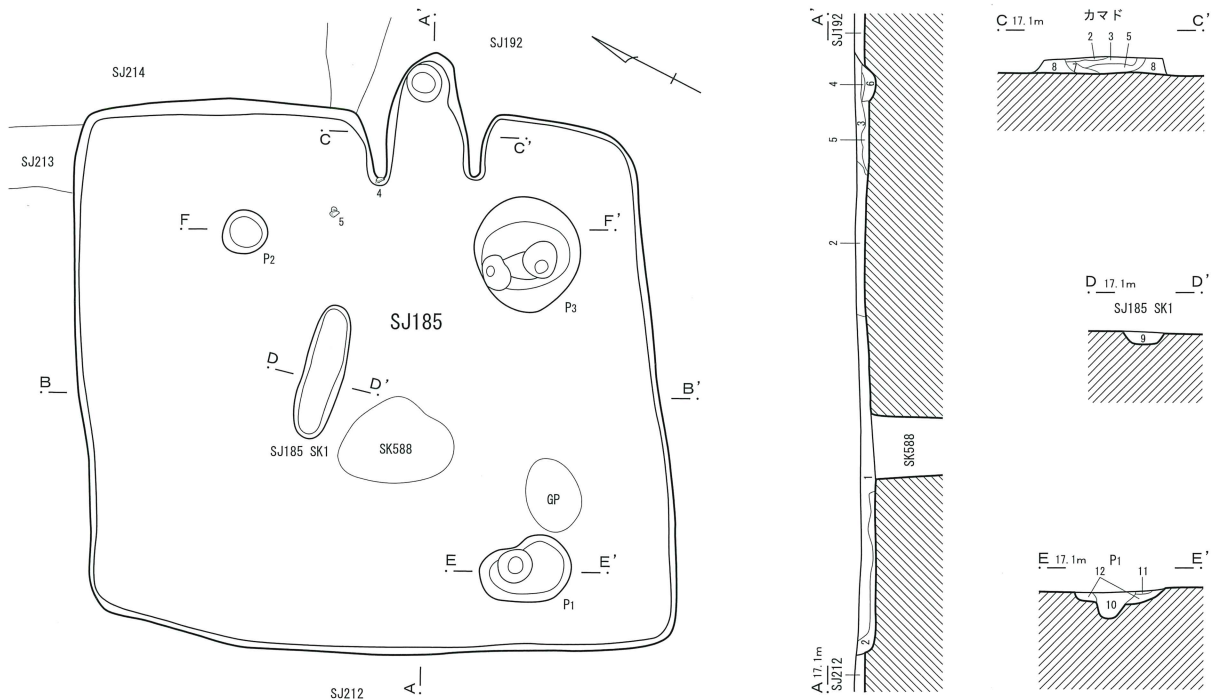
中央部から溝状の浅い掘り込みが検出された。規模は108×32cm、深さは9cmである。用途は不明である。

出土遺物は少なく、すべて破片である。土師器杯・甑（取っ手部）などが出土した。

本住居跡の時期は下田町Ⅸ期である。



第154図 第185号住居跡出土遺物



第185号住居跡

- |     |       |          |                       |                         |
|-----|-------|----------|-----------------------|-------------------------|
| 1   | 黒褐色土  | 7.5YR3/1 | 焼土粒子・炭化物粒子少量          | しまりややあり                 |
| 2   | 灰黄褐色土 | 10YR4/2  | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量     | しまりややあり<br>粘性あり         |
| カマド |       |          |                       |                         |
| 3   | 黒褐色土  | 5YR2/1   | 焼土粒子 (φ3~15mm) 少量     | しまりあり<br>粘性ややあり (天井崩落土) |
| 4   | 灰褐色土  | 7.5YR4/2 | 焼土粒子少量                | しまり・粘性ややあり              |
| 5   | 黒褐色土  | 7.5YR3/1 | 炭化物層                  | しまり・粘性なし                |
| 6   | 黒褐色土  | 7.5YR3/1 | 下部にローム粒子少量            | しまりややあり<br>粘性弱い         |
| 7   | 灰褐色土  | 7.5YR4/2 | しまりあり                 | 粘性ややあり                  |
| 8   | 黄褐色土  |          |                       | (カマド袖)                  |
| 9   | 黒褐色土  | 10YR3/1  | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | しまり・粘性ややあり              |

ピット1

- |    |       |         |                       |                  |
|----|-------|---------|-----------------------|------------------|
| 10 | 黒褐色土  | 10YR3/2 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | しまり<br>ややあり 粘性あり |
| 11 | 黒褐色土  | 10YR3/1 |                       | しまりあり 粘性ややあり     |
| 12 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ロームブロック (φ10~20mm) 少量 | しまり<br>・粘性あり     |

ピット2・3

- |    |      |          |                   |                 |
|----|------|----------|-------------------|-----------------|
| 13 | 黒褐色土 | 7.5YR3/1 | 焼土粒子 (φ1~2mm) 少量  | しまりあり<br>粘性ややあり |
| 14 | 黒褐色土 | 10YR3/2  | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 | しまりあり<br>粘性ややあり |
| 15 | 暗褐色土 | 10YR3/3  | ローム粒子 (φ1~5mm) 少量 | しまりややあり<br>粘性あり |



第155図 第185号住居跡

第186号住居跡 (第156図)

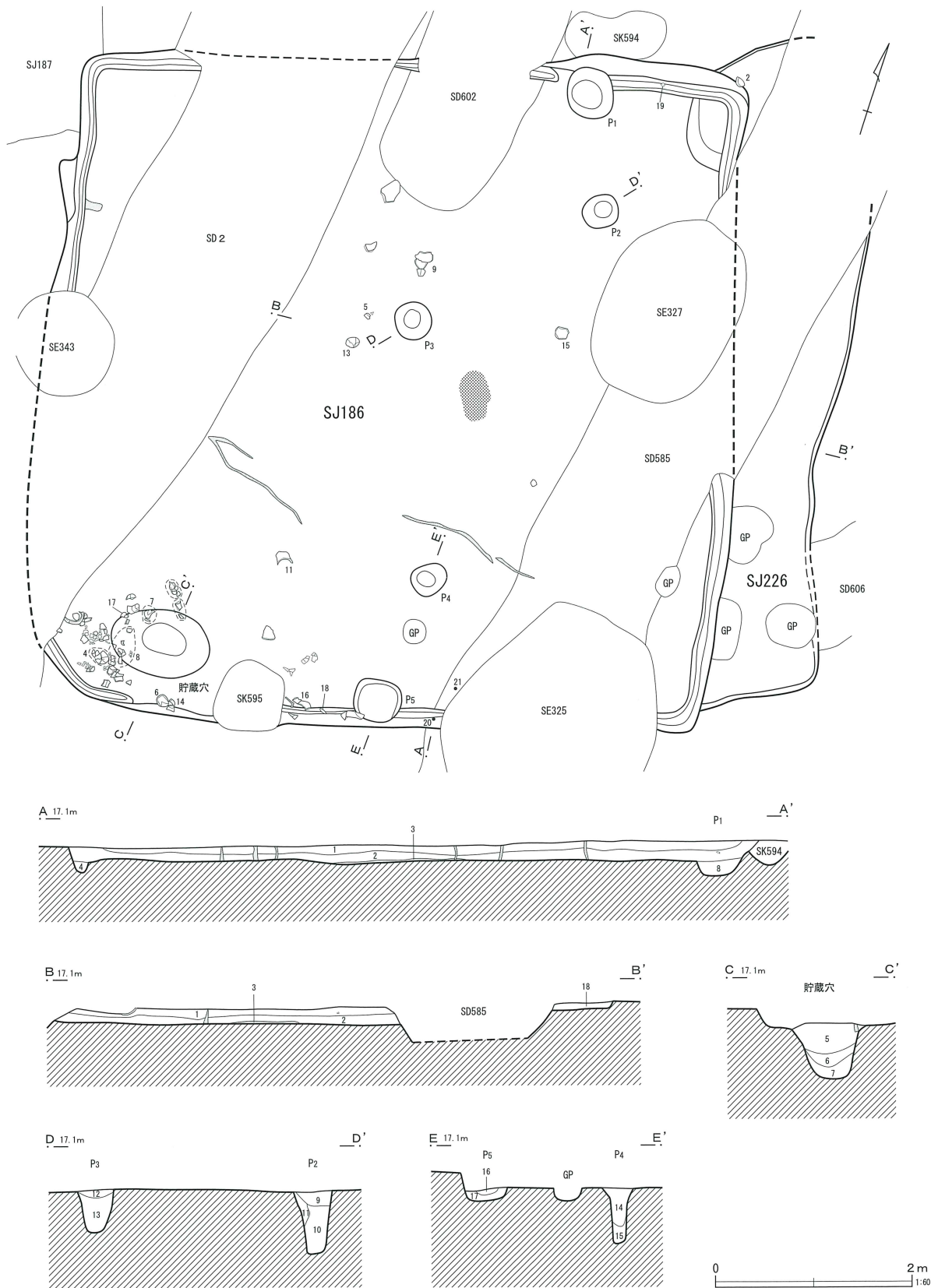
G・H-33グリッドに位置する。第187・226号住居跡、第2・585・602号溝跡、第594・595号土坑、第325・327・343号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第187・226号住居跡より新しいと考えられる。

形状は正方形に近い方形で、規模は東西6.7m、南

北6.8mである。確認面から床面までの深さは20cmである。東壁を基準とした傾きはN-14°-Wである。

床面は硬く踏みしめられているが、貼床はされていない。中央の床面直上に炭化物の薄い層が堆積している。床面の一部には被熱する箇所も検出された。

貯蔵穴は南西コーナーに検出された。規模は



第156図 第186・226号住居跡



第186号住居跡

1	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
2	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・ブロック (φ3~10mm) 多量
3	黒褐色土	10YR3/1	炭化物多量 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 含む 焼土ブロック (φ2~3mm) 少量
4	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量
5	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 多量 焼土ブロック (φ3~5mm) 少量
6	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 少量
7	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
8	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
9	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 多量

10	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量
11	明黄褐色土	10YR6/6	地山土 (黄褐色土) 主体 (掘り方)
12	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
13	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
14	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む 焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
15	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
16	黒色土	10YR2/1	焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 炭化物多量
17	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
18	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量

第226号住居跡

18	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
----	------	---------	--

100×67cm、バケツ状の掘り込みで底はやや丸みを帯びる。深さは52cmである。

壁溝は検出された壁にはほぼ巡っている。幅10~33cm、深さ6~10cmである。

ピットは5基検出された。このうちP2は柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から順に14cm、63cm、43cm、55cm、12cmである。

出土遺物は多く、特に貯蔵穴付近と南壁際から残りの比較的良好な土器や、石製模造品・白玉が出土している。土器には土師器環・甕・甌などがある。

本住居跡の時期は下田町VII期である。

第187号住居跡 (第158図)

F・G-32・33グリッドに位置する。第186・189・194号住居跡、第600・601号溝跡、第332・339・345号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第186・194号住居跡より古く、第189号住居跡より新しい。地震による噴砂の影響を受け、たわみや段差が目立つ。

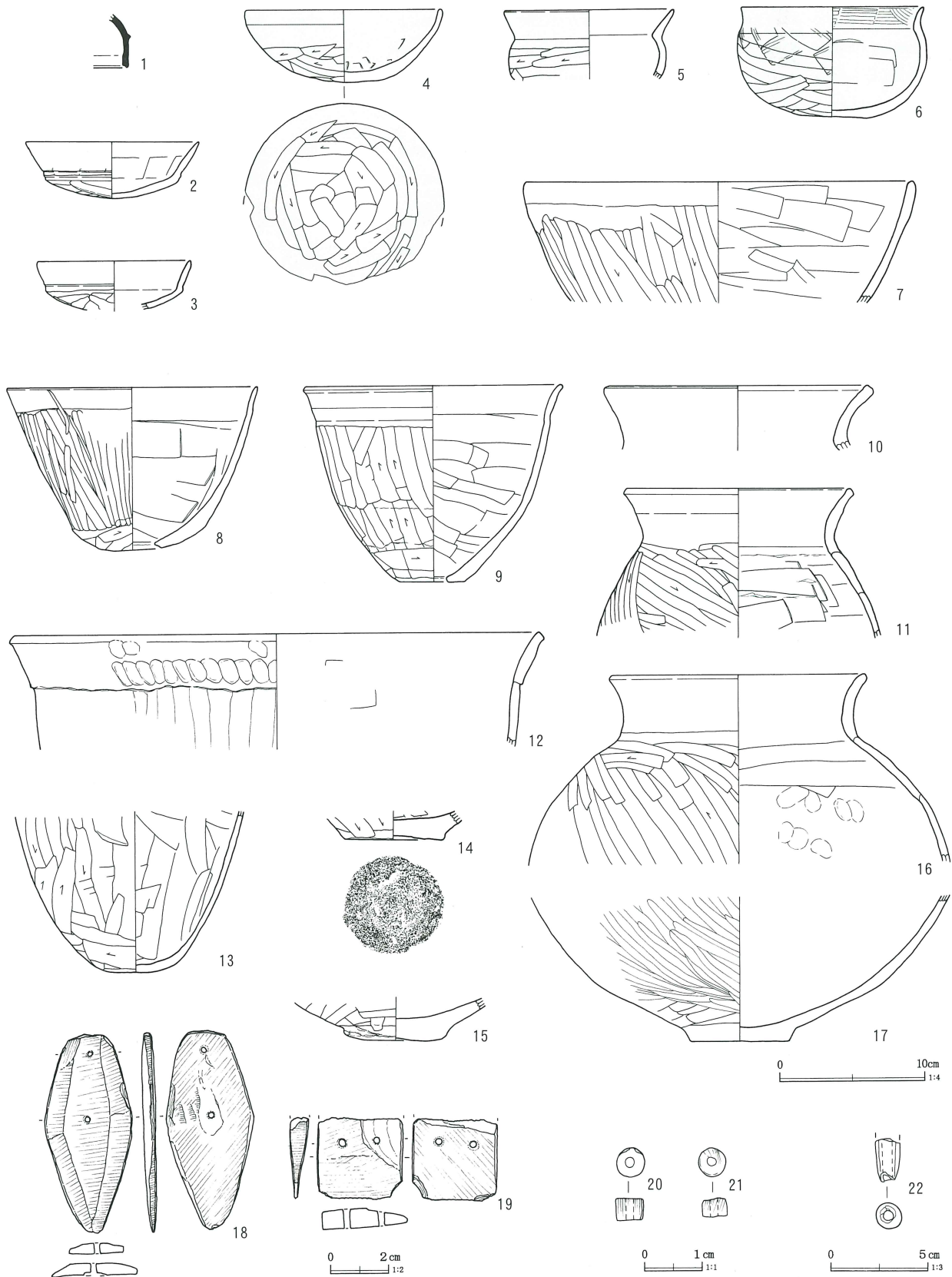
形状は方形で、規模は南北の最大で6.5mである。西壁は確認できなかったため東西規模は不明であるが、6.5mほどになり、調査区域外にはかからないものと推定される。埋土の残りは深く、確認面から床面までの深さは30cmである。南壁を基準とした傾きはN-69°-Eである。

壁溝の検出された部分は、幅8~27cm、深さ4~9cmである。西壁は確認できなかった。

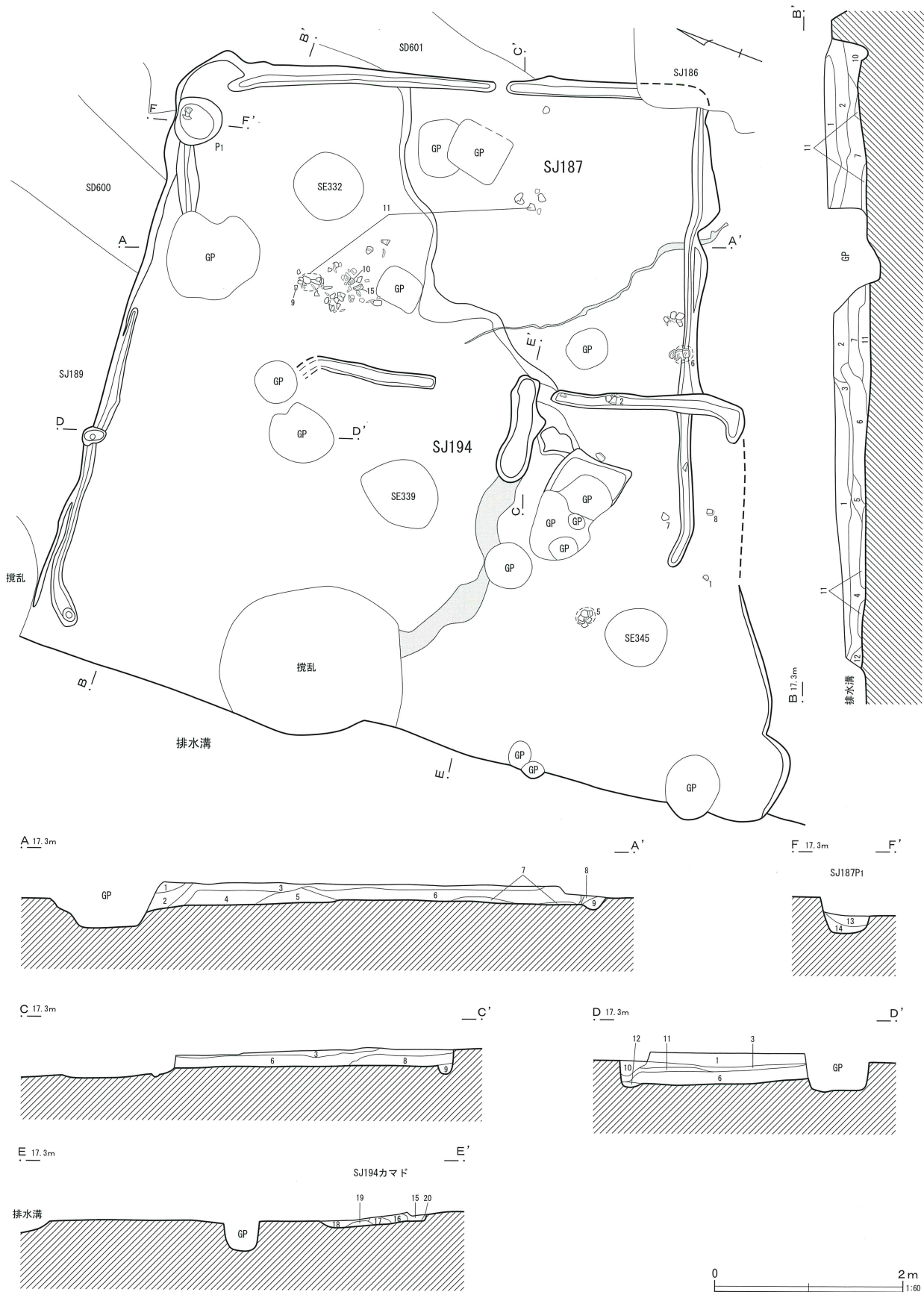
北東隅にピットが1基検出された。ピットの深さは19cmである。柱穴は検出されなかった。

出土遺物は破片が多く、接合率は低い。土師器の破片が中央付近でまとまって出土した。須恵器蓋、土師器環・高環などがある。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第157图 第186号住居跡出土遺物



第158図 第187・194号住居跡

第187号住居跡

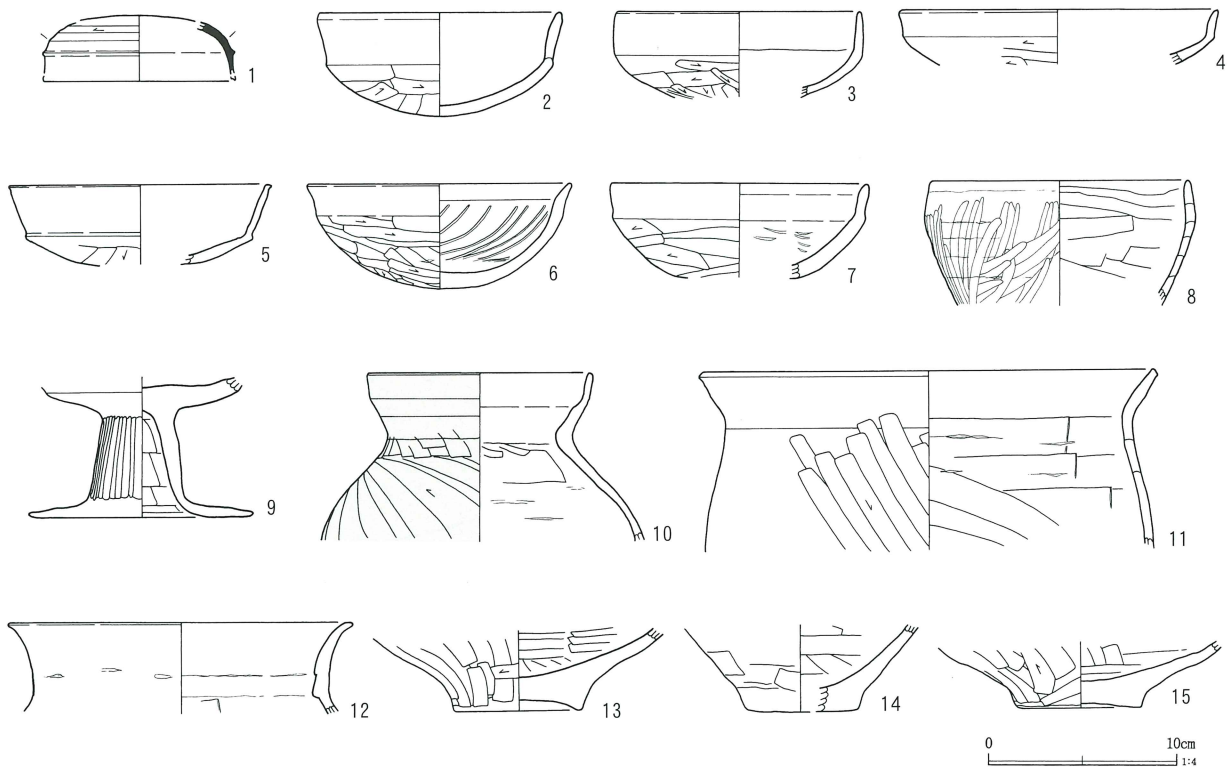
1	黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック微量	焼土ブロック・炭化物粒子多量
2	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック微量	焼土ブロック少量 炭化物粒子多量
3	暗灰黄色土	2.5Y4/2	地山ブロック (φ1~20mm) 多量	焼土ブロック少量 炭化物粒子微量
4	黒褐色土	10YR2/3	地山ブロック (φ1~20mm) 多量	焼土ブロック微量
5	黒褐色土	10YR3/2	地山ブロック (φ1~10mm) 多量	焼土ブロック少量
6	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック (φ1~40mm) 多量	焼土ブロック少量 炭化物粒子含む
7	黒色土	5Y2/1	地山ブロック多量	
8	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック多量	
9	黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック (φ1~10mm) 含む	
10	黒褐色土	10YR2/3	地山ブロック (φ1~5mm) 焼土	ブロック微量
11	黒色土	5Y2/1	地山ブロック (φ1~40mm) 多量	焼土ブロック微量 炭化物粒子含む
12	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック (φ1~5mm) 少量	焼土ブロック微量

ビット1

13	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 (埋め戻し)
14	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量

第194号住居跡カマド

15	黒色土	5Y2/1	地山ブロック (φ1~5mm) ・焼土ブロック少量
16	黒色土	10Y2/1	地山ブロック少量 焼土ブロック多量 炭化物粒子含む
17	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~5mm) 少量 焼土ブロック多量 炭化物粒子含む
18	黒色土	N1.5	地山ブロック微量 焼土粒子少量 炭化物粒子多量
19	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック (φ1~5mm) ・焼土粒子少量 炭化物粒子含む
20	オリーブ黒色土	7.5Y2/2	地山ブロック少量



第159図 第187号住居跡出土遺物

第188号住居跡 (第160・161図)

F・G-32グリッドに位置する。第189・190・191・223・264・267・268号住居跡、第600号溝跡と重複する。切り合い関係は、第600号溝跡よりも古く、切り合うすべての住居跡の中ではもっとも新しい。

確認面を精査しても平面形が把握できなかったため、ベルトを設定し、周辺の住居跡と同時に掘り下

げた。形状は東西に長い長方形を呈し、土層断面によって推測される南東-北西の規模は6.0m、東北-西南の検出範囲は9.0mである。埋土は二層で、短期間に埋没した状況を示している。確認面から床面までの深さは18cmである。主軸方向はN-33°-Wである。

カマドは北西壁に構築されている。燃焼部の掘り

込みはなく、土製支脚が燃焼部中央に立って出土した。底は煙道部へとゆるやかに浅くなる。規模は、燃焼部から煙道部の長さ約150cm、焚口の幅は42cmである。底には灰層(9層)が、天井部の崩落土(6・8層)がその上に堆積していた。袖は黄褐色粘土で構築され、壁溝は北壁のカマド左側に検出された。幅10~15cm、深さ4~6cmである。

出土遺物は多いが、破片が主で接合率は低い。須恵器蓋、土師器坏・甕・甑などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。

#### 第189号住居跡 (第160・161図)

F・G-32グリッドに位置する。第187・188・203・223号住居跡、第600号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第187・188号住居跡よりも古く、第203・223号住居跡との関係は把握できなかった。

第188号住居跡の下に重なって検出された住居跡である。方形を呈し、規模は東西推定で4.6m、南北は4.5mまで検出された。確認面(第188号住居跡床面)から床面までの深さは7cmである。主軸方向はN-60°-Eである。

カマドは東壁に構築されている。燃焼部は楕円形に掘り込まれ、規模は推定で50×40cm、床面からの深さは15cmである。袖は検出されなかった。焚口に近い部分の床面は円く被熱していた。煙道部はほとんど削平されており、長さ30cmほどが検出された。先端は第203号住居跡によって切られている。

壁溝は北~西壁に巡り、幅5~18cm、深さ4~7cmである。床面には北壁に平行して幅約1.2mのところの浅い段が見られ、拡張された痕跡かもしれない。同じく並行して壁溝よりやや幅広で浅い溝が検出されたが、性格は不明である。西壁のラインから内側で南北に伸びる溝跡は、あるいは西側調査区域外にある住居跡の壁溝の可能性もあるが、攪乱のため明確にできなかった。

遺物はカマドの焚口付近からまとまって出土している。土師器坏・高坏・甕などがある。

本住居跡の時期はカマド出土の土器から下田町Ⅳ期と考えられる。

#### 第190号住居跡 (第160・161図)

F-31・32グリッドに位置する。第188・191号住居跡、第590号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第188号住居跡よりも古く、第191号住居跡より新しい。西側は調査区域外にかかる。

形状は方形である。第188号住居跡と重なる部分では土層断面で掘り方が確認された。それを基にした規模は南東-北西4.2mである。確認面から床面までの深さは13cmである。北東壁を基準とした傾きはN-41°-Wである。

壁溝は北コーナーを中心に検出された。掘り込みは浅く、幅12~30cm、深さ3~7cmである。

ピットは2基検出された。配置としては柱穴の位置にあるが、柱痕は見られない。P2からは土師器甕が出土した。ピットの深さはP1から順に22cm、43cmである。

出土遺物はP2出土の土師器甕以外は、すべて埋土から出土した。

本住居跡の時期は下田町Ⅳ期である。

#### 第191号住居跡 (第160・161図)

F-32グリッドに位置する。第188・190・264・267号住居跡と重複する。切り合い関係ではもっとも古い住居跡である。

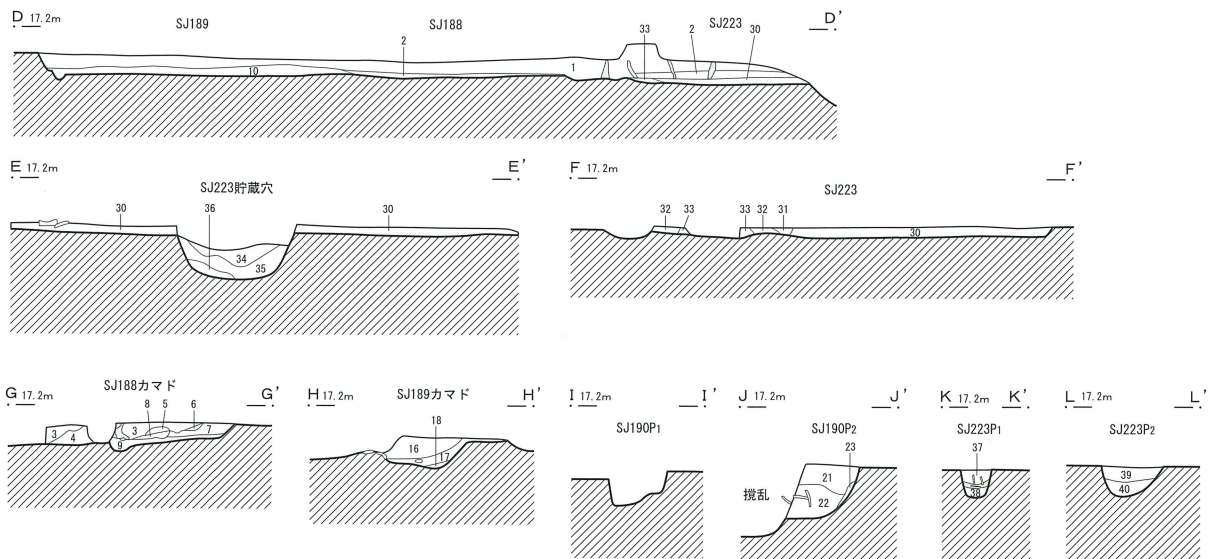
北西壁の一部のみが検出された住居跡で、その形状・規模ともに不明である。検出された範囲は、南東-北西に2.2mである。確認面から床面の深さは19cmである。埋土は自然堆積と考えられる。

壁溝は浅く、幅8~12cm、深さ3~4cmである。

遺物は出土しなかった。

本住居跡の時期は不明であるが、切り合いから少なくとも下田町Ⅳ期以前の住居跡と推定される。





第188号住居跡		第191号住居跡	
1 暗褐色土	10YR3/3 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 多量 霜降状に近い炭化物粒子・焼土粒子少量	24 暗黄灰色土	2.5Y4/2 黄褐色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 少量
2 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 少量 炭化物粒子・焼土粒子多量	25 暗黄灰色土	2.5Y4/2 黄褐色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 全体に多量 霜降状 焼土粒子・炭化物粒子少量
カマド		26 明黄褐色土	10YR6/6 黄褐色粘土と褐色土の混土层 (壁崩落土)
3 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 全体に多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量	27 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 少量
4 褐灰色土	10YR4/1 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 全体に多量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量	28 灰黄褐色土	10YR5/2 黄褐色粘土粒子 (φ1~2mm) 多量 27より少量・暗い
5 褐灰色土	10YR5/1 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 灰層	29 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土粒子 (φ1~2mm) 多量 28より多量・明るい
6 灰黄褐色土	10YR4/2 暗褐色土との混土层 (天井崩落土)	第223号住居跡	
7 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量	30 灰黄褐色土	10YR5/2 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 埋め戻し 硬い
8 灰黄褐色土	10YR4/2 暗褐色土との混土层 (天井崩落土)	31 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土粒子 (φ1~2mm) 少量
9 褐灰色土	10YR4/1 灰多量 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量	32 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土粒子 (φ1~2mm) 少量 焼土粒子少量
第189号住居跡		33 にぶい黄褐色土	10YR5/3 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 多量 焼土ブロック多量
10 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 全体に多量 炭化物粒子少量	貯蔵穴	
11 黒色土	7.5Y2/1 地山ブロック (φ1~20mm)・焼土ブロック微量	34 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土ブロック・炭化物粒子少量 埋め戻し
12 黒褐色土	2.5Y3/2 地山ブロック (φ1~40mm) 焼土ブロック少量 炭化物粒子含む	35 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量
13 灰オリブ色土	5Y5/3 地山ブロック多量 噴砂多量	36 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 炭化物やや多い
14 黒褐色土	2.5Y3/2 地山ブロック (φ1~20mm) 含む 焼土粒子微量	ピット1	
15 黒褐色土	10YR2/3 地山ブロック (φ1~5mm) 焼土ブロック微量	37 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量
カマド		38 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量
16 暗オリブ色土	5Y4/3 地山ブロック 炭化物粒子微量	ピット2	
17 オリブ黒色土	5Y3/1 焼土ブロック多量 炭化物粒子	39 褐灰色土	10YR4/1 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 (埋め戻し)
18 灰オリブ色土	7.5Y4/2 焼土ブロック多量	40 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 少量 焼土ブロック (φ3~5mm) 含む
第190号住居跡		ピット2	
19 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土粒子 (φ1~2mm) 少量 (壁溝)	39 褐灰色土	10YR4/1 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 (埋め戻し)
20 にぶい黄褐色土	10YR4/3 黄褐色粘土粒子 (φ1~2mm) 多量 (貼床)	40 灰黄褐色土	10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 少量 焼土ブロック (φ3~5mm) 含む
21 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土粒子・炭化物粒子少量	ピット2	
22 黒褐色土	10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 焼土粒子・炭化物粒子少量	ピット2	
23 にぶい黄色土	2.5Y6/3 灰黄色シルト多量	ピット2	

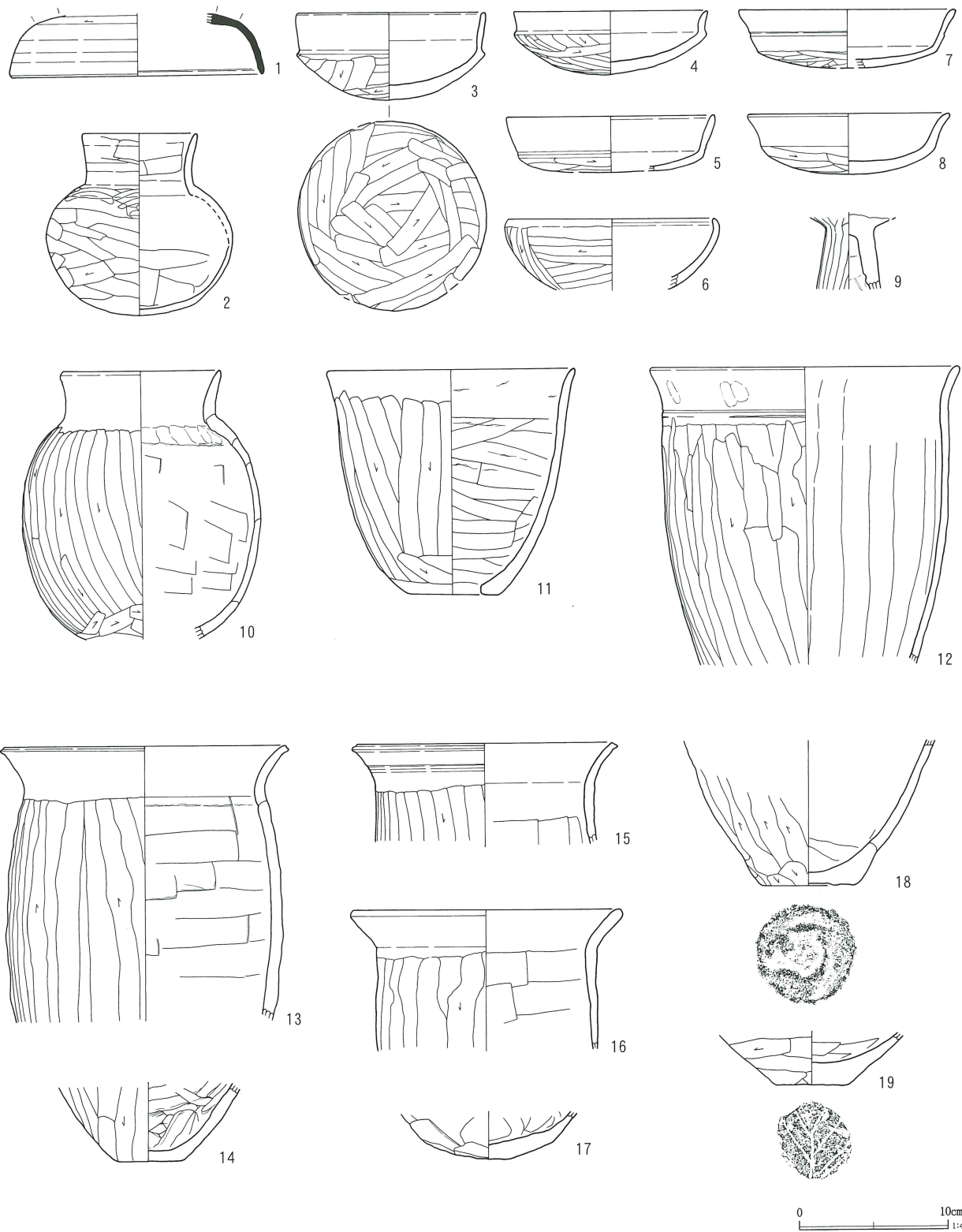
第161図 第188~191・223号住居跡 (2)

### 第192号住居跡 (第166図)

H-34・35グリッドに位置する。第174・185・202・205・212・237号住居跡、第588・606号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第185号住居跡よりも古く、第174・202・205・237号住居跡よりも新しい。第212号住居跡との切り合い関係は把握できなかった。

形状は東西に長い方形で、規模はともに推定で、東西5.4m、南北3.4mである。埋土は浅く一層である。確認面から床面までの深さは10cmである。東壁を基準とした傾きはN-20°-Wである。全体に残りの少ない住居跡で、当初は切り合う住居跡との区別がつかず、古い住居跡と一緒に掘り下げてしまった。

ピットなどの施設は検出されなかったが、第174



第162図 第188号住居跡出土遺物

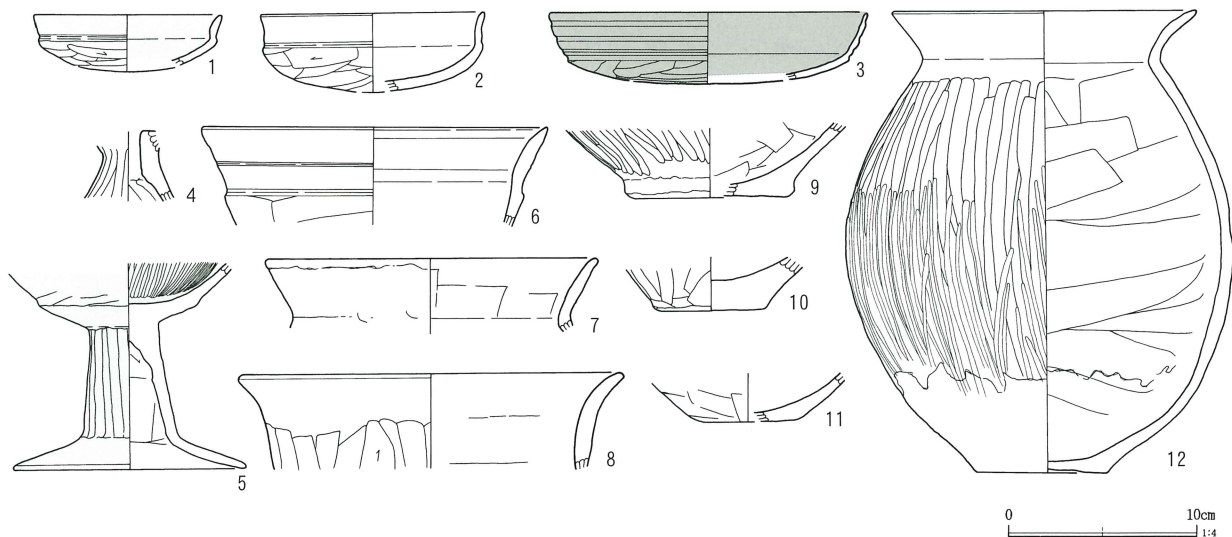
号住居跡の土層断面に南壁の壁溝の掘り込みが認められた。

出土遺物は少なくまばらで、土師器の小破片が数

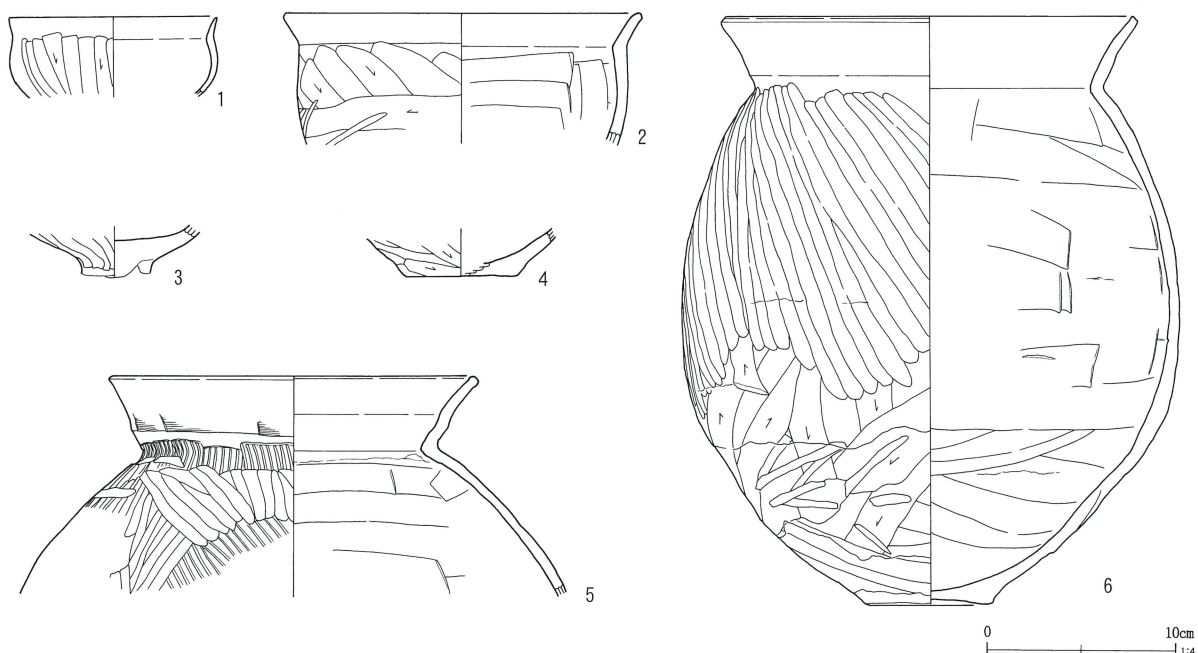
点出土したに過ぎない。

本住居跡の年代は不明であるが、切り合い関係から、古墳時代後期に属する可能性がある。





第163図 第189号住居跡出土遺物



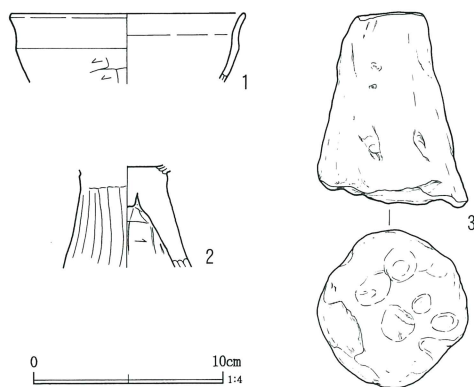
第164図 第190号住居跡出土遺物

第193号住居跡 (第152図)

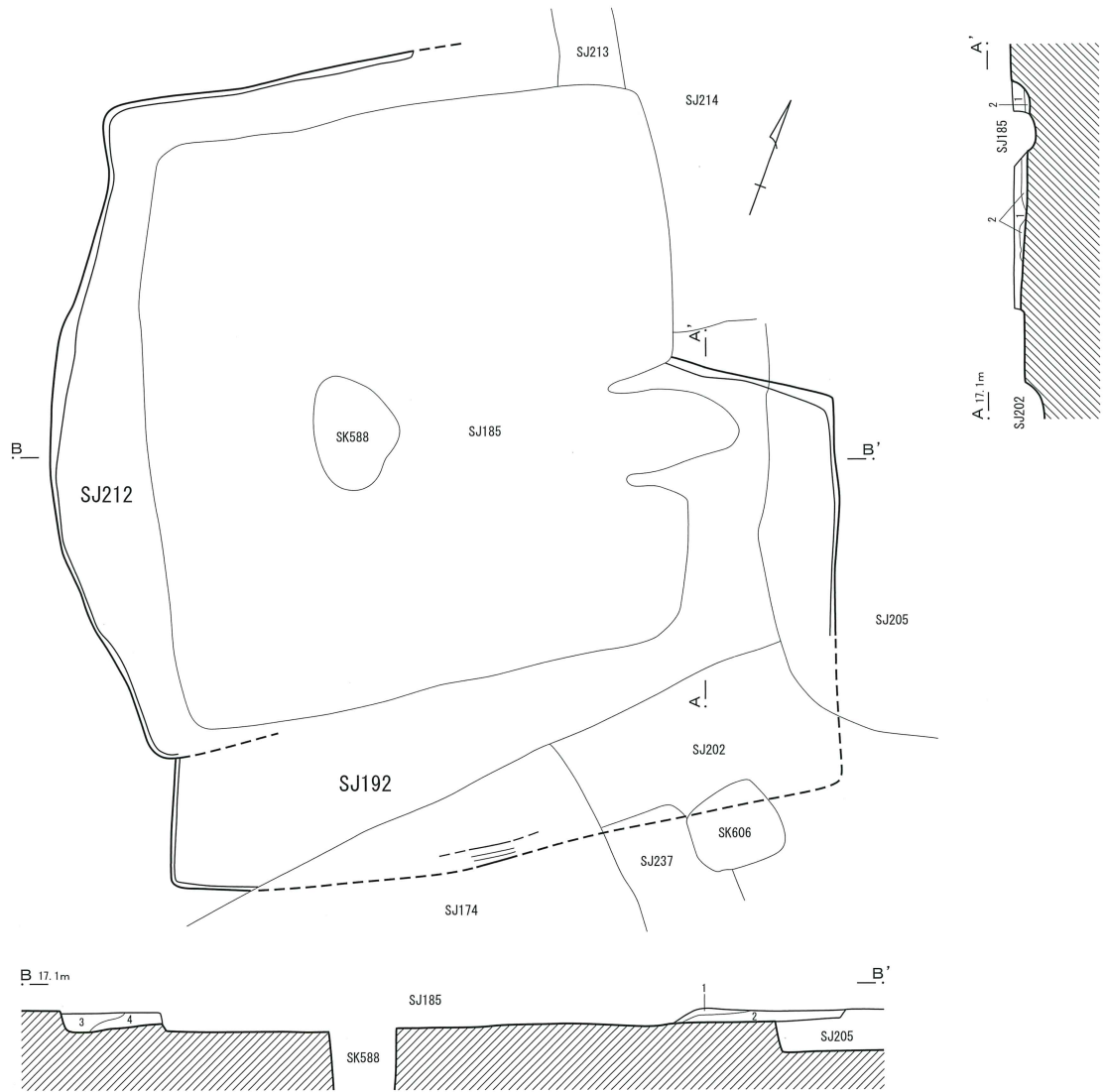
F-33・34グリッドに位置する。第181・182・183号住居跡と重複する。切り合い関係は把握できなかった。

カマドを含む東壁ラインのみが検出され、その大半は調査区域外にかかる。東壁の長さは2.7mである。確認面から床面までの深さは10cmである。主軸方向はN-78°-Eである。

カマドは、煙道の一部と燃焼部が検出された。煙



第165図 第193号住居跡出土遺物



- 第192号住居跡
- 1 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
  - 2 灰褐色土 7.5YR4/2 ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 第212号住居跡
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 しまりあり 粘性ややあり
  - 4 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり



第166図 第192・212号住居跡

道の長さは31cm、燃烧部は細長い楕円形を呈し、規模は115×49cmである。掘り込みは煙道に向けて徐々に浅くなり、緩やかな段を介して煙道へと続く。掘り込みのもっとも深い部分は25cmである。土製支脚が煙道寄り中央に立った状態で出土している。

壁溝は幅16~26cm、深さ4~5cmである。底がピット状に連続して深くなる。

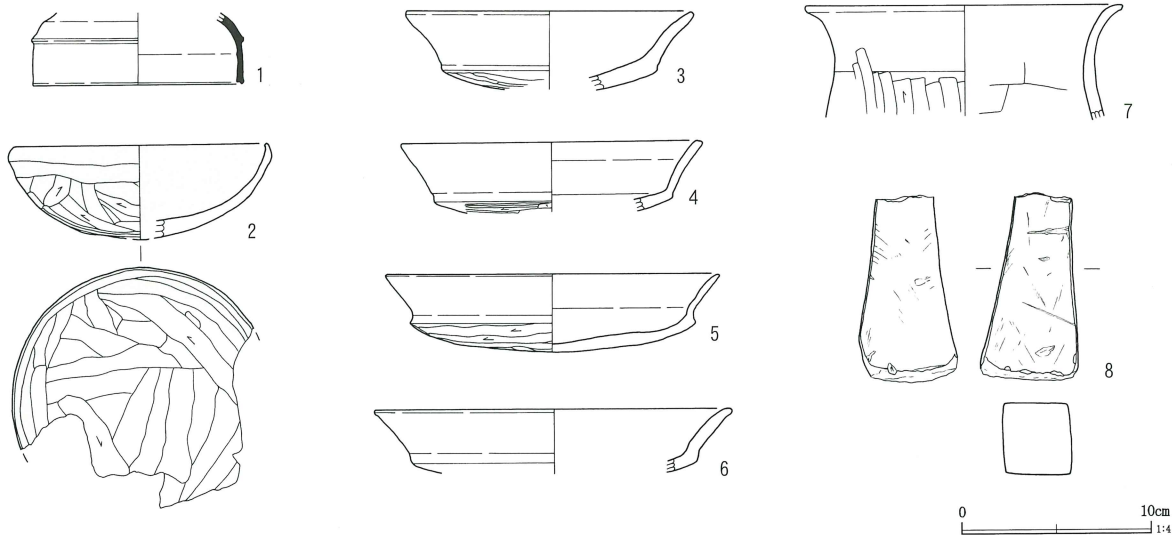
出土遺物は少なく、すべて破片である。図示できた土師器は2点のみである。

本住居跡の時期は下田町IV期である。

### 第194号住居跡 (第158図)

F・G-33グリッドに位置する。第187号住居跡、第339・345号井戸跡、第600号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は第187号住居跡よりも新しい。

第187号住居跡により埋土の大半が削られており、検出されたのはカマドと東壁溝のみである。地震による噴砂の影響を受け、床面には段差が生じている。形状は方形と考えられる。東壁溝の長さは4.6mである。南北の規模は不明であるが、調査区域外にかかるものと推定される。確認面から床面までの



第167図 第194号住居跡出土遺物

深さは、第187号住居跡と切り合わない部分で9cmである。主軸方向はN-75°-Wである。

カマドは、燃焼部の下半部のみ検出された。形状は細長い楕円形となる。掘り込みは緩やかで、規模は124×35cm、深さは9cmである。ピットの深さはP1から順に22cm、43cmである。

壁溝は幅13~20cm、深さ8~10cmである。

遺物は少なく、須恵器蓋、土師器杯・甕のほかに、砥石が出土している。

本住居跡の時期は下田町VII期である。

号住居跡、第2・600・601号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は把握できなかった。

第2号溝跡と第600号溝跡の間に位置し、東西をそれぞれの溝跡に切られている。方形を呈し、規模は南北6.4m、東西は3.6mまで検出された。確認面から床面までの深さは20cmである。西壁を基準とした傾きはN-4°-Wである。

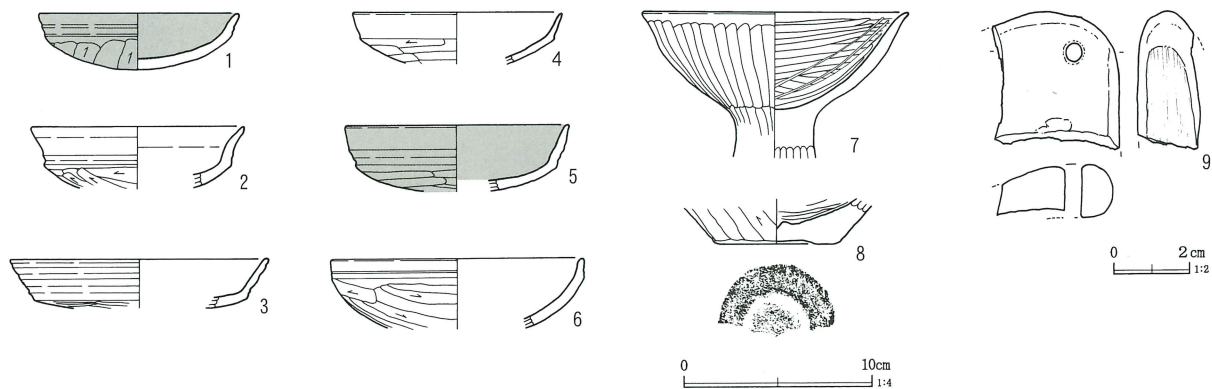
壁溝は検出された壁すべてに認められた。幅15~28cm、深さ8~15cmである。それ以外の施設は検出されなかった。

出土遺物は少ない。図示したのは土師器杯・高杯・甕などである。

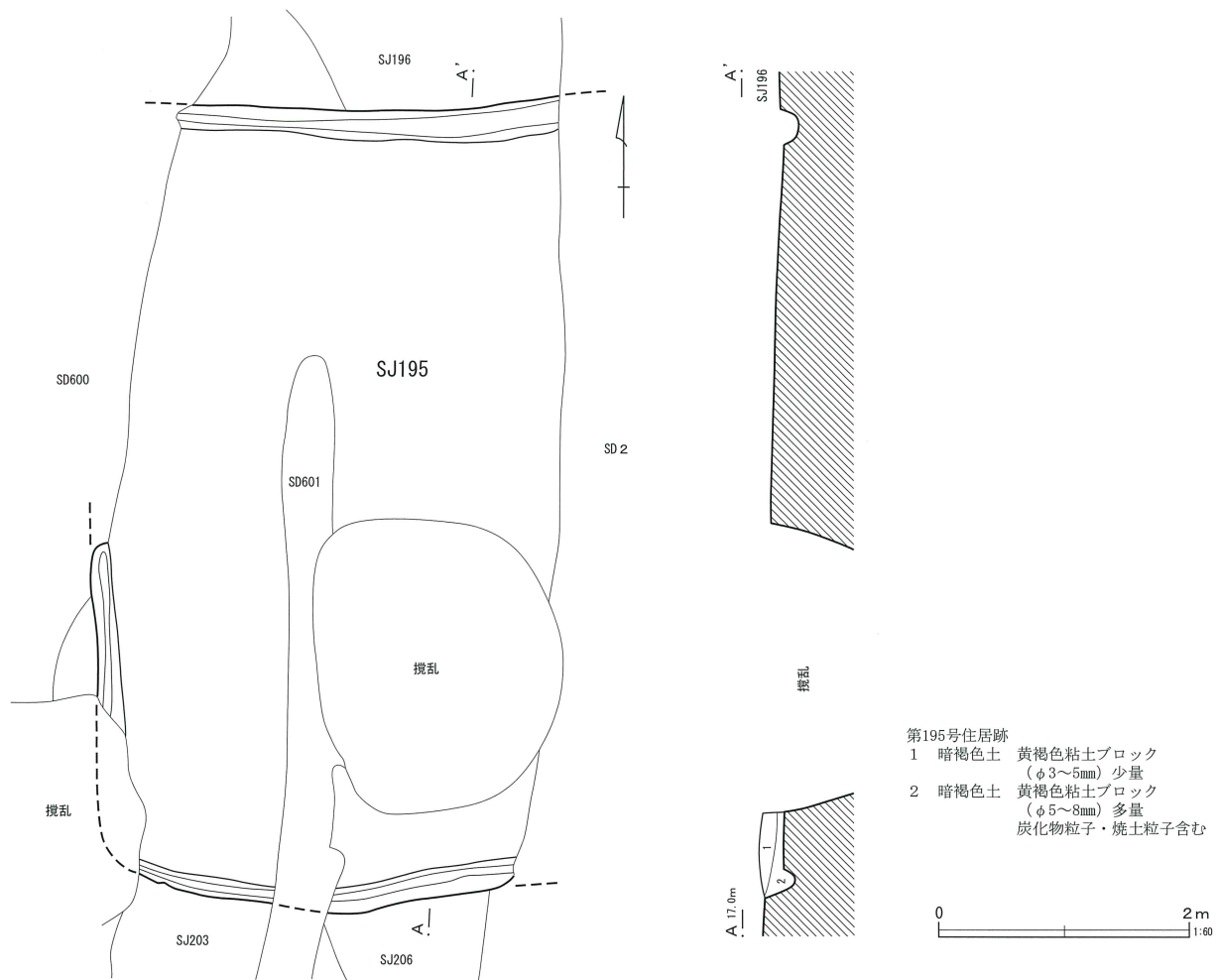
本住居跡の時期は下田町IX期である。

第195号住居跡 (第169図)

G-32グリッドに位置する。第196・203・206・223



第168図 第195号住居跡出土遺物



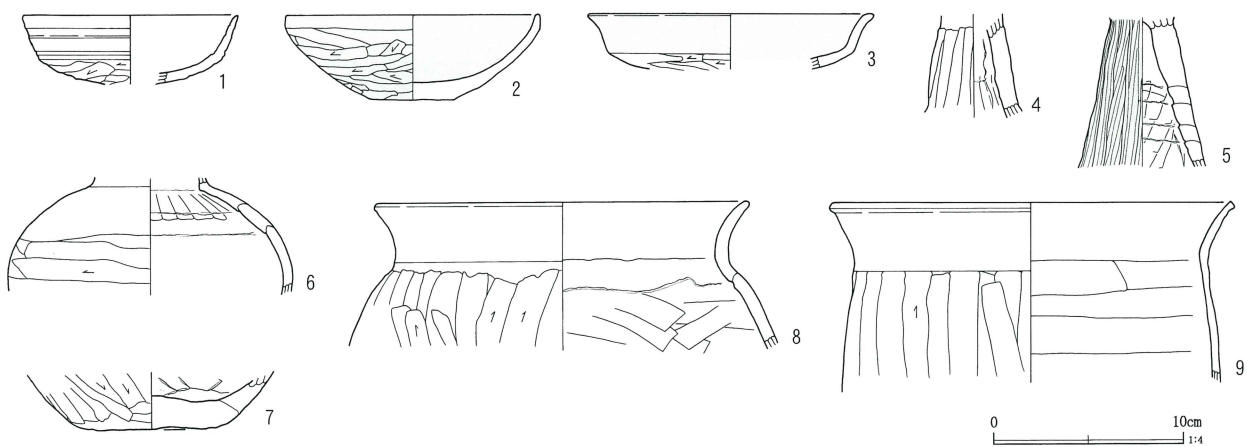
第169図 第195号住居跡

第196号住居跡 (第171図)

G-31・32グリッドに位置する。第195・269号住居跡、第2・600号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第269号住居跡より新しいと考えられる。

第195号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は方形で、規模は南東-北西4.7m、東北-南西は4.6mまで検出された。確認面から床面の深さは38cmである。南西壁を基準とした傾きはN-36°



第170図 第196号住居跡出土遺物

—Wである。

床面は踏み固められており、直上には炭化物の薄い堆積が認められた。

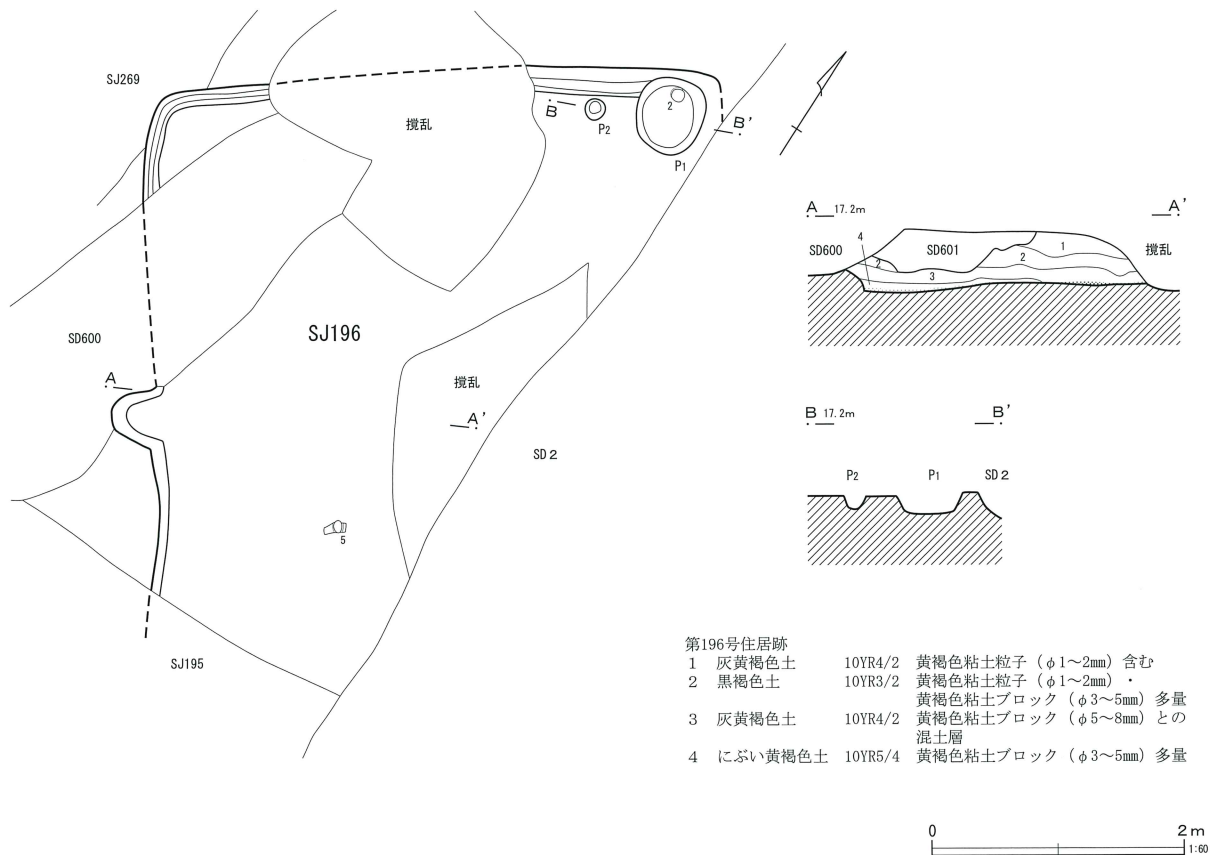
壁溝は北西壁に検出され、幅12~23cm、深さ4~10cmである。

ピットは北コーナーに2基検出された。ともに浅

く、性格は不明である。ピットの深さはP1から順に16cm、10cmである。

遺物は埋土から破片が多く出土した。土師器坏・高坏・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町VIII期である。



第171図 第196号住居跡

### 第197号住居跡 (第172・173図)

I-35グリッドに位置する。第126・240・248号住居跡、第335・340号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は把握できなかった。

規模は東西3.4m、北側は攪乱を受け、南北は2.5mまで検出された。確認面から床面までの深さは20cmである。主軸方向はN-82°-Eである。

床面は硬く明瞭で、部分的にはあるが、直上には炭化物層 (6層) が堆積していた。

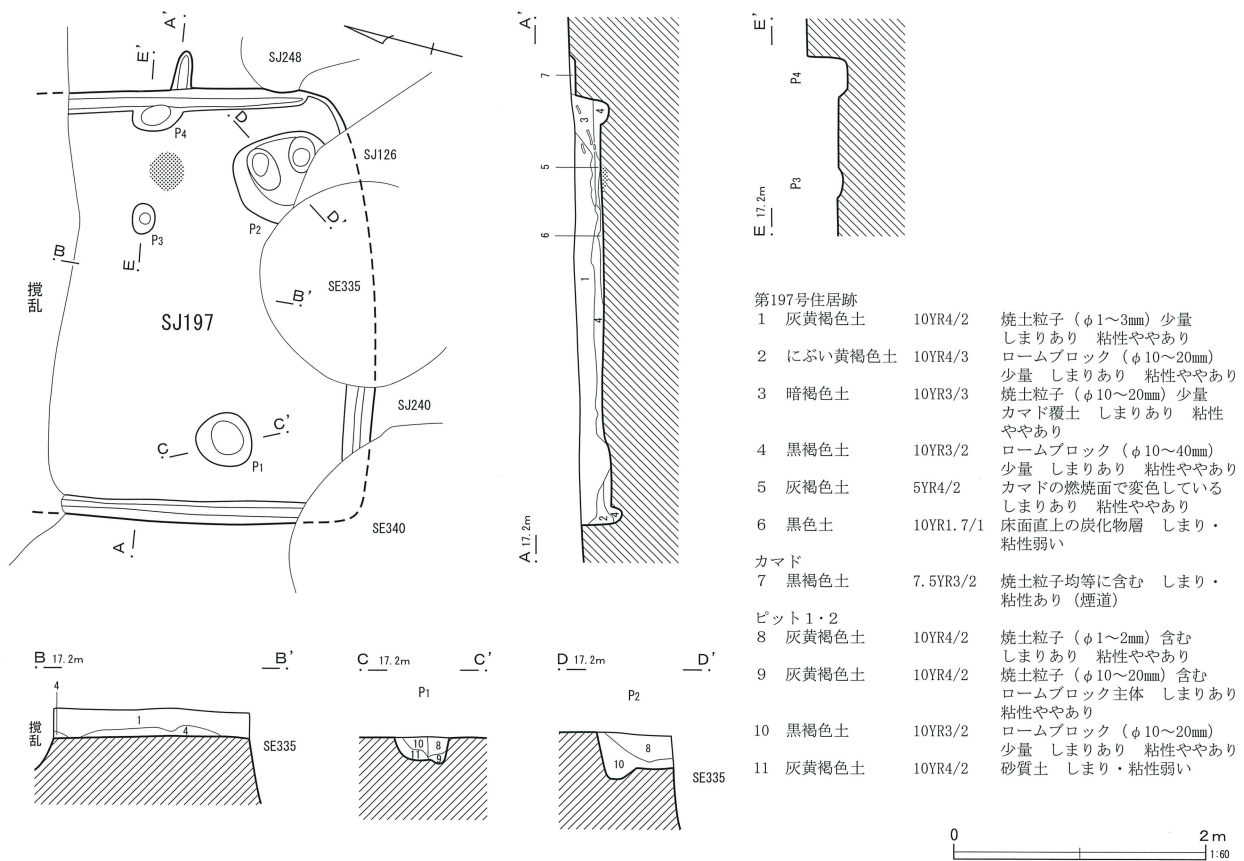
カマドは東壁に設けてあったものと考えられる。

残りは少なく、煙道の一部 (長さ30cm) と、焚口付近に当たる床面から被熱面が検出された。

壁溝は検出された壁ほぼすべてに巡っている。幅14~23cm、深さ6~9cmである。

ピットは4基検出された。P2はその位置や大きさから、貯蔵穴の可能性もある。ピットの深さはP1から順に20cm、35cm、4cm、9cmである。

出土遺物は多く、接合率が高い。おもに埋土の中位から良好な状態で出土した。土師器坏・高坏・甕・甗がある。



第172図 第197号住居跡

本住居跡の時期は下田町VII期である。

### 第198号住居跡 (第175図)

J-34・35グリッドに位置する。第149・201号住居跡、第585号溝跡、第347号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第201号住居跡よりも古く、第149号住居跡より新しい。

南コーナーの一角のみ検出された。形状は方形で、検出されたのは東北-西南4.5m、南東-北西4.4mである。埋土は浅く、確認面から床面までの深さは10cmである。南西壁を基準とした傾きはN-40°-Wである。

ピットは4基検出された。性格は不明である。ピットの深さはP1から順に10cm、31cm、20cm、46cmである。

出土遺物には土師器埴・高環がある。

本住居跡の時期は下田町III期である。

### 第199号住居跡 (第177・179図)

I-34グリッドに位置する。第231・239号住居跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第239号住居跡よりも新しいが、第231号住居跡との関連は把握できなかった。

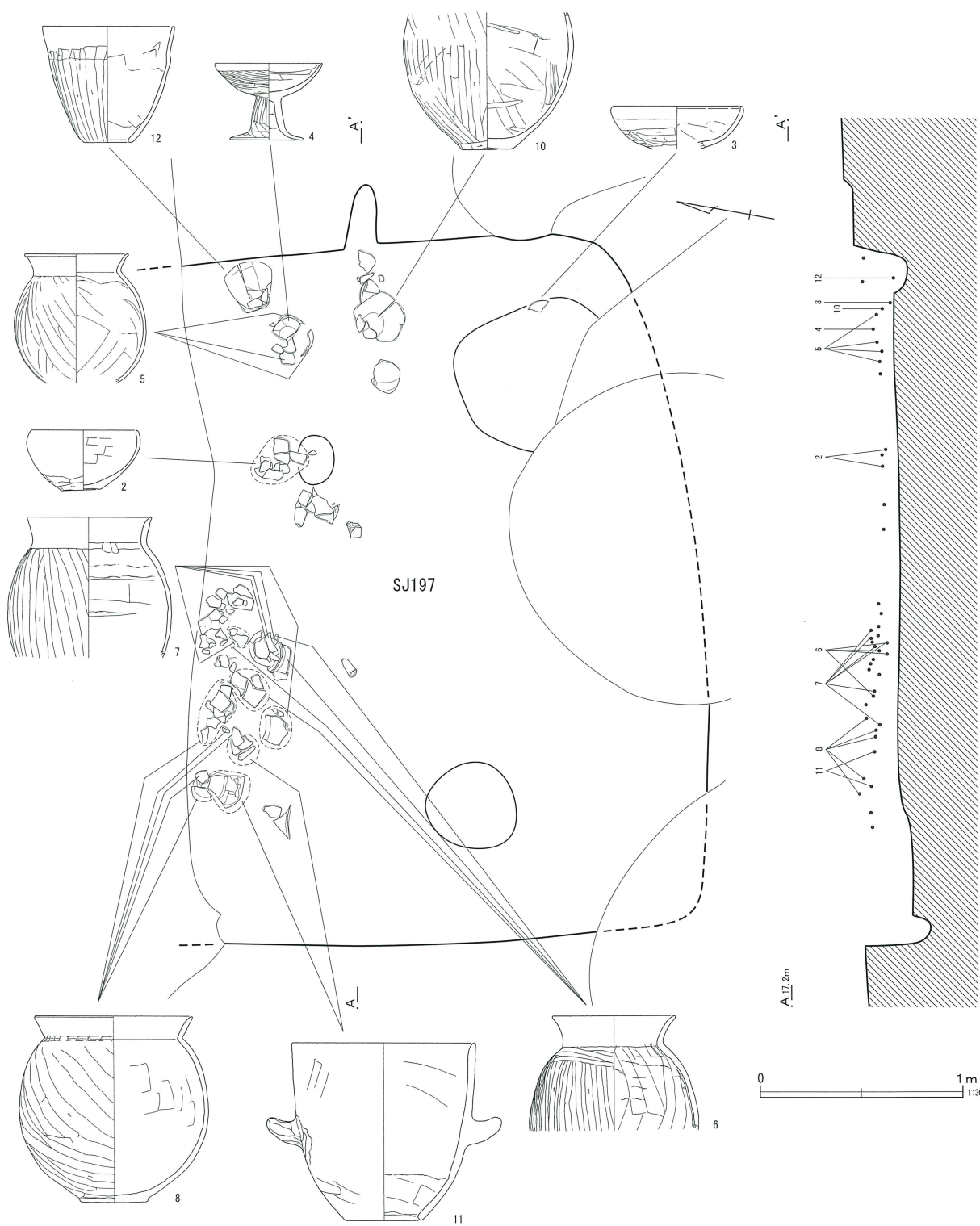
形状は正方形に近く、規模は東西2.9m、南北3.0mと小型の住居跡である。埋土の残りは浅く、確認面から床面までの深さは12cmである。主軸方向はN-41°-Eである。

壁の掘り込みは明瞭で、床面もよくしまっている。

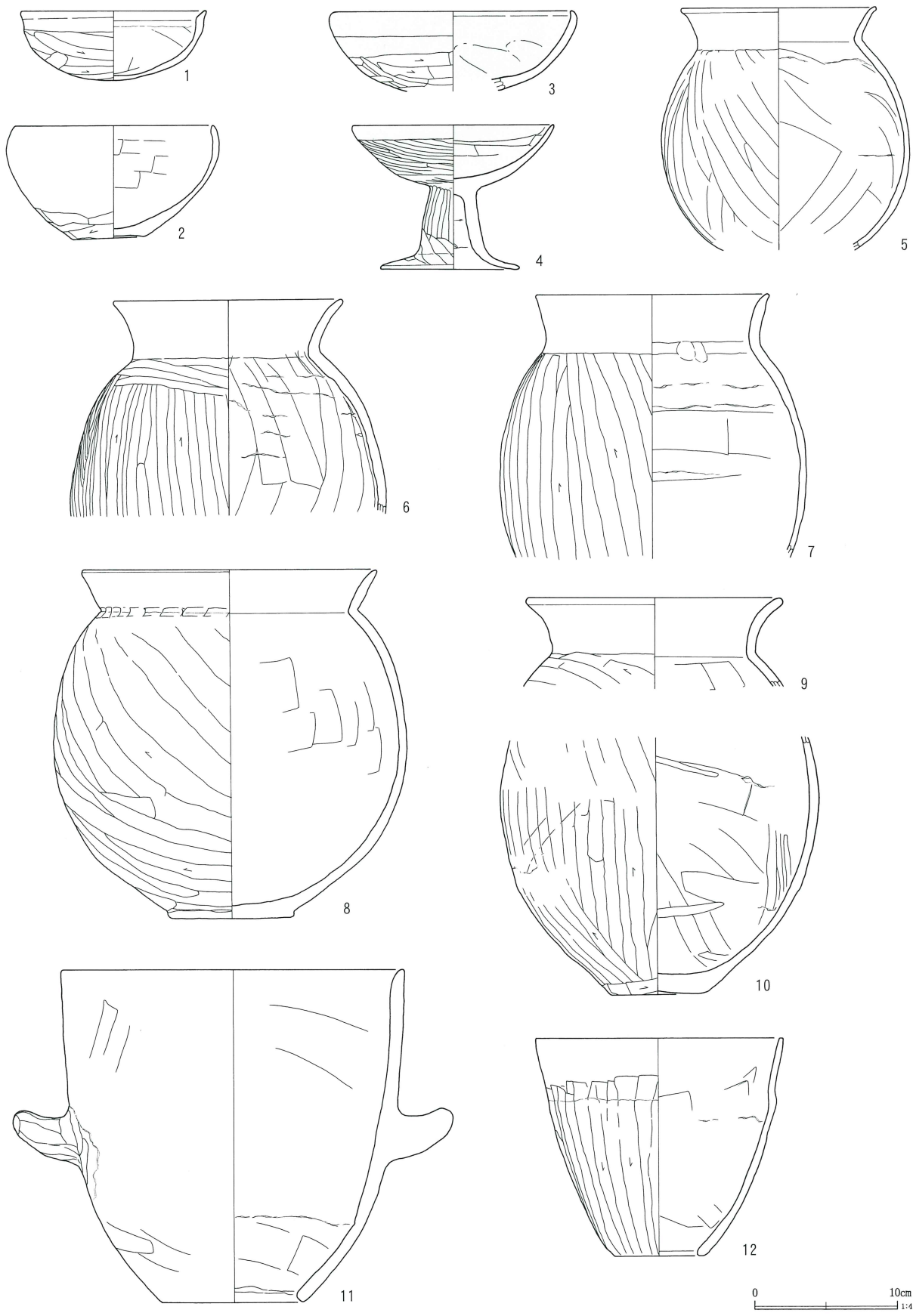
カマドは南西壁に設けられている。燃焼部は方形で、規模は長さ82cm、焚口の幅は40cm、床面からの掘り込みはほとんどない。袖は地山の掘り残し部分が残存し、内壁はよく焼けている。

壁溝の掘り込みはしっかりとしており、全周している。幅9~20cm、深さ3~14cmである。

ピットは3基検出された。P2は柱痕が認められ、

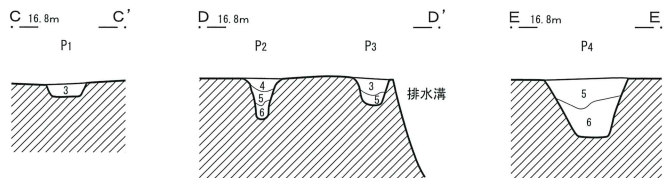
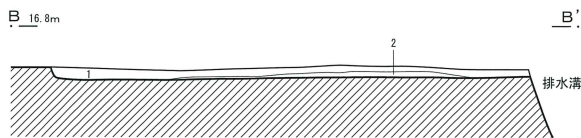
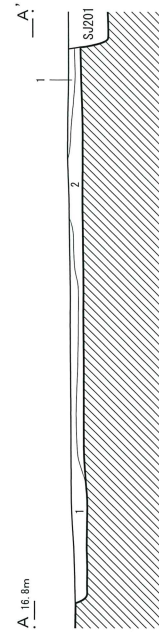
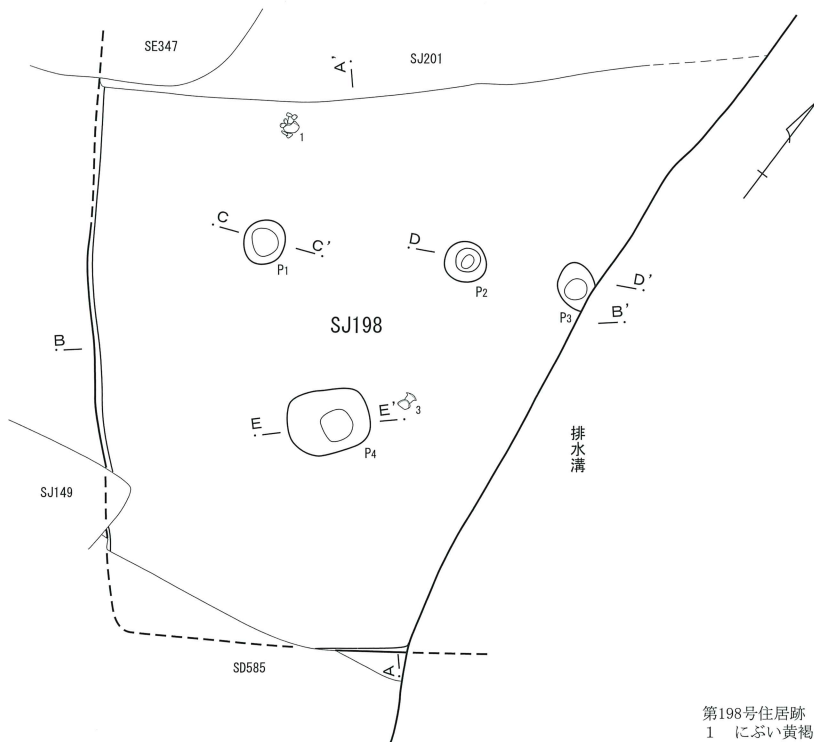


第173图 第197号住居跡遺物出土状況



第174图 第197号住居跡出土遺物



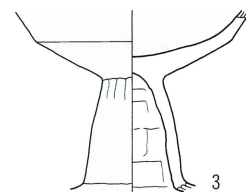
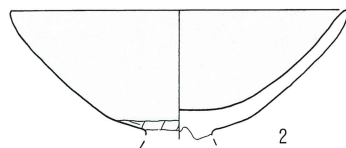
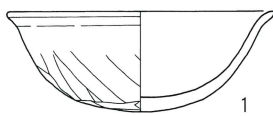


第198号住居跡

- |   |                 |  |
|---|-----------------|--|
| 1 | にぶい黄褐色土 10YR5/3 | ロームブロック (φ10~20mm) 少量<br>しまりあり 粘性ややあり              |
| 2 | にぶい黄橙色土 10YR6/3 | しまりあり 粘性ややあり                                       |
| 3 | 黒褐色土 10YR3/2    | ロームブロック (φ10~50mm) 少量<br>しまりあり 粘性ややあり              |
| 4 | 黒褐色土 7.5YR3/1   | 焼土粒子 (φ1~3mm)・炭化物粒子<br>(φ1~3mm) 少量 しまりあり<br>粘性ややあり |
| 5 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム粒子 (φ1~2mm) 少量<br>しまり・粘性ややあり                    |
| 6 | 黒褐色土 10YR3/2    | 混じりけ少ない しまり・粘性やや<br>あり                             |



第175図 第198号住居跡



第176図 第198号住居跡出土遺物

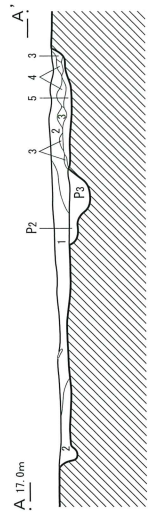
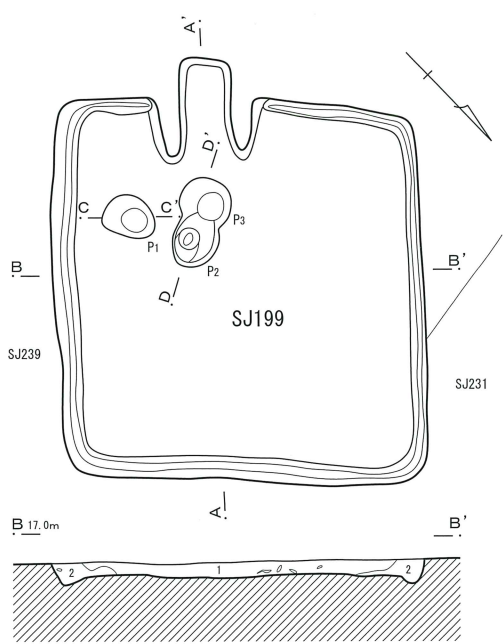
柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から順に32cm、35cm、14cmである。

本住居跡からは、土器とともに馬歯や獣骨が床面直上から出土している。獣骨は遺存状態が悪く、種の同定はできなかったが、状況から馬の骨と推定される。カマドの中からも歯や骨が出土しているが、

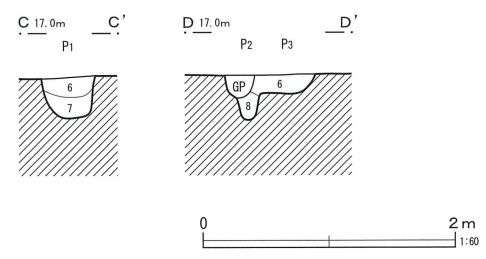
床面出土のものも含め、熱を受けた痕跡はない。住居の廃絶時もしくはその後に廃棄されたものと考えられる。

土器の量は多く、床面から良好な状態で出土している。土師器坏・甕、白玉などがある。

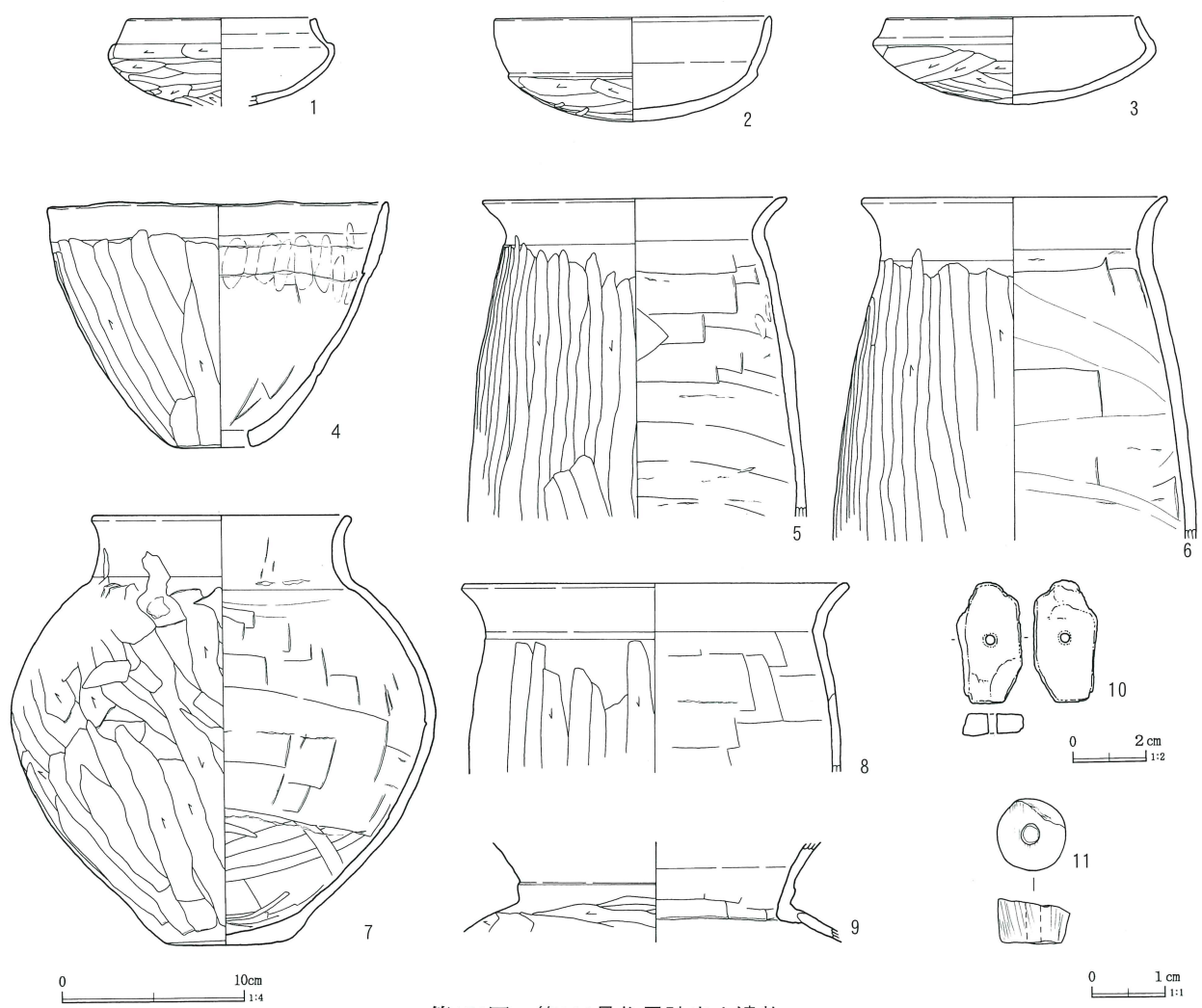
本住居跡の時期は下田町VI期である。



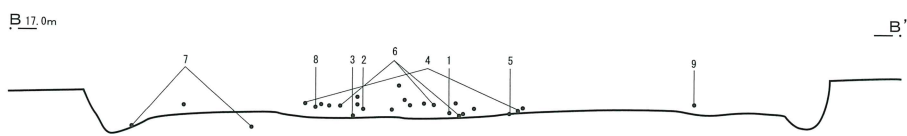
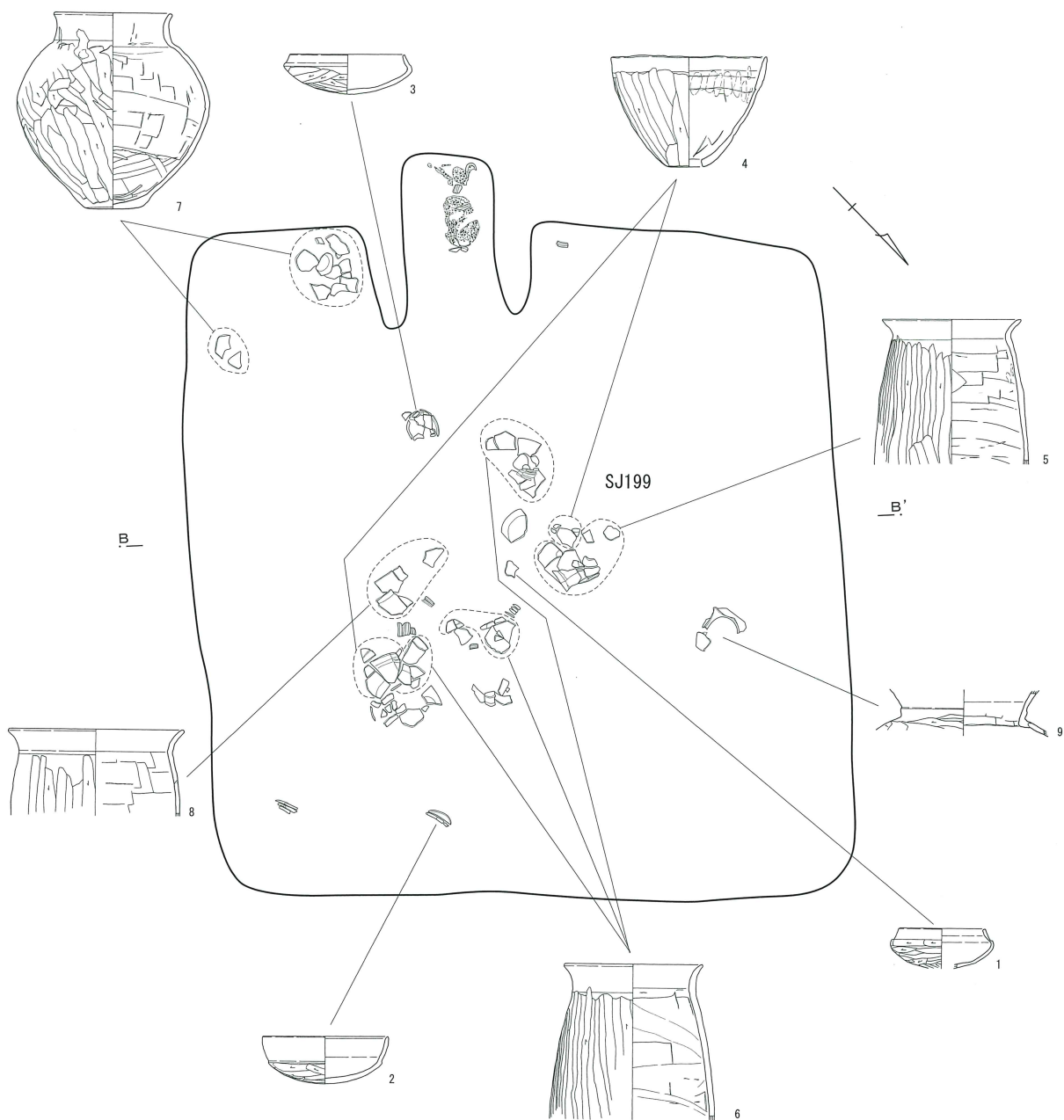
- 第199号住居跡
- |     |       |           |  |
|-----|-------|-----------|--|
| 1   | 黒褐色土  | 10YR3/2   | ロームブロック (φ10~30mm)・焼土粒子 (φ1~3mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 2   | 黒褐色土  | 10YR3/1   | ローム粒子 (φ1~3mm)・焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり     |
| 3   | 黒褐色土  | 10YR3/1   | 焼土粒子 (φ1~5mm) 部分的にまとまって混入 しまり・粘性ややあり             |
| 4   | 黒色土   | 10YR1.7/1 | 骨を含む粘質土層 しまり弱い 粘性強い                              |
| 5   | 黒色土   | 10YR1.7/1 | 灰層 ロームブロック (φ10~50mm) 少量 しまり・粘性弱い                |
| ピット |       |           |  |
| 6   | 灰黄褐色土 | 10YR4/2   | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 しまり・粘性あり (埋戻し)             |
| 7   | 黒褐色土  | 10YR3/2   | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 しまり・粘性あり (埋戻し)             |
| 8   | 黒褐色土  | 10YR3/2   | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 しまり・粘性あり (柱痕)              |



第177図 第199号住居跡



第178図 第199号住居跡出土遺物



第179图 第199号住居跡遺物出土状況

第200号住居跡 (第181図)

H・I-35グリッドに位置する。第174・202・237号住居跡、第605号溝跡、第311・340号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、切り合うすべての住居跡よりも新しい。

確認面において切り合う遺構との埋土の区別がつかず、その全容を明らかにできなかった。形状は方形で、検出できた範囲は東南-西北4.2m、南西-北東4.1mである。確認面から床面までの深さは20cmである。北西壁を基準とした傾きはN-51°-Eである。

床面は硬く踏みしめられている。

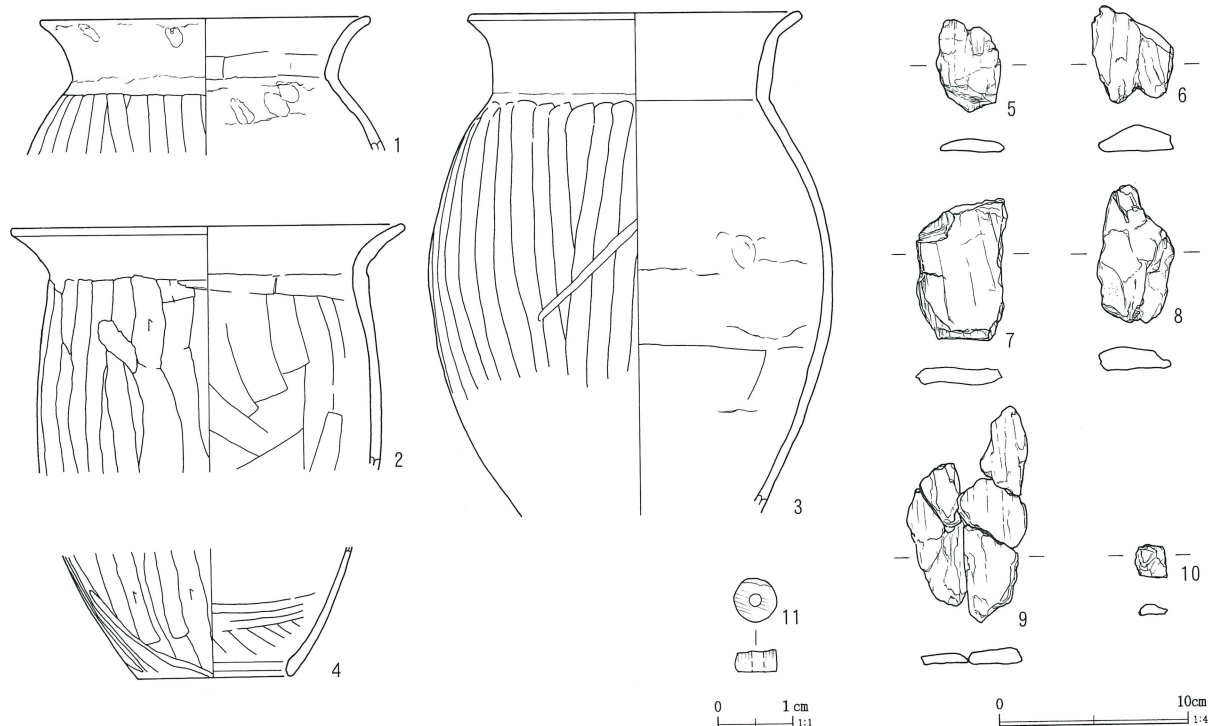
壁溝は北コーナーを中心に検出された。掘り込みは浅く途切れがちである。幅11~18cm、深さ3~6cmである。

ピットは6基検出された。P1・3・5は位置としては支柱穴にあたる可能性がある。ピットの深さはP1

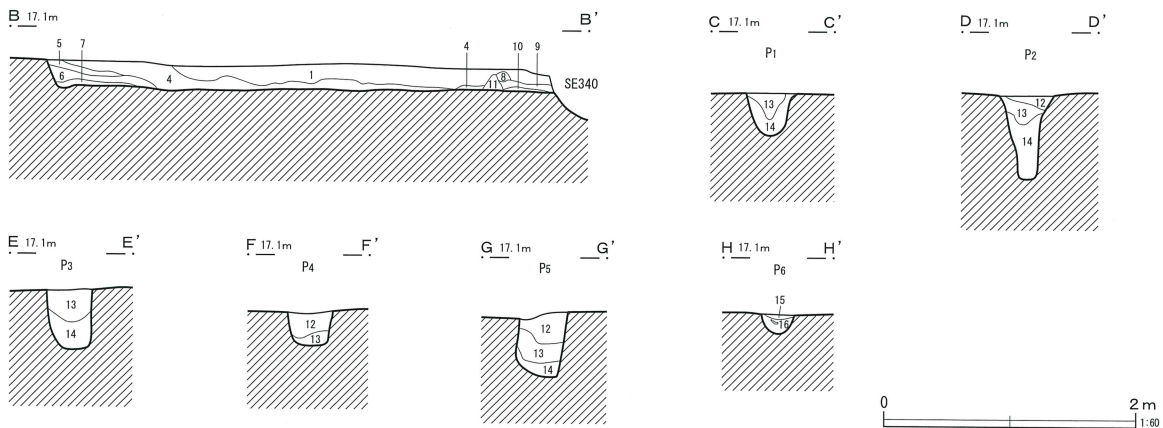
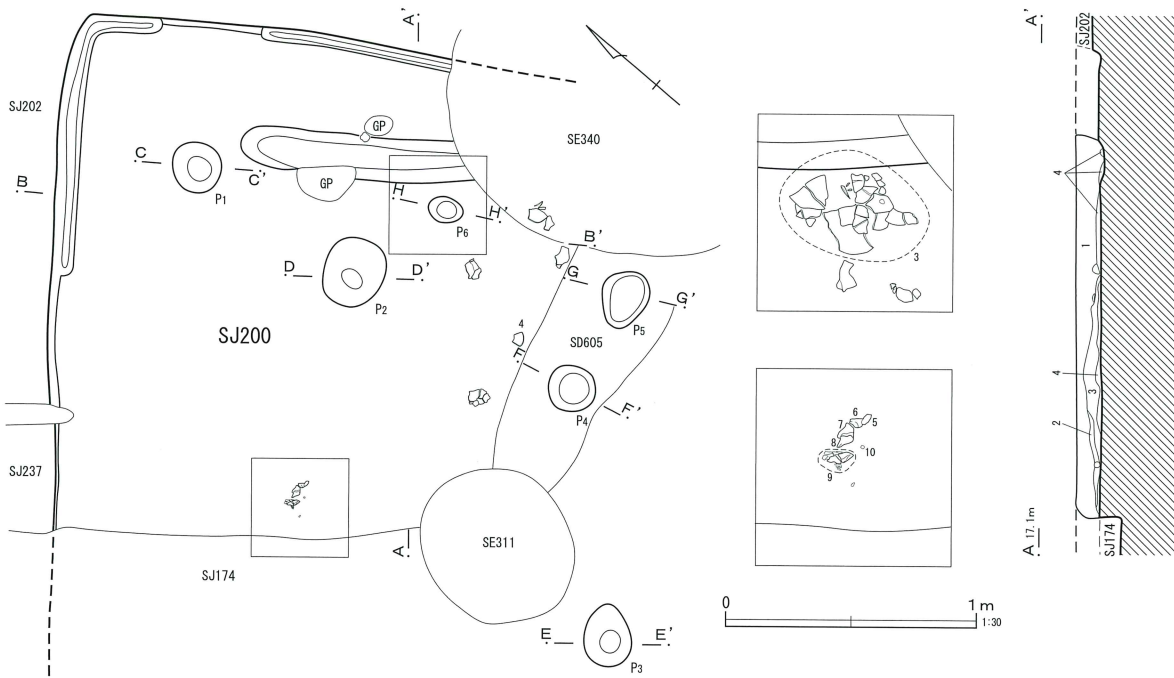
から順に32cm、65cm、47cm、25cm、50cm、15cmである。

本住居跡の床面直上からは、石材と思われる滑石がまとまって出土した。その周辺からは細かい滑石の破片が出土している。そこで、下層の埋土の洗浄を行なったが、検出された滑石のチップ類の量は少なく、本住居跡で滑石の加工を行っていた確証は得られなかった。出土土器には土師器甕・甑がある。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第180図 第200号住居跡出土遺物



第200号住居跡

- |        |         |          |                                       |                   |        |        |
|--------|---------|----------|---------------------------------------|-------------------|--------|--------|
| 1      | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3  | ロームブロック (φ10~20mm) 少量                 | 下端に炭化物層 (厚さ1~3mm) | しまりあり  | 粘性ややあり |
| 2      | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3  | 焼土粒子 (φ1~2mm) 少量                      | 焼土ブロック含む          | しまりあり  | 粘性ややあり |
| 3      | 灰黄褐色土   | 10YR4/2  | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量                     | しまり・粘性ややあり        |        |        |
| 4      | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3  | ロームブロック (φ10~30mm) 少量                 | しまりあり             | 粘性ややあり |        |
| 5      | 灰黄褐色土   | 10YR4/2  | ロームブロック (φ1~2mm)                      | しまり・粘性ややあり        |        |        |
| 6      | 灰黄褐色土   | 10YR4/2  | しまり・粘性ややあり                            |                   |        |        |
| 7      | 灰黄褐色土   | 10YR4/2  | ロームブロック (φ10~20mm) ・ローム粒子 (φ1~2mm) 少量 | しまり・粘性ややあり        |        |        |
| カマド    |         |          |                                       |                   |        |        |
| 8      | 褐色土     | 7.5YR4/3 | 焼土ブロック (φ1~2mm) 少量                    | しまり・粘性ややあり        |        |        |
| 9      | 褐色土     | 7.5YR4/3 | 焼土ブロック (φ10~40mm) 少量                  | しまりややあり           | 粘性弱い   |        |
| 10     | 赤黒色土    | 2.5YR2/1 | 灰層                                    | しまり・粘性なし          |        |        |
| 11     |         |          | 柚                                     |                   |        |        |
| ビット1~5 |         |          |                                       |                   |        |        |
| 12     | 灰黄褐色土   | 10YR4/2  | ロームブロック (φ10~30mm) 少量                 | しまりあり             | 粘性ややあり |        |
| 13     | 褐灰色土    | 10YR4/1  | ローム粒子 (φ1~3mm) ・ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | 焼土粒子微量            | しまりあり  | 粘性ややあり |
| 14     | 黒褐色土    | 10YR3/1  | しまりややあり                               | 粘性あり              |        |        |
| ビット6   |         |          |                                       |                   |        |        |
| 15     | 灰褐色土    | 7.5YR4/2 | ロームブロック (φ10~20mm) 少量                 | しまりあり             | 粘性ややあり |        |
| 16     | 黒色土     | 7.5YR2/1 | 灰主体 焼土ブロック (φ10~30mm) 少量              | しまり・粘性弱い          |        |        |

第181図 第200号住居跡

第201号住居跡（第182図）

J-34・35グリッドに位置する。第198・209・215号住居跡、第607号溝跡、第341・342・347・352・353・359号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第209号住居跡よりも古く、第198号住居跡よりも新しい。第215号住居跡との関係は捉えられなかった。

北東側半分ほどが第209号住居跡と重なり、井戸跡や溝跡によって大半が切られている。検出されたのは北西壁の一部と南東壁、および床面の一部である。形状は方形と推定され、規模は南東-北西5.1mである。埋土の残りはよく、確認面から床面までの深さは20cmである。南東壁を東西基準とした傾きはN-43°-Wである。

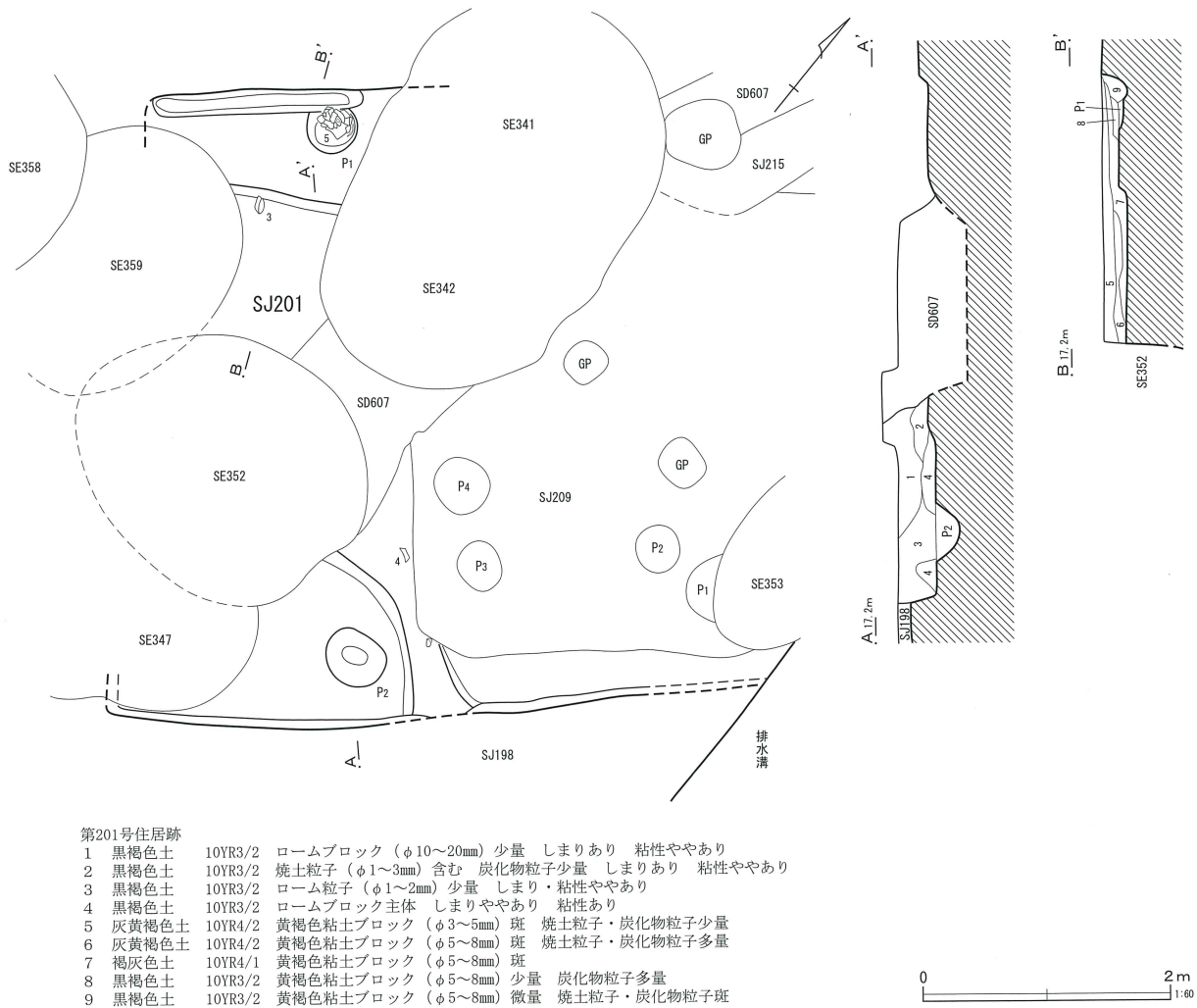
床面はあまり明瞭でなく、段差が認められる。

壁溝は北東壁にのみ検出された。幅16~21cm、深さ8~9cmである。

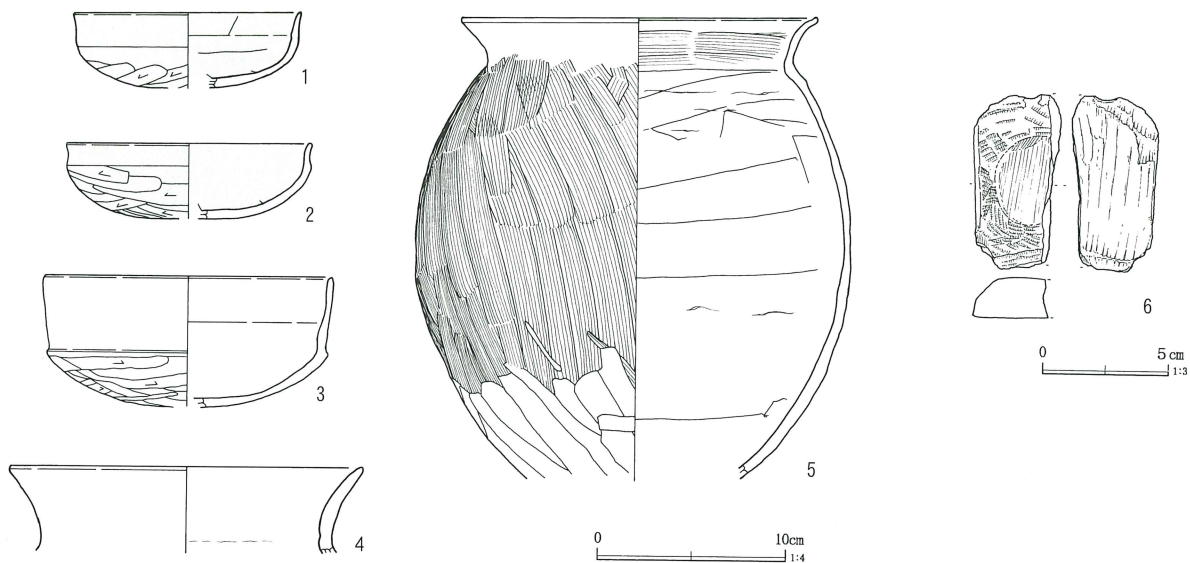
ピットは2基検出された。壁際の対の位置にあるが浅い。ピットの深さはP1から順に7cm、18cmである。

遺物は、埋土から土師器坏や紡錘車未製品などが、P1内から土師器甕が出土している。なお、第209号住居跡との切り合い関係が判明するまでは、本住居跡と一緒に掘り下げたため、上層の遺物は2つの住居跡の遺物が混在している（第184図）。

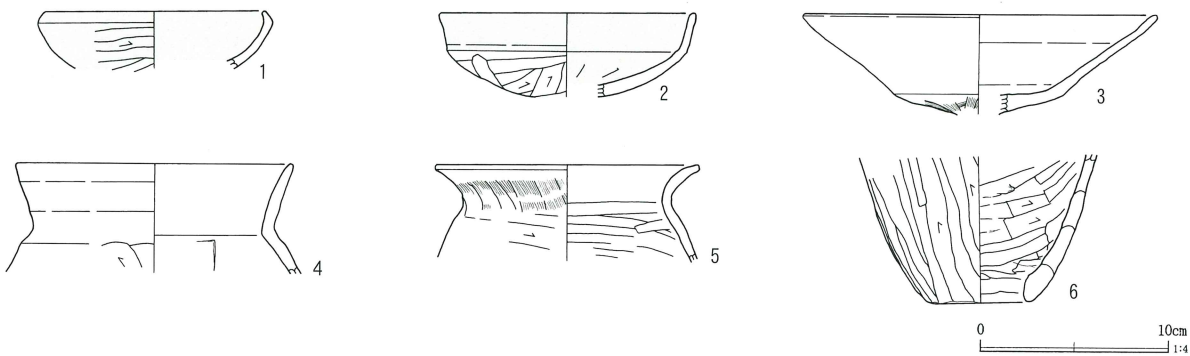
本住居跡の時期は下田町V期である。



第182図 第201号住居跡



第183図 第201号住居跡出土遺物



第184図 第201・209号住居跡出土遺物

第202号住居跡 (第185図)

H・I-34・35グリッドに位置する。第174・192・197・200・205・237号住居跡、第606号土坑、第340号井戸跡と重複する。切り合う遺構の中ではもっとも古いと考えられる。

多くの遺構に切られているため、残存状態は良好ではない。形状は方形と思われる。北東壁と、北西壁の一部が検出され、その範囲は東北-西南8.0m、南東-北西6.4mである。埋土はロームを均質に含む黄褐色土が主体で、短期間の埋没状況を示す。確認面から床面までの深さは16cmである。北東壁を基準とした傾きはN-44°-Wである。

床面はややしまりに欠けており、硬くしまった箇所は認められない。

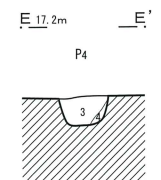
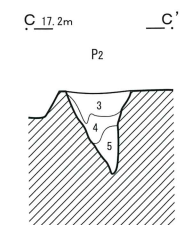
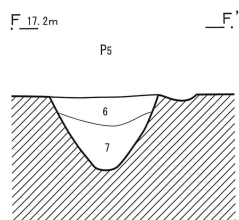
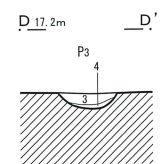
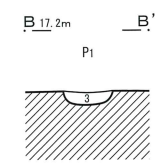
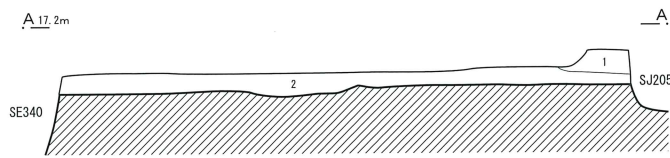
炉は2箇所に検出された。ともに同程度に床面が焼けており、掘り込みは認められない。炉1の被熱範囲は35×25cmである。炉2は第205号住居跡と攪乱の隙間にあり、被熱範囲は径28cmほどになると考えられる。

壁溝は北東壁で検出された。幅10~15cm、深さ2~10cmである。

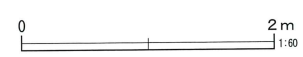
ピットは5基検出された。配置もまちまちであり、その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に10cm、64cm、14cm、23cm、58cmである。

出土遺物は少ない。すべて破片で、時期も混在している。図示した遺物のうち、本住居跡に伴うのは土師器甕口縁 (第186図1) と考えられる。

本住居跡の時期は古墳時代前期である。

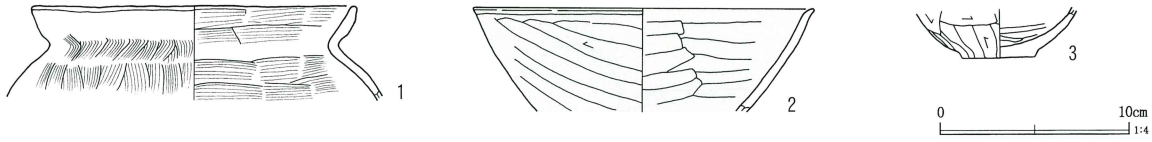


- 第202号住居跡
- |         |         |         |  |
|---------|---------|---------|--|
| 1       | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量<br>しまりあり 粘性ややあり                        |
| 2       | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量<br>しまりあり 粘性ややあり                        |
| ピット 1~4 |         |         |  |
| 3       | 灰黄褐色土   | 10YR4/2 | ロームブロック (φ10~20mm)<br>少量 しまりややあり 粘性あり                    |
| 4       | 灰黄褐色土   | 10YR4/2 | 混入物なし しまりややあり<br>粘性あり                                    |
| 5       | 灰黄褐色土   | 10YR4/2 | ローム土少量 しまりややあり<br>粘性弱い                                   |
| ピット 5   |         |         |  |
| 6       | 暗褐色土    | 10YR3/3 | ロームブロック (φ10~30mm)<br>・ローム粒子 (φ1~5mm) 少量<br>しまりあり 粘性ややあり |
| 7       | 黒褐色土    | 10YR3/1 | ローム粒子 (φ1~3mm) 少量<br>しまりあり 粘性ややあり                        |



第185図 第202号住居跡





第186図 第202号住居跡出土遺物

第203号住居跡 (第188図)

G-32グリッドに位置する。第189・195号住居跡、第2・601号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第195号住居跡より古く、第189号住居跡との関係は不明である。

遺構の切り合いと攪乱によって、南西コーナー付近のみが検出された。検出された範囲は東西2.9m、南北1.7mとわずかである。確認面から床面までの深さは16cmである。西壁を基準とした傾きはN-21°-Eである。

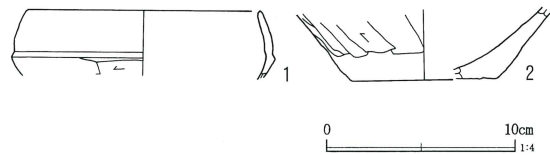
壁溝は途切れており、掘り込みは浅い。幅15~17

cm、深さ2~8cmである。

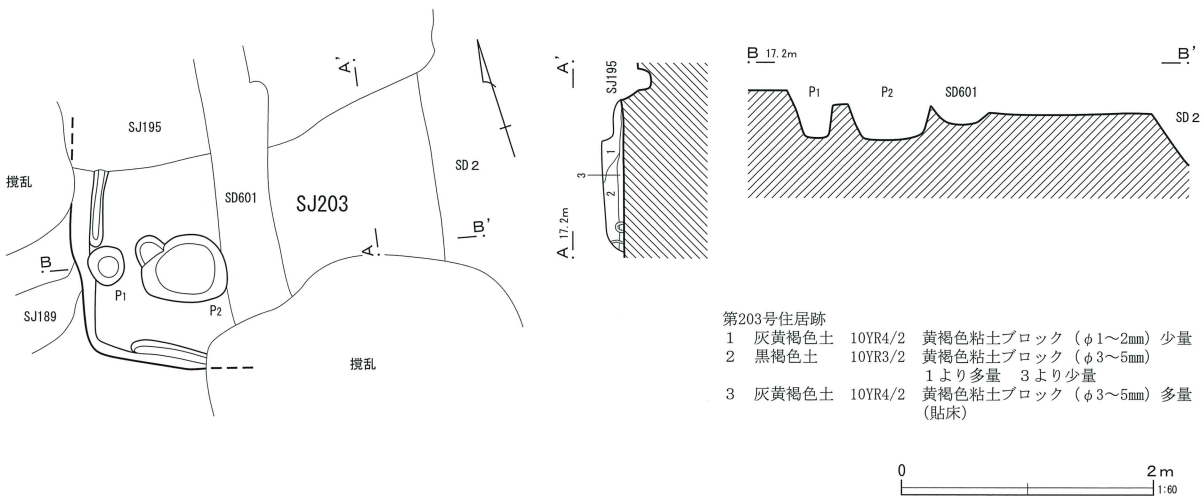
ピットは2基検出されたが性格は不明である。ピットの深さはP1から順に26cm、27cmである。

遺物は破片が少量出土した。図示したのは土師器 坏・甕である。

本住居跡の時期は下田町Ⅲ期である。



第187図 第203号住居跡出土遺物



- 第203号住居跡
- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ1~2mm) 少量
  - 2 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 1より多量、3より少量
  - 3 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 (貼床)

第188図 第203号住居跡

第204号住居跡 欠番

も古く、第202号住居跡よりも新しい。第227号住居跡との関係は明らかでない。

第205号住居跡 (第189図)

H-34・35、I-34グリッドに位置する。第192・202・214・227号住居跡、第596号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第192・214号住居跡より

形状は、やや歪んだ方形である。規模は東西5.2m、南北4.6mである。埋土は大きく二層に分けられ、下層により多くのローム粒子を含む。その間に薄い炭化物の層(2層)が堆積している。壁の掘り込みは



しっかりしており、確認面から床面までの深さは35cmである。主軸方向はN-21°-Wである。

床面はとくに硬化していないものの、しっかりと踏みしめられている。

炉は1基、やや北寄り中央に検出された。掘り込みはなく、床面が火床面となる。被熱の度合いは高く、硬く焼きしまっている。範囲は51×49cmである。

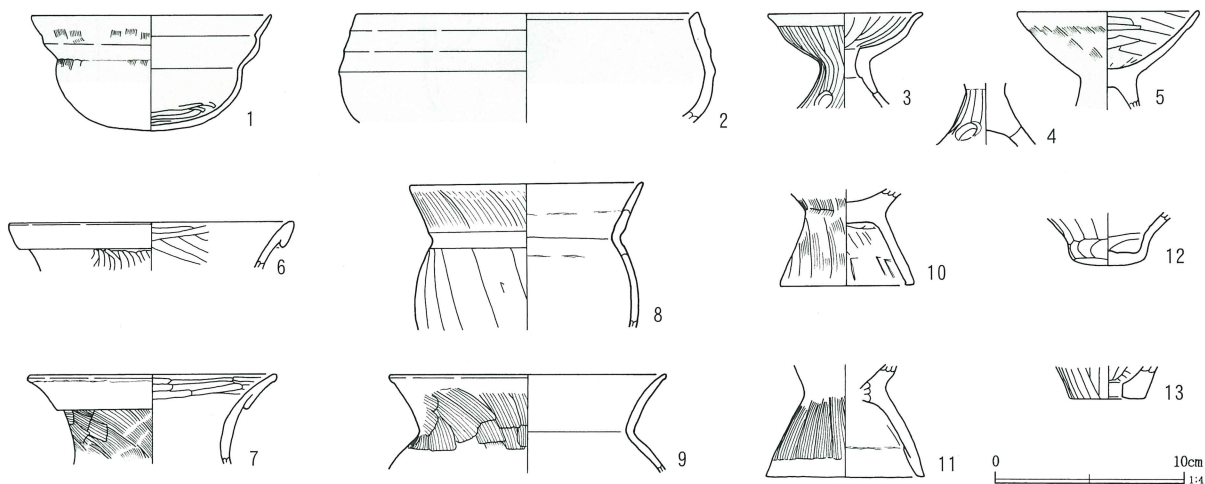
ピットは13基検出された。主柱穴と思われるピットはP1~4である。南西コーナーに設けられたP13は底が平らなバケツ状の掘り込みであり、遺物も出土しているため、貯蔵穴である可能性がある。P9・10は並んで検出された。ともに浅い小さな掘り

込みである。埋土に炭化物が詰まっており、炉のそばに設けられていることから、炉に関連する施設と考えられる。ピットの深さはP1から順に50cm、58cm、28cm、26cm、25cm、13cm、45cm、66cm、4cm、4cm、40cm、58cm、61cmである。

北東コーナーは大きく掘り込まれている。規模は200×133cmである。本住居跡に伴う土坑と判断したが、性格は不明である。

出土遺物は少なく、あまりまとまった形では出土していない。土師器埴・高坏・台付甕などがある。

本住居跡の時期は下田町II期である。



第190図 第205号住居跡出土遺物

### 第206号住居跡 (第191図)

G・H-32・33グリッドに位置する。第173・195・207号住居跡、第2・601号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第173・207号住居跡よりも古く、第195号住居跡との関連は把握できなかった。

形状は正方形に近く、規模は東西5.7m、南北5.5mである。埋土は地山土との区別がつきにくく、洪水などで短期間に埋没したことを示している。埋土の残りは厚く、確認面から床面までの深さは40cmである。東壁を基準とした傾きはN-20°-Wである。

壁溝はほとんど検出されなかった。

ピットは2基検出された。性格は不明である。ピッ

トの深さはP1から順に56cm、18cmである。

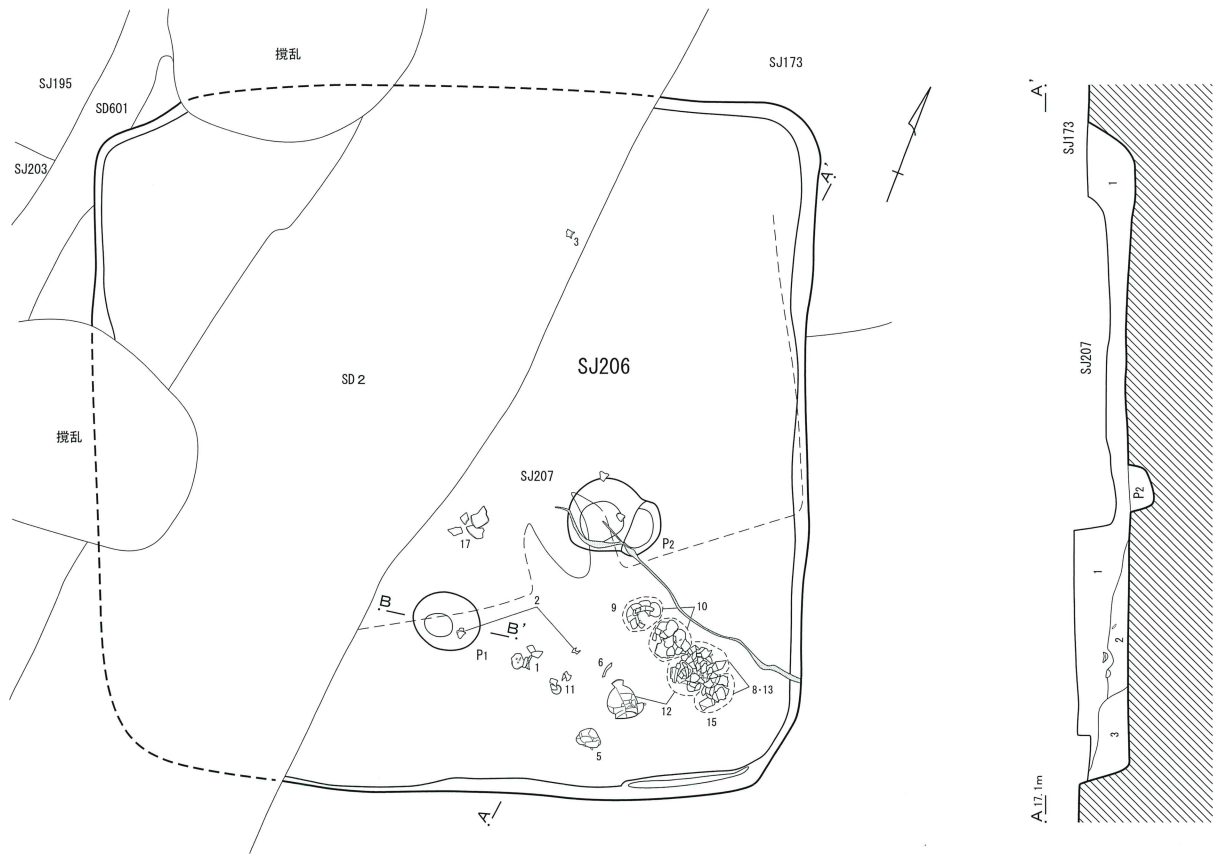
遺物は多く、残りのよい土器が東南側の埋土下層を中心に出土している。土師器高坏・甕・台付甕・壺などがある。

本住居跡の時期は下田町II期である。

### 第207号住居跡 (第193図)

G-32・33グリッドに位置する。第206号住居跡、第2号溝跡と重複する。第206号住居跡の上面に構築されていた住居跡であるが、カマドの部分のみ、平面で確認することができた。

断面で確認された限りでは、第2号溝跡で切られ



第206号住居跡

- |   |       |         |  |
|---|-------|---------|--|
| 1 | 明黄褐色土 | 10YR7/6 | 地山土+暗褐色土ほぼ同量で構成される 焼土粒子微量<br>地山との境が不明瞭 しまりあり 粘性ややあり  |
| 2 | 黒褐色土  | 10YR3/2 | 地山土微量 焼土粒子・炭化物粒子均等 しまりあり<br>粘性ややあり 上面に炭化物のうすい層が認められる |
| 3 | 黒褐色土  | 10YR3/2 | 地山土の混入多量 焼土粒子・炭化物粒子微量 しまり<br>・粘性あり (壁の崩落土)           |

第191図 第206号住居跡

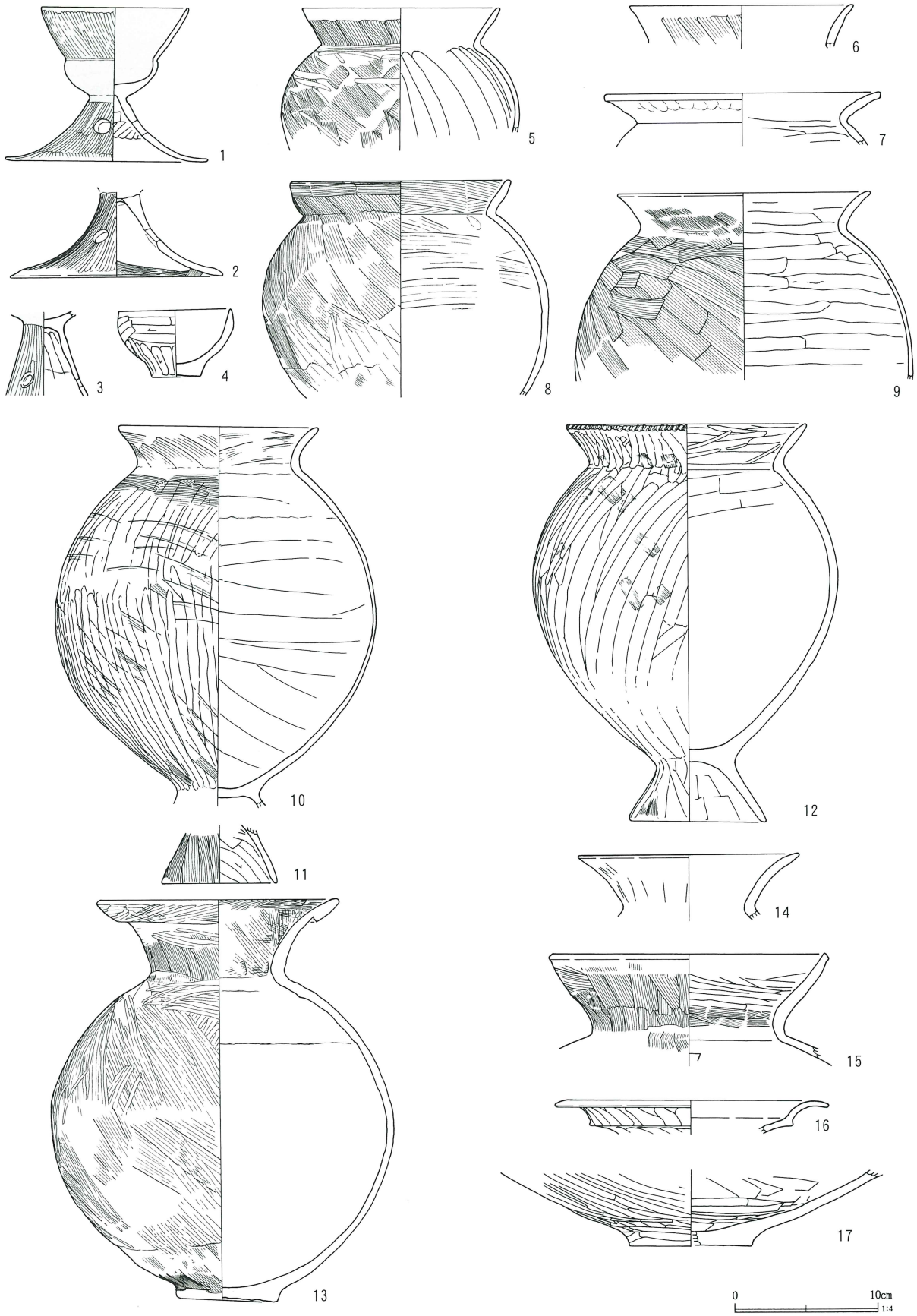
た残りの規模は、東北—西南3.6m、南東—北西は約2.4mである。確認面から床面までの深さは32cmである。主軸方向はN-27°-Wである。

カマドの残りは浅く、燃焼部の下部のみが検出された。規模は52×40cm、深さは9cmである。底には灰層（5層）が堆積し、天井部の崩落土の堆積もわ

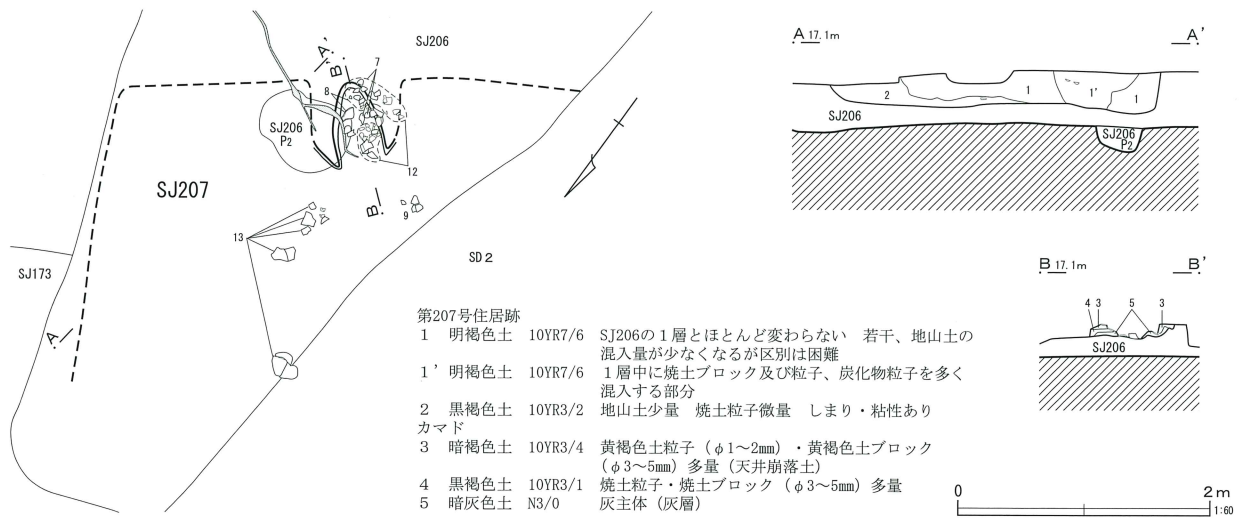
ずかではあるが認められる。袖もほとんど残っていないが、地山（第206号住居跡埋土）を掘り残したものである。カマド以外の施設は検出されなかった。

遺物は少ないが、カマドから形になる土器が出土している。土師器壺・高坏・甕などがある。

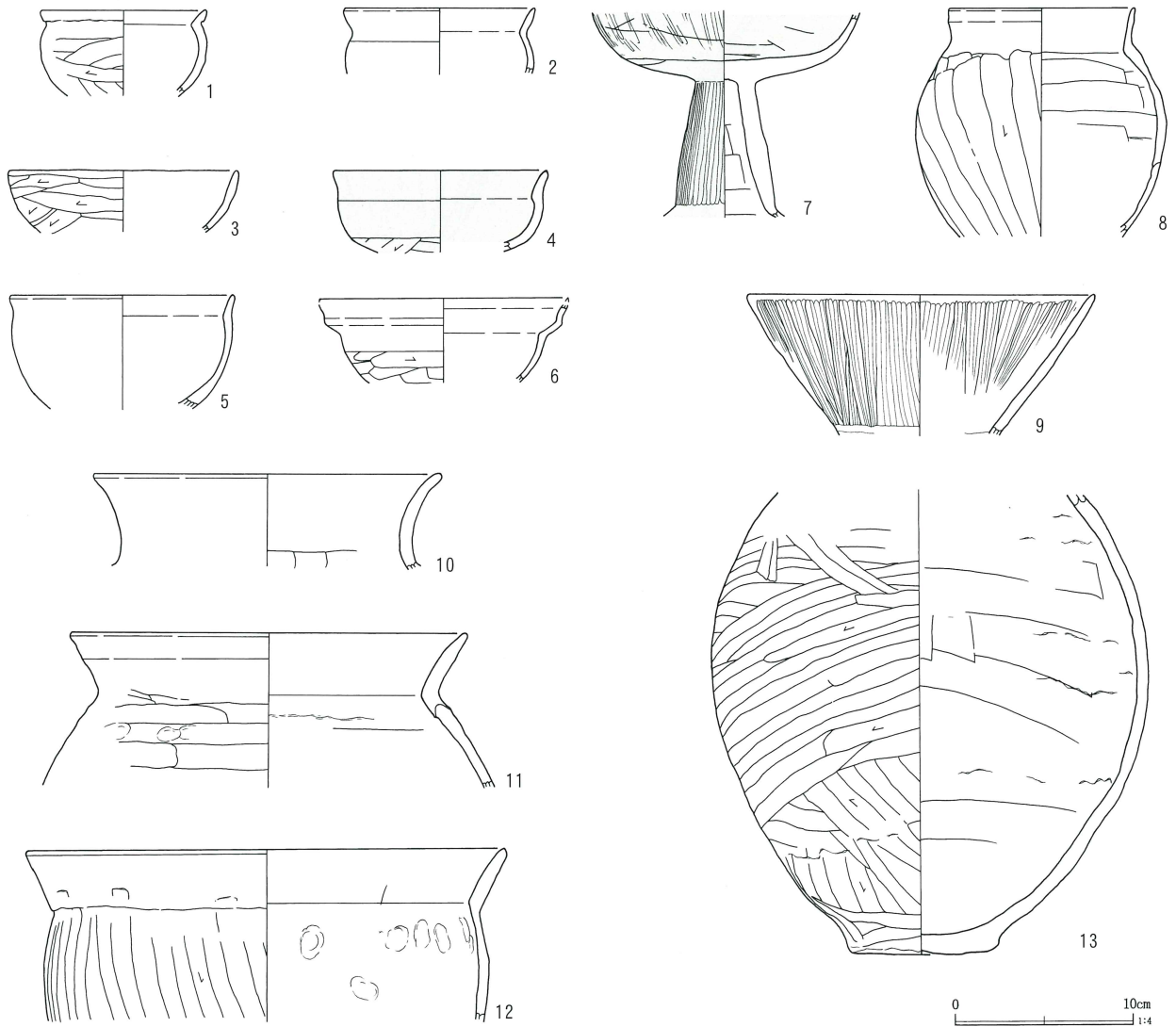
本住居跡の時期は下田町Ⅲ期である。



第192图 第206号住居跡出土遺物



第193図 第207号住居跡



第194図 第207号住居跡出土遺物

第208号住居跡 (第195図)

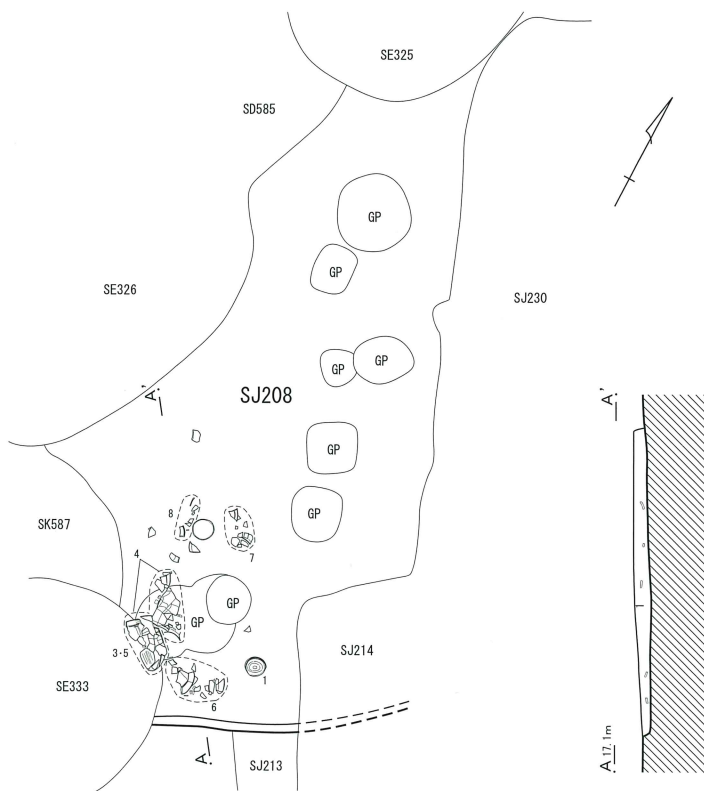
G-34、H-33・34グリッドに位置する。第213・214・230号住居跡、第585号溝跡、第587号土坑、第325・326・333号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第213・214・230号住居跡よりも新しいと考えられる。

埋土が浅い住居跡であり、調査時に全容を確認することができなかった。北・西・東側は深い遺構と切り合っており、南壁のみ検出することができた。形状・規模ともに不明である。検出範囲は東西3.1m、南北5.2mである。確認面から床面までの深さは11cmである。南壁を東西基準とした傾きはN-35°-Wである。

ピットなど、本住居跡に伴う施設は検出されなかった。

出土遺物の量は少ないが、須恵器蓋や土師器甕が床面からまとめて出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。



第195図 第208号住居跡

第209号住居跡 (第197図)

J-34・35グリッドに位置する。第201・215号住居跡、第607号溝跡、第341・342・353号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第215号住居跡よりも古く、第201号住居跡より新しい。東西コーナーは井戸跡によって切られている。

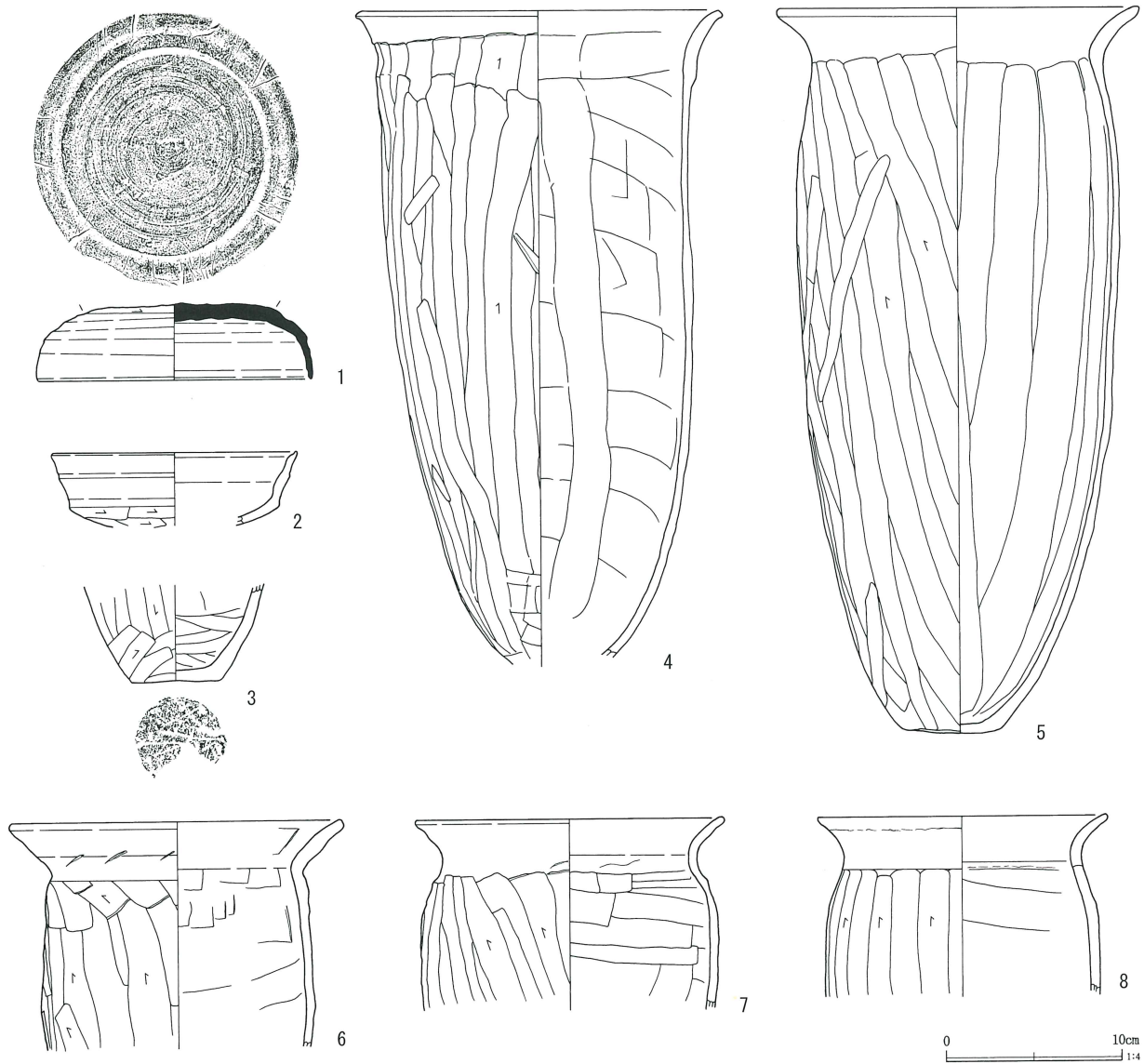
形状は正方形に近い方形を呈する。規模は東西推定で3.3m、南北4.0mである。確認面から床面までの深さは13~18cmである。主軸方向はN-52°-Eである。

カマドは燃焼部のみが検出された。北東壁ほぼ中央に構築されている。規模は80×48cm、掘り込みはなく、底の深さは床面と同じレベルで、底には灰層(5層)が堆積している。地山を掘り残した袖が片側にのみ検出された。内壁はよく焼けている。支脚は土師器の高坏(第198図3)を伏せて転用している。

壁溝は検出された壁すべてに設けられ、全周するものと思われる。掘り込みは明瞭で、幅13~25cm、深さ8cmである。

第208号住居跡  
1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック(φ10~30mm)・  
ローム粒子(φ1~2mm)少量  
しまりあり 粘性ややあり

0 2 m  
1:60

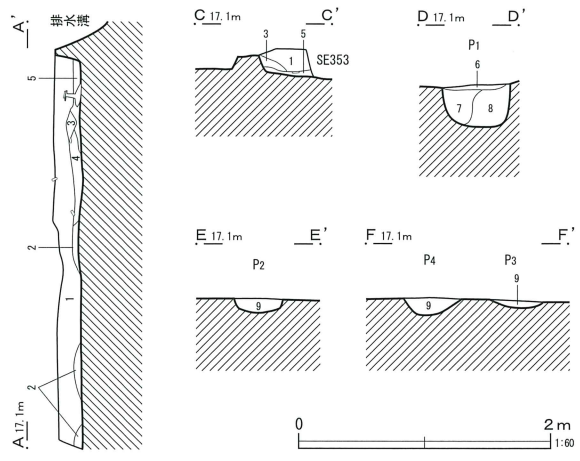
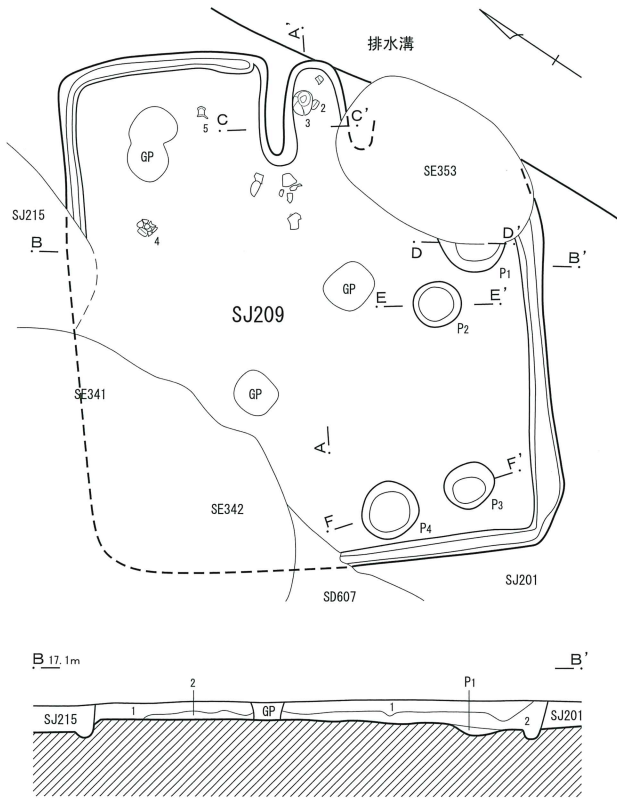


第196図 第208号住居跡出土遺物

ピットは4基検出された。P1以外はすべて浅く、用途は不明である。ピットの深さはP1から順に32cm、11cm、5cm、8cmである。

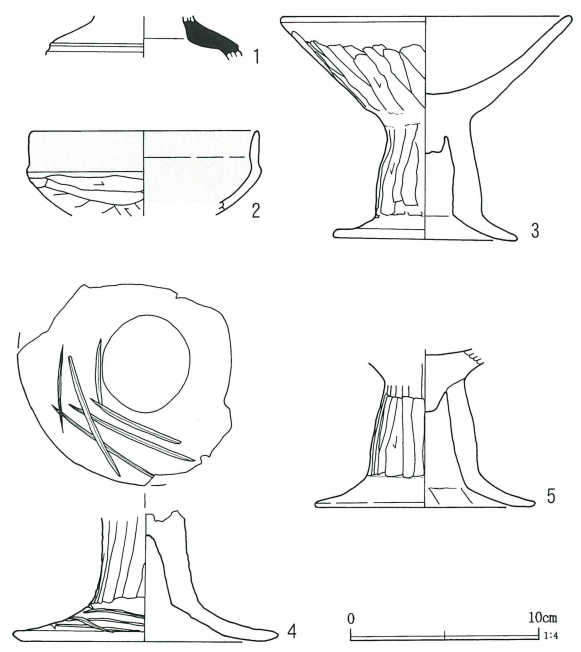
出土遺物には、転用支脚の土師器高坏や、工具の研磨痕のある高坏脚部（第198図4）がある。本住居跡の時期は下田町VII期である。





- 第209号住居跡
- |           |   |
|-----------|---|
| 1 灰黄褐色土   | 10YR4/2 焼土粒子 (φ1~8mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり                     |
| 2 灰黄褐色土   | 10YR4/2 ロームブロック (φ10~30mm)・ローム粒子 (φ10~30mm) 少量 しまり・粘性ややあり |
| 3 にぶい黄橙色土 | 10YR6/4 しまりあり 粘性ややあり (カマド天井崩落土)                           |
| 4 褐灰色土    | 10YR4/1 ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 しまりややあり 粘性あり                    |
| 5 黒褐色土    | 10YR3/1 しまりなし 粘性なし (灰層)                                   |
| ピット1      | 10YR4/1 暗灰色土主体 黒褐色粒子と灰色の砂を均等に多量 炭化物粒子微量 しまりあり 粘性ややあり      |
| 6 褐灰色土    | 10YR3/1 黒褐色土主体 灰色の砂を少量 焼土粒子 (φ5mm程) 少量 しまり・粘性あり           |
| 7 黒褐色土    | 10YR4/2 6・7層と同様に灰色の砂を含む しまり・粘性あり                          |
| 8 灰黄褐色土   | 10YR4/2 暗茶褐色土主体 灰色の砂を多量 焼土粒子 少量 しまりあり 粘性弱い                |
| ピット2~4    |   |
| 9 灰黄褐色土   |   |

第197図 第209号住居跡



第198図 第209号住居跡出土遺物

第210号住居跡 (第199図)

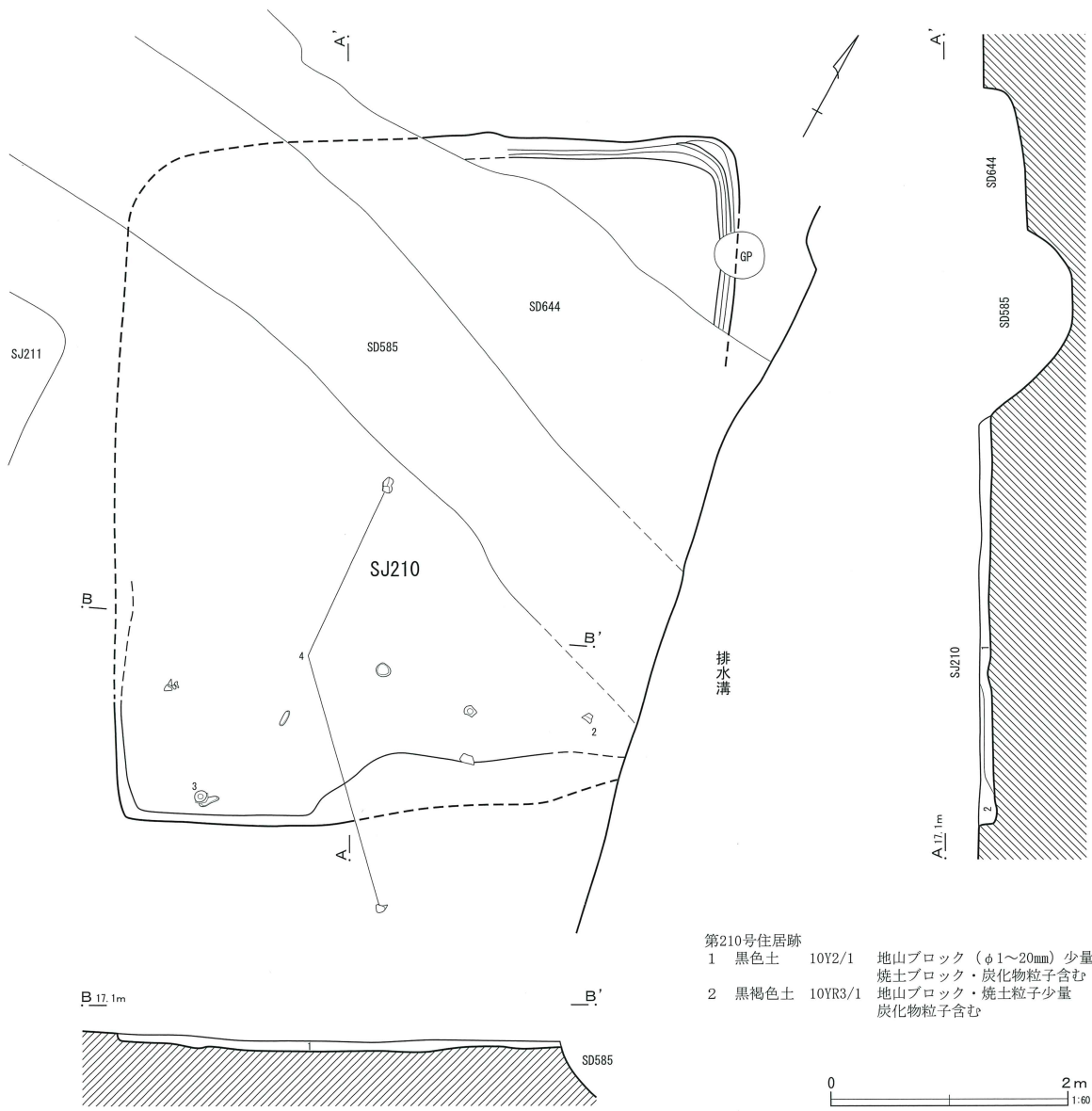
I・J-31グリッドに位置する。第585・644号溝跡に切られる。

形状は方形で、推定される規模は東北-西南5.8m、南東-北西5.5mである。埋土は浅く、ほぼ一層で、確認面から床面までの深さは10cmである。北東壁を基準にした傾きはN-25°-Wである。

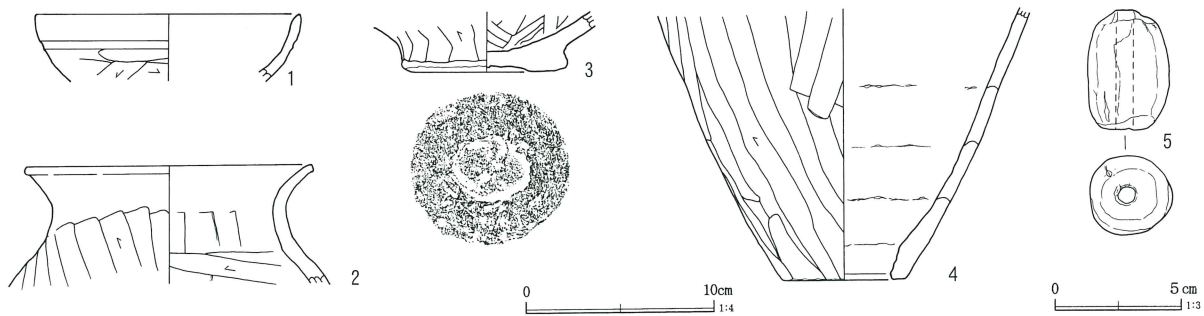
壁溝は北コーナーのみに検出された。幅16~19cm、深さ5~6cmである。ピットなど他の施設は検出されなかった。

出土遺物は破片でその量は少ない。土師器杯・甃、土錘などがある。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第199図 第210号住居跡



第200図 第210号住居跡出土遺物

### 第211号住居跡 (第201・202図)

I-31・32グリッドに位置する。第216号住居跡、第585号溝跡、第10号方形周溝墓と重複する。住居跡の切り合い関係は、第216号住居跡よりも新しい。

形状はほぼ正方形を呈し、規模は東西6.1m、南北6.0mである。確認面から床面までの深さは20cmである。カマド1における主軸方向はN-3°-Wである。

壁の掘り込みは明瞭で、床面には中央部を中心に貼床されている。

カマドは北壁に2基検出された。ほぼ中央に設けられたカマドを1とし、東寄りのカマドをカマド2とした。カマド2の廃絶後にカマド1および貯蔵穴が設けられたものと考えられる。

カマド1は、煙道の長さ35cm、燃焼部は細長い楕円形を呈し、規模は145×69cm、掘り込みの深さは20cmである。底には焼土と灰が大量に堆積している(11~14層)。土製の支脚(第204図19)がほぼ中央部から立ったまま出土している。袖は検出されなかった。

カマド2は、煙道部のみが検出された。長さ148cm、深さは22cmである。天井部の崩落(16層)と灰の堆積(17層)が確認された。

貯蔵穴はカマド1の右側にあり、カマド2の燃焼部の掘り込みを利用している可能性がある。規模は108×79cm、底は丸みを帯び、深さは31cmである。

壁溝は全周するものと考えられる。掘り込みはしっかりとしており、幅18~44cm、深さ13~21cmである。

ピットは4基検出された。位置や埋土から、主柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から順に64cm、62cm、50cm、45cmである。

出土遺物は多く、接合率が高い。カマド内および周辺から、形になる遺物が出土している。土師器環・高環・甕、須恵器提瓶などがある。土器以外では石製模造品や白玉、土錘が出土している。

本住居跡の時期は下田町X期である。

### 第212号住居跡 (第166図)

G・H-34・35グリッドに位置する。第185・192号住居跡、第588号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第185号住居跡よりも古く、第192号住居跡との関係は不明である。

その大半が第185号住居跡と重なっており、検出されたのは北~西壁のみである。形状は方形を呈する。規模は南北推定で5.2m、東西は3.5mまで北壁が認められた。埋土は浅く、確認面から床面のまでの深さは14cmである。西壁を基準とした傾きはN-25°-Wである。

壁溝・ピットなどの施設は検出されなかった。

遺物は土師器の破片が少量出土した。

本住居跡の時期は不明であるが、切り合い関係から古墳時代後期に属する可能性がある。

### 第213号住居跡 (第208図)

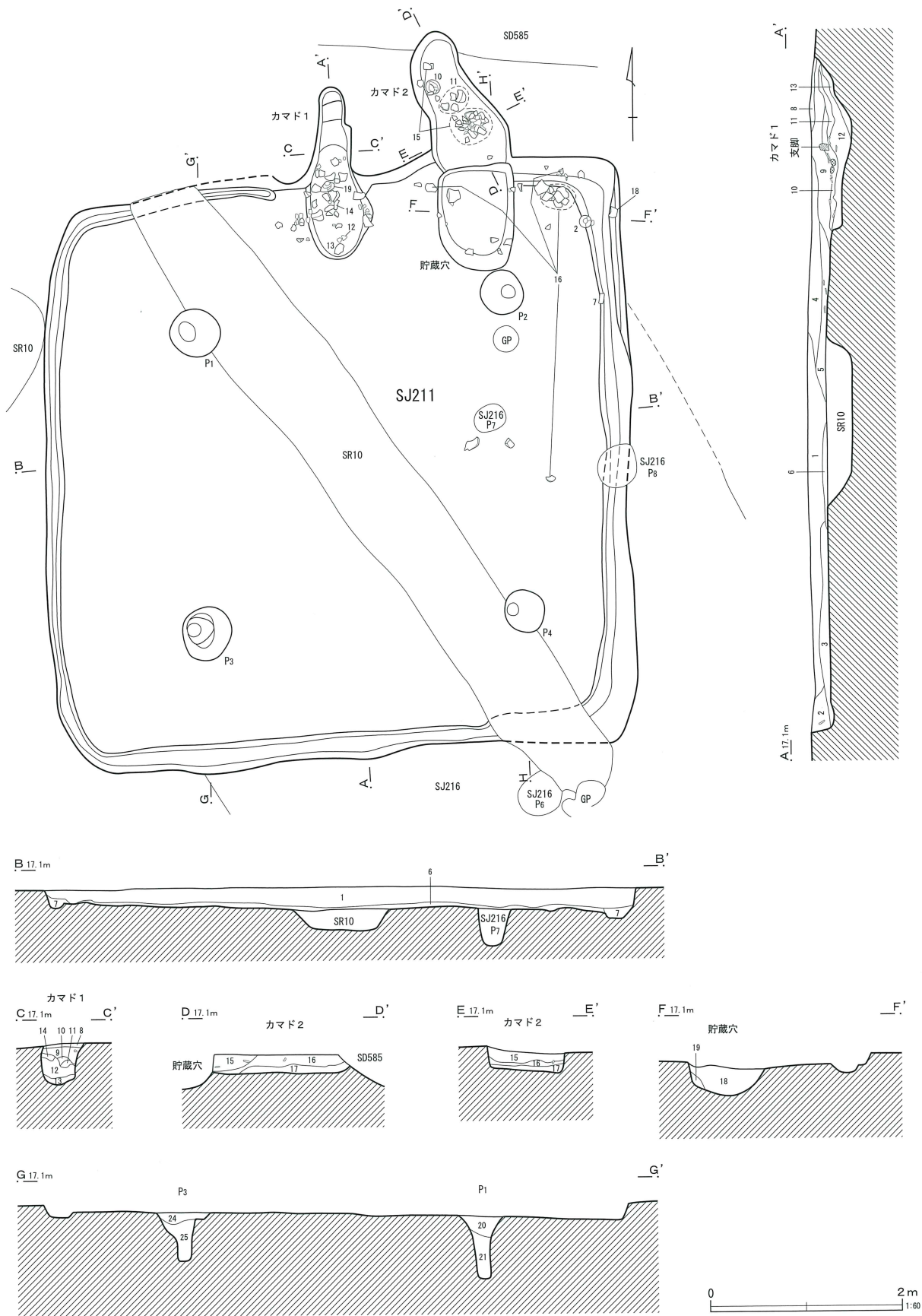
H-34グリッドに位置する。第185・208・214号住居跡と重複する。切り合い関係は把握できなかったが、いずれの住居跡よりも古いと考えられる。

大半が切り合いにより失われ、検出されたのは西南壁と壁溝のみである。検出された範囲は東北-西南0.6m、南東-北西2.9mである。形状は方形になると思われる。埋土の残りは大変浅く、確認面から床面までの深さは7cmである。西壁を基準とした傾きはN-34°-Wである。

壁溝は幅13~20cm、深さ7~8cmである。

出土遺物は土師器の破片が少量で、図示できたのは甌の底部のみである。

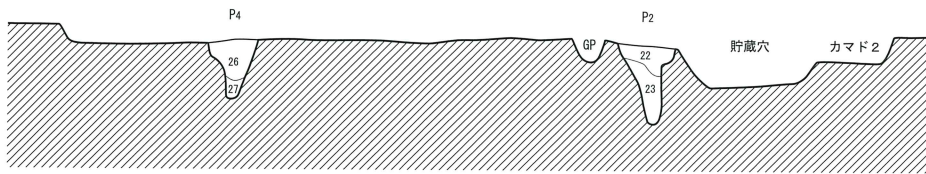
本住居跡の時期は古墳時代後期の可能性がある。



第201図 第211号住居跡 (I)

H. 12. 1m

H'

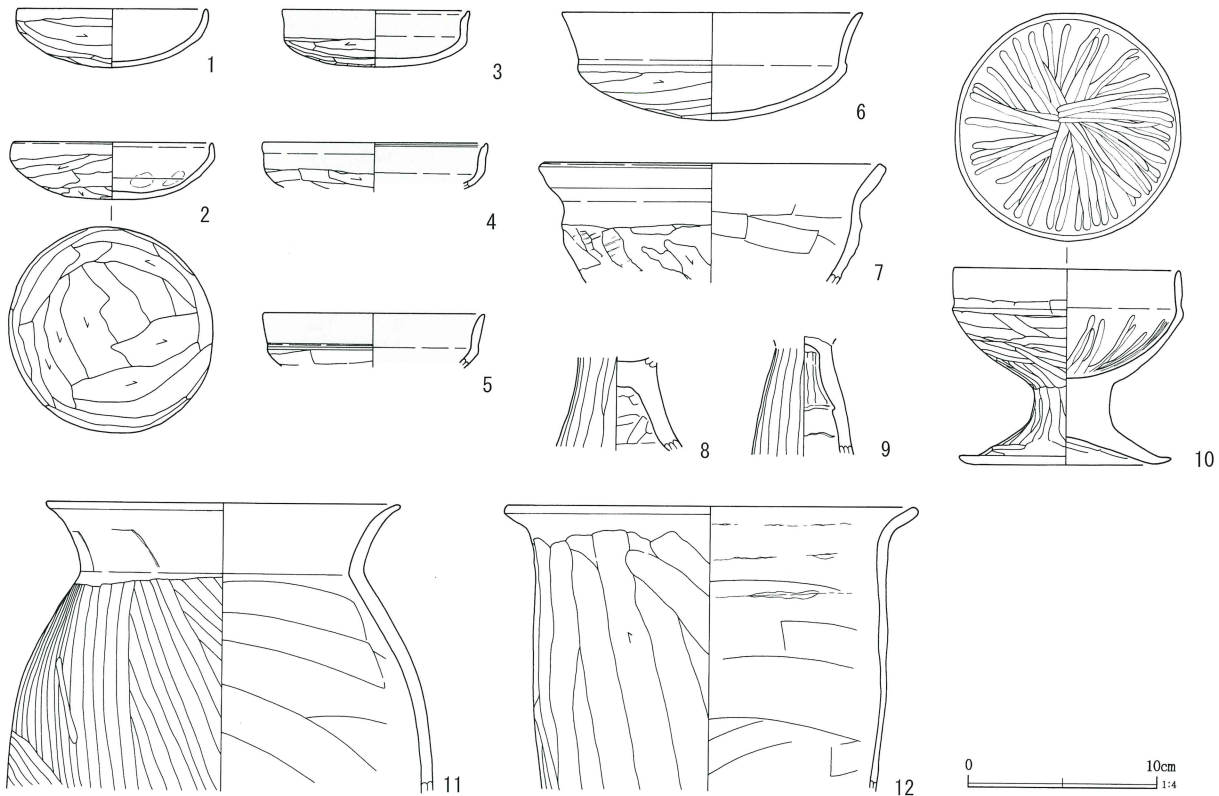


0 2m 1:60

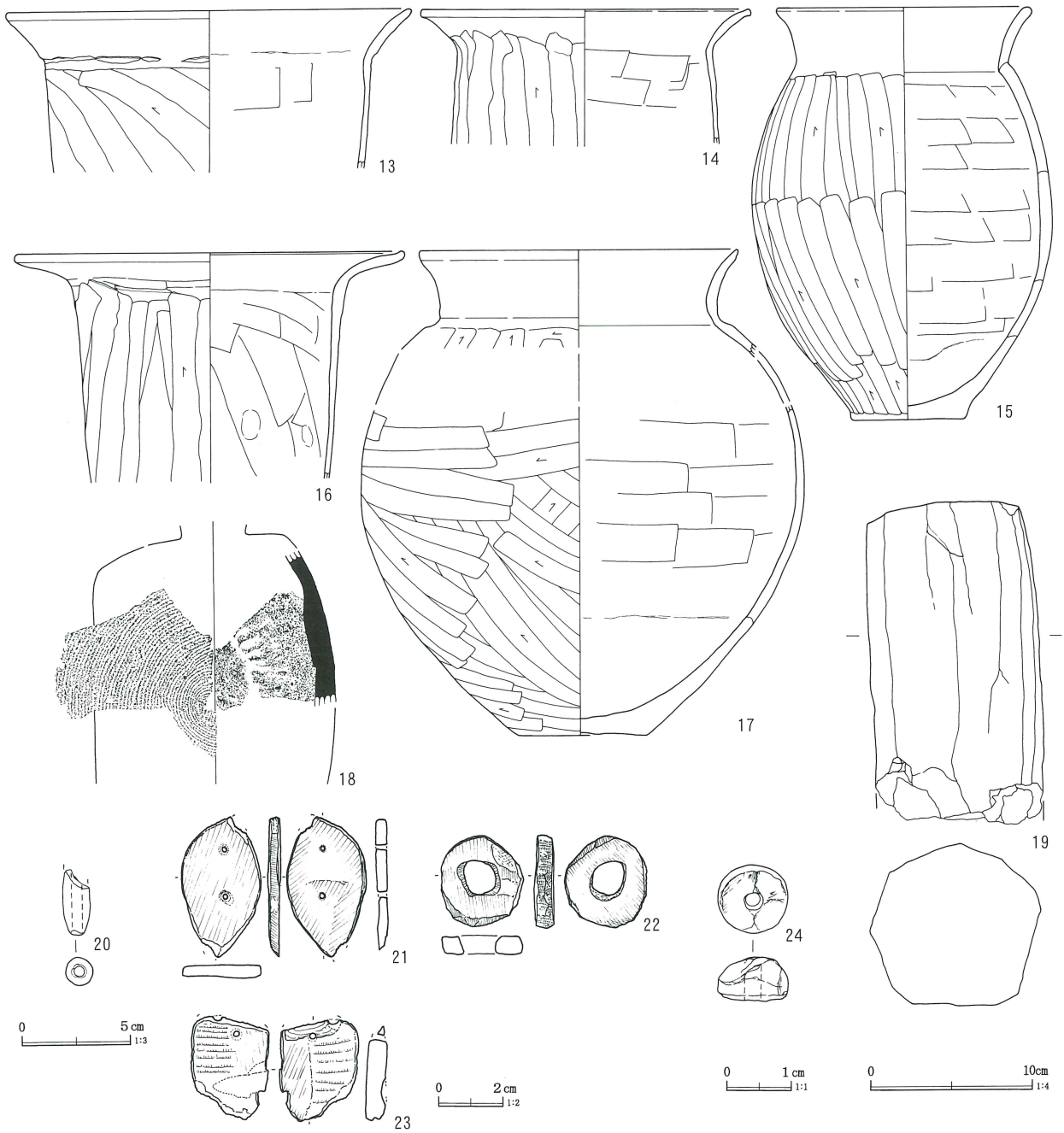
第211号住居跡

1 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm) ・焼土ブロック 少量 炭化物含む	16 黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) ・焼土ブロック (φ3~15mm) 多量 (天井崩落土)
2 黒色土	2.5GY2/1	地山ブロック少量	17 黒色土	10YR2/1	灰主体 焼土ブロック (φ3~10mm) 少量 (灰層)
3 オリーブ黒色土	5Y2/2	地山ブロック (φ1~30mm) ・焼土ブロック (φ1~20mm) 多量 炭化物含む	18 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~30mm) ・焼土ブロック少量 炭化物含む
4 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm) 多量 焼土ブロック (φ1~10mm) 少量 炭化物含む	19 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック多量 焼土ブロック少量
5 黒褐色土	2.5GY3/1	地山ブロック (φ1~5mm) ・焼土ブロック少量 炭化物含む	20 黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック (φ1~5mm) ・焼土ブロック少量 炭化物含む
6 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~30mm) 多量 (貼床)	21 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック微量 焼土ブロック少量 炭化物 含む
7 黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック (φ1~30mm) 少量 炭化物含む 壁周溝	ビット2		
カマド1			22 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック・焼土ブロック少量 炭化物含む
8 黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック少量	23 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック少量 炭化物含む
9 黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック微量 焼土ブロック少量 炭化物 含む	ビット3		
10 黒色土	7.5Y2/1	焼土ブロック含む 灰多量	24 暗褐色土	10YR3/3	地山ブロック (φ1~20mm) ・炭化物含む
11 黒色土	7.5Y2/1	焼土ブロック・灰多量	25 黒褐色土	10YR3/2	地山ブロック (φ1~20mm) 少量 焼土ブロック 微量 炭化物含む
12 黒色土	10Y2/1	焼土ブロック・灰多量	ビット4		
13 黒褐色土	N2	灰多量	26 黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック (φ1~5mm) ・焼土ブロック・ 炭化物含む
14 黒褐色土	2.5Y3/1	焼土粒子・灰多量	27 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量 炭化物含む
カマド2					
15 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量			

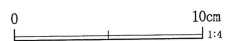
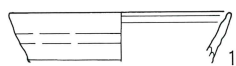
第202図 第211号住居跡 (2)



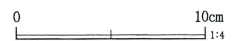
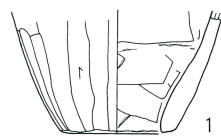
第203図 第211号住居跡出土遺物 (1)



第204图 第211号住居跡出土遺物 (2)



第205图 第212号住居跡出土遺物



第206图 第213号住居跡出土遺物

第214号住居跡（第208図）

H-34グリッドに位置する。第185・205・208・213・230・242・243号住居跡、第597号土坑、第338号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第208号住居跡よりも古く、第205・230号住居跡よりも新しい。第185・213・242・243号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は方形で、南西壁を基準とした傾きはN-30°-Wである。本住居跡は西コーナーを支点に北東・南東方向に拡張されている。

第214号住居跡（新）の規模は東北-西南5.9m、南東-北西5.2mである。埋土は2・3層の二層である。確認面から床面までの深さは15cmである。

第214号住居跡（古）の規模は東北-西南4.1m、南東-北西4.5mである。埋土は4・5層の二層である。確認面から床面までの深さは20cmである。

壁溝は拡張前ではほぼ全周し、拡張後の壁には部分的に検出された。幅23~33cm、深さ11~14cmである。

ピットは8基検出された。このうち、P2・3・4・5・7は拡張前に機能していたピットであり、P2・3・4・5は支柱穴と考えられる。P2を除いて柱痕が確認されている。P1・8は拡張後に機能していたピット

トである。拡張後の柱穴は確認できなかった。ピットの深さはP1から順に100cm、56cm、75cm、50cm、26cm、27cm、50cm、73cmである。

出土遺物は中量で、形になる状態で出土した遺物はない。土師器坏・甕・甑などがある。

本住居跡の時期は下田町VII期である。

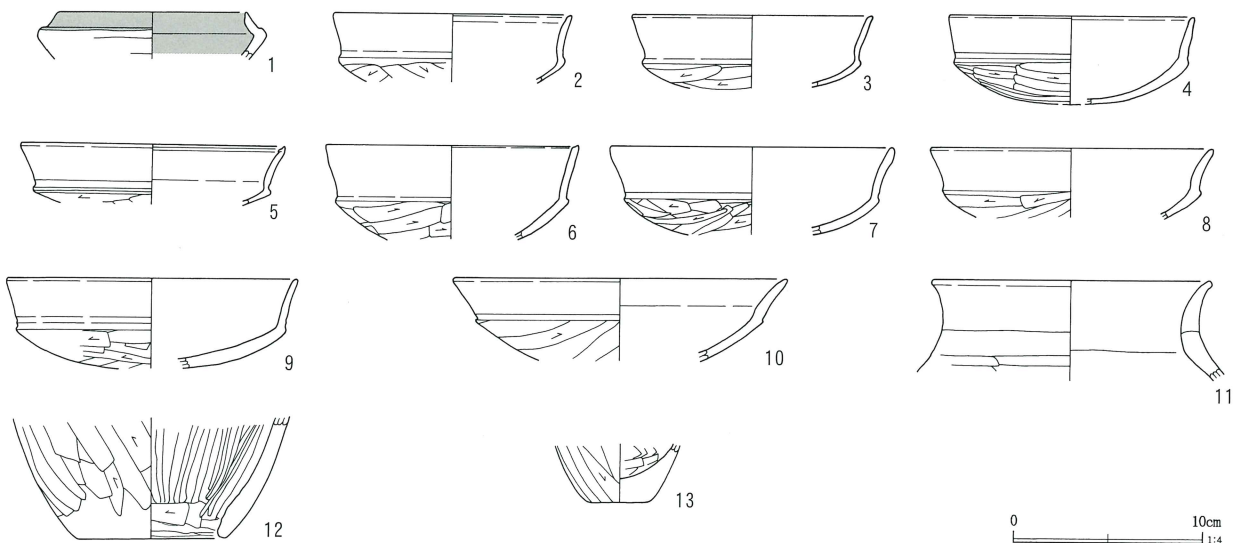
第215号住居跡（第209図）

J-34グリッドに位置する。第209・232・238・252号住居跡、第607号溝跡、第589号土坑、第341号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第209・252号住居跡よりも新しい。第232・238号住居跡との関係は明らかにできなかったが、両住居跡よりも新しい可能性がある。

形状は正方形に近いと推定される。規模は東西4.1m、南北推定で4.2mである。確認面から床面までの深さは25cmである。南壁を東西基準とした傾きはN-25°-Eである。

壁溝は南壁にのみ検出された。掘り込みは浅く、幅15~20cm、深さ2~5cmである。

ピットは5基検出された。P1・2・3には柱痕があり、柱穴とみられる。ピットの深さはP1から順に54cm、74cm、40cm、8cm、36cmである。



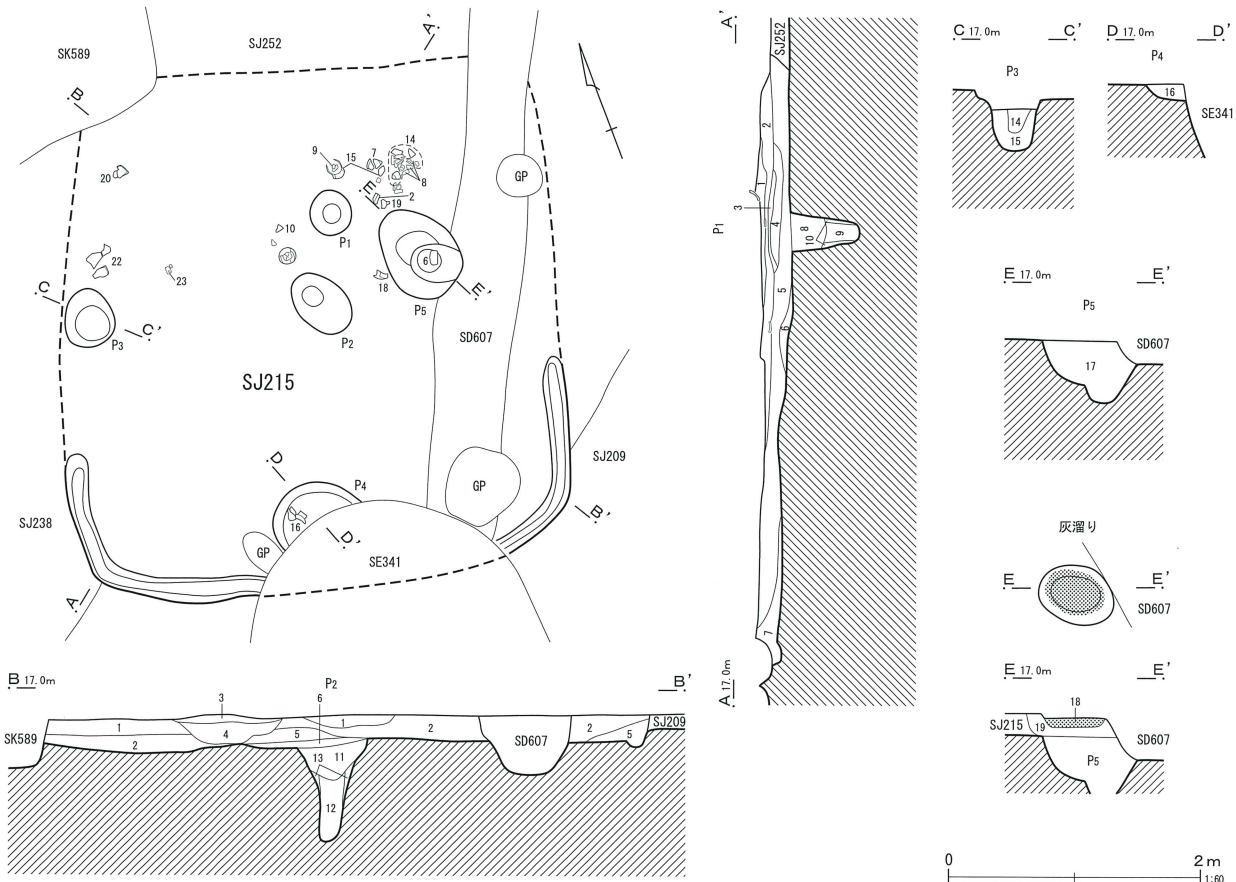
第207図 第214号住居跡出土遺物





- 第213号住居跡
- 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子 (φ1~2mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 第214号住居跡
- 2 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土粒子 (φ1~2mm) ・ローム粒子少量 しまりあり 粘性ややあり
- 3 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (φ10~20mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 4 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子 (φ1~3mm) ・ロームブロック (φ10~20mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 5 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土粒子 (φ10~20mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- ビット1~7
- 6 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土粒子 (φ1~2mm) ・ローム粒子 (φ1~3mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 7 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子 (φ1~2mm) 少量 しまり弱い 粘性強い (柱痕)
- 8 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック (φ10~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり

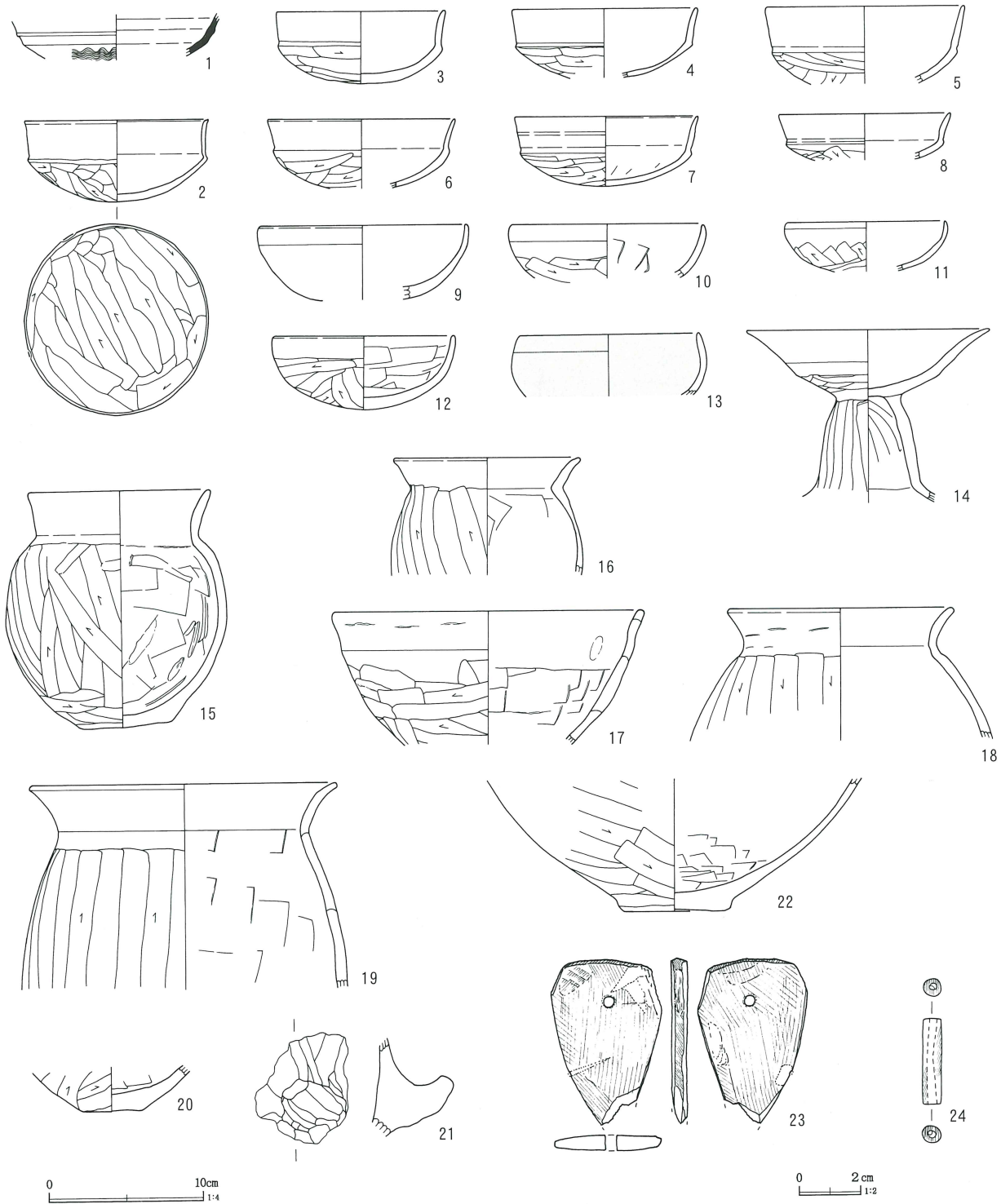
- 9 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子 (φ1~3mm) ・焼土粒子 (φ1~3mm) 少量 炭化物粒子微量 しまり弱い 粘性強い (柱痕)
- 10 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子 (φ1~5mm) ・焼土ブロック (φ10~30mm) 少量 しまり・粘性ややあり
- 11 暗褐色土 10YR3/3 混入物少量 しまり・粘性ややあり
- 12 黒褐色土 10YR3/1 しまり・粘性ややあり
- 13 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒子 (φ1~2mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 14 黒褐色土 10YR3/2 炭化物層 (炭化物多量) しまり・粘性弱い
- ビット8
- 15 灰黄褐色土 10YR4/2 しまりあり 粘性ややあり 焼土粒子 (φ10~15mm) ・炭化物粒子 (φ10~20mm) ・ローム粒子 (φ1~5mm) 少量
- 16 黒褐色土 10YR3/1 しまり・粘性あり ロームブロック (φ10~20mm) 少量
- 17 黒褐色土 10YR3/1 しまり弱い 粘性強い 炭化物少量 粘質土



- 第215号住居跡
- 1 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック (φ5mm) 微量 焼土ブロック (φ5~10mm) ・炭化物粒子少量 しまり・粘性あり
- 2 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック (φ20~30mm) 含む 焼土ブロック (φ5mm) 少量 しまり・粘性あり
- 3 黒褐色土 10YR3/1 焼土ブロック (φ10~30mm) 多量 しまりあり 粘性なし
- 4 黒褐色土 10YR3/1 焼土ブロック (φ10~50mm) ・焼土粒子多量 炭化物粒子少量 しまりあり 粘性なし
- 5 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (φ50mm以上) 多量 しまり・粘性あり (壁が崩れたものか)
- 6 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (φ2~3mm) 多量 しまり・粘性あり
- 7 暗褐色土 10YR3/3 焼土ブロック (φ5mm) 多量 ロームブロック (φ10~20mm) 少量 しまり・粘性あり
- ビット1
- 8 灰黄褐色土 10YR4/2 焼土ブロック (φ10mm) 少量 黄褐色ロームブロック (φ10~20mm) 多量 しまり・粘性あり
- 9 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック (φ5mm) 少量 しまり・粘性あり (柱痕)
- 10 褐灰色土 10YR5/1 暗灰色粘土主体 砂を含む しまりややあり 粘性あり

- ビット2
- 11 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (φ20~30mm) 多量 焼土粒子 (φ2mm) ・炭化物粒子少量 しまり・粘性あり
- 12 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック (φ10mm) 微量 しまり・粘性あり (柱痕)
- 13 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土粒子 (φ2mm) 微量 しまり・粘性あり
- ビット3
- 14 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒子 (φ0.3mm) ・炭化物粒子少量 しまり・粘性あり (柱痕)
- 15 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック (φ10mm) 多量 焼土粒子 (φ5mm) 少量 しまり・粘性あり
- ビット4
- 16 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (φ30mm) 多量 焼土粒子 (φ5mm) 微量 しまり・粘性あり
- ビット5
- 17 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック (φ30mm) 多量 焼土粒子 (φ0.5mm) 微量 しまり・粘性あり
- 灰溜り
- 18 灰層 焼土粒子 (φ0.5mm) 微量
- 19 黄褐色土 ローム主体 焼土ブロック (φ10mm) 少量

第209図 第215号住居跡



第210図 第215号住居跡出土遺物

なお、P5がある部分の埋土上面から、浅い灰溜まりが検出された。白状に円くくぼんで硬化した黄褐色粘土（19層）の中に、薄く灰層（18層）が堆積したものである。黄褐色土は被熱していない。本住居跡の埋没後に形成されたものである。

出土遺物は多く、残りも比較的良好である。土師器坏・高坏・甕などのほか、石製模造品や管玉も出土している。

本住居跡の時期は下田町VI期である。

第216号住居跡 (第211図)

I-31・32グリッドに位置する。第211・217・229号住居跡、第10号方形周溝墓と重複する。住居跡の切り合い関係は、第211・217号住居跡よりも古く、第229号住居跡との関係は不明である。

方形で、規模は東北-西南6.2m、南東-北西は5.2mまで確認された。埋土は浅く、確認面から床面までの深さは13cmである。北東壁を基準とした傾きはN-27°-Wである。

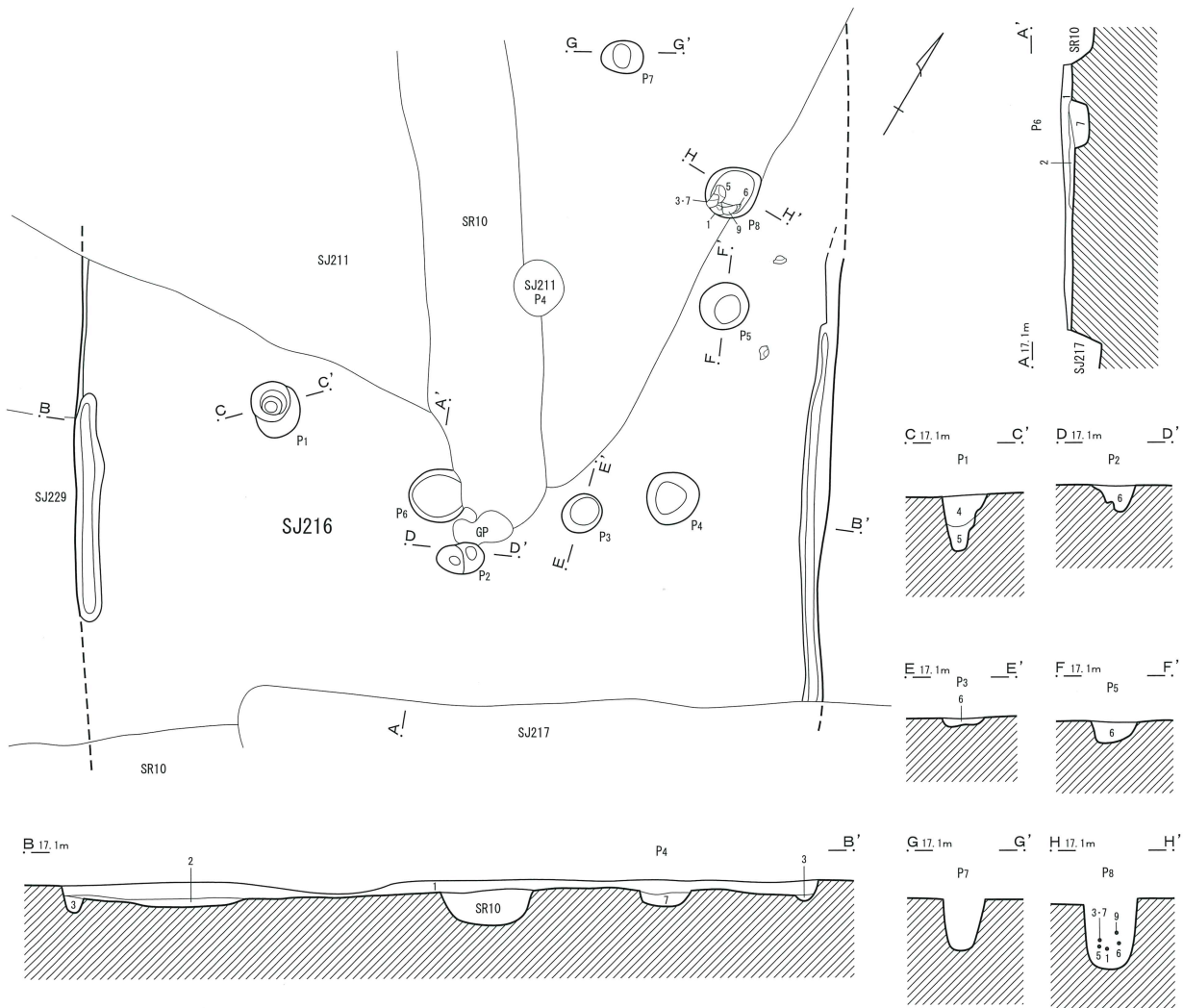
床には部分的に貼床が認められた。

壁溝は途切れがちに検出された。幅18~23cm、深さ5~13cmである。

ピットは8基検出された。柱穴と確認されたものではなく、性格は不明である。ピットの深さはP1から順に44cm、21cm、5cm、13cm、17cm、16cm、42cm、56cmである。

出土遺物は少ないが、P8から完形を含んだ残りのよい土器が出土している。土師器環・高環、石製模造品の破片などがある。

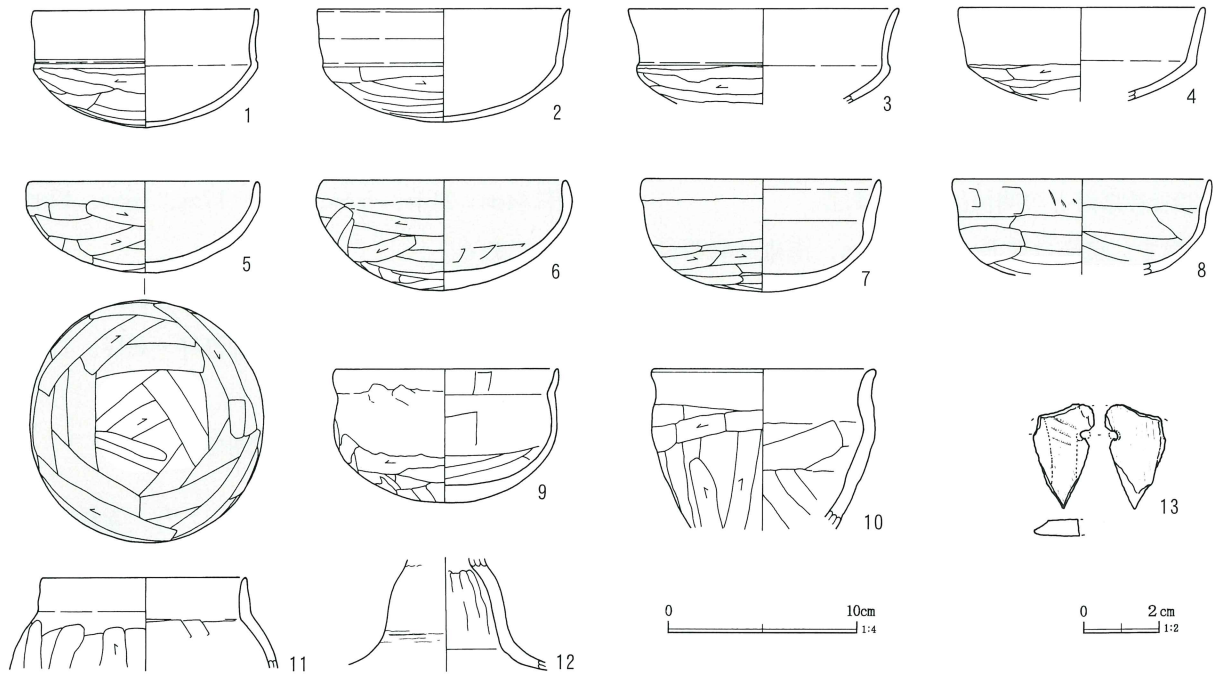
本住居跡の時期は下田町VI期である。



第216号住居跡

- 1 黒色土 7.5Y2/1 地山ブロック (φ1~20mm)・焼土ブロック・炭化物粒子含む
- 2 黒色土 7.5Y2/1 地山ブロック (φ1~30mm) 多量 炭化物粒子含む (貼床)
- 3 黒色土 10Y2/1 地山ブロック少量
- ピット1
- 4 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土ブロック含む 炭化物粒子少量
- 5 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土ブロック含む
- ピット2・3・5
- 6 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土ブロック少量 焼土ブロック微量 炭化物粒子含む しまりあり
- ピット4・6
- 7 黒色土 2.5Y2/1 地山ブロック (φ1~10mm)・炭化物粒子含む

第211図 第216号住居跡



第212図 第216号住居跡出土遺物

#### 第217号住居跡（第213・214図）

I-32、J-31・32グリッドに位置する。第216・249・257号住居跡、第602号土坑、第350・356・360号井戸跡、第10号方形周溝墓と重複する。切り合う住居跡のなかではもっとも新しいと考えられる。

形状はほぼ正方形である。規模は東西7.3m、南北7.3mである。埋土上層（2・3層）にはロームブロックが多く含まれ、これらは人為的に埋め戻された土の可能性が高い。確認面から床面までの深さは33cmである。主軸方向はN-67°-Eである。

カマドは北東壁やや南寄りに構築されている。煙道の先は排水溝によって失われている。残りの部分の長さは25cmである。燃焼部は細長い楕円形で、規模は113×59cm、掘り込みは浅く、深さは10cmである。灰層（16層）の上に天井部の崩落土（14層）が

堆積している。袖は地山を掘り残した部分が検出された。火床面には被熱が認められ、小型甕（第215図20）を伏せて、支脚として転用していた。

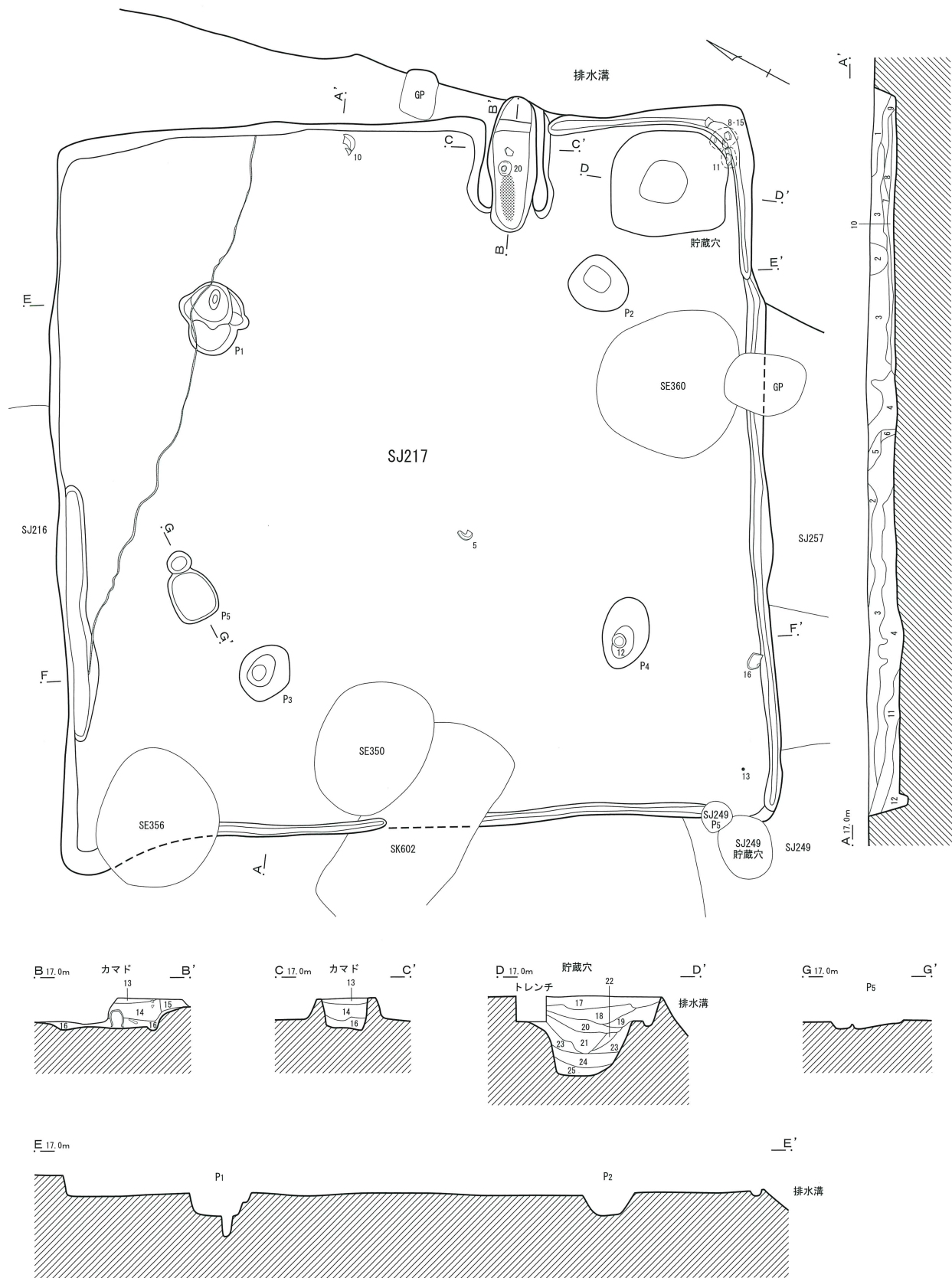
貯蔵穴はカマドの右側、東コーナーに設けられている。形状は隅丸方形で、規模は120×108cm、深さ73cm、バケツ状の掘り込みである。

壁溝は南側を中心に検出された。幅9～31cm、深さ7～8cmである。

ピットは5基検出された。P1～4の掘り込みは浅いが、配置から支柱穴と推定される。ピットの深さはP1から順に46cm、23cm、17cm、28cm、8cmである。

出土遺物は破片が多い。土師器環・高環・小型甕などのほか、管玉や白玉が出土している。

本住居跡の時期は下田町VII期である。



第213図 第217号住居跡 (I)

### 第218号住居跡（第217図）

H-31グリッドに位置する。第222号住居跡、第609号溝跡と重複する。住居跡同士の切り合い関係は把握できなかった。

形状は方形と推定される。北側は第222号住居跡と重なるため、規模は東北-西南3.5m、南東-北西は1.4mを検出した。確認面から床面までの深さは7cmである。南西壁を基準とした傾きはN-25°-Wである。

ピットは2基検出された。性格は不明である。ピットの深さはP1から順に38cm、20cmである。

出土遺物は破片が多い。ミニチュア土器、土師器坏・甕、石製模造品が出土した。

本住居跡の時期は下田町VIII期である。

2.3m、南北1.5mである。埋土は浅く一層で、確認面から床面までの深さは10cmである。北壁を東西基準とした傾きはN-35°-Wである。

壁溝は幅19~24cm、深さ10~11cmである。

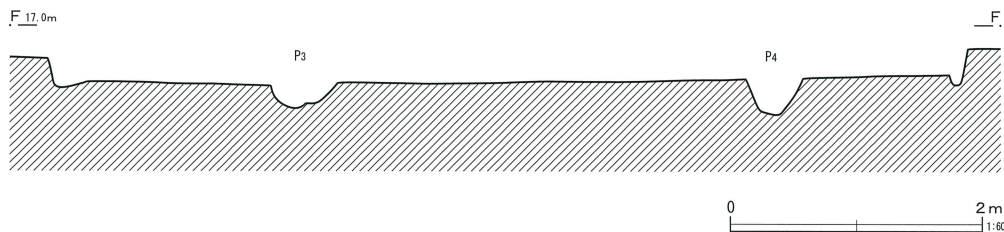
出土遺物は少なく、小破片である。土師器坏や甕の破片で、図示することはできなかった。

本住居跡の時期は不明だが、古墳時代後期に属する可能性がある。

### 第219号住居跡（第218図）

H-31グリッドに位置する。第220号住居跡、第585号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第220号住居跡よりも古い。

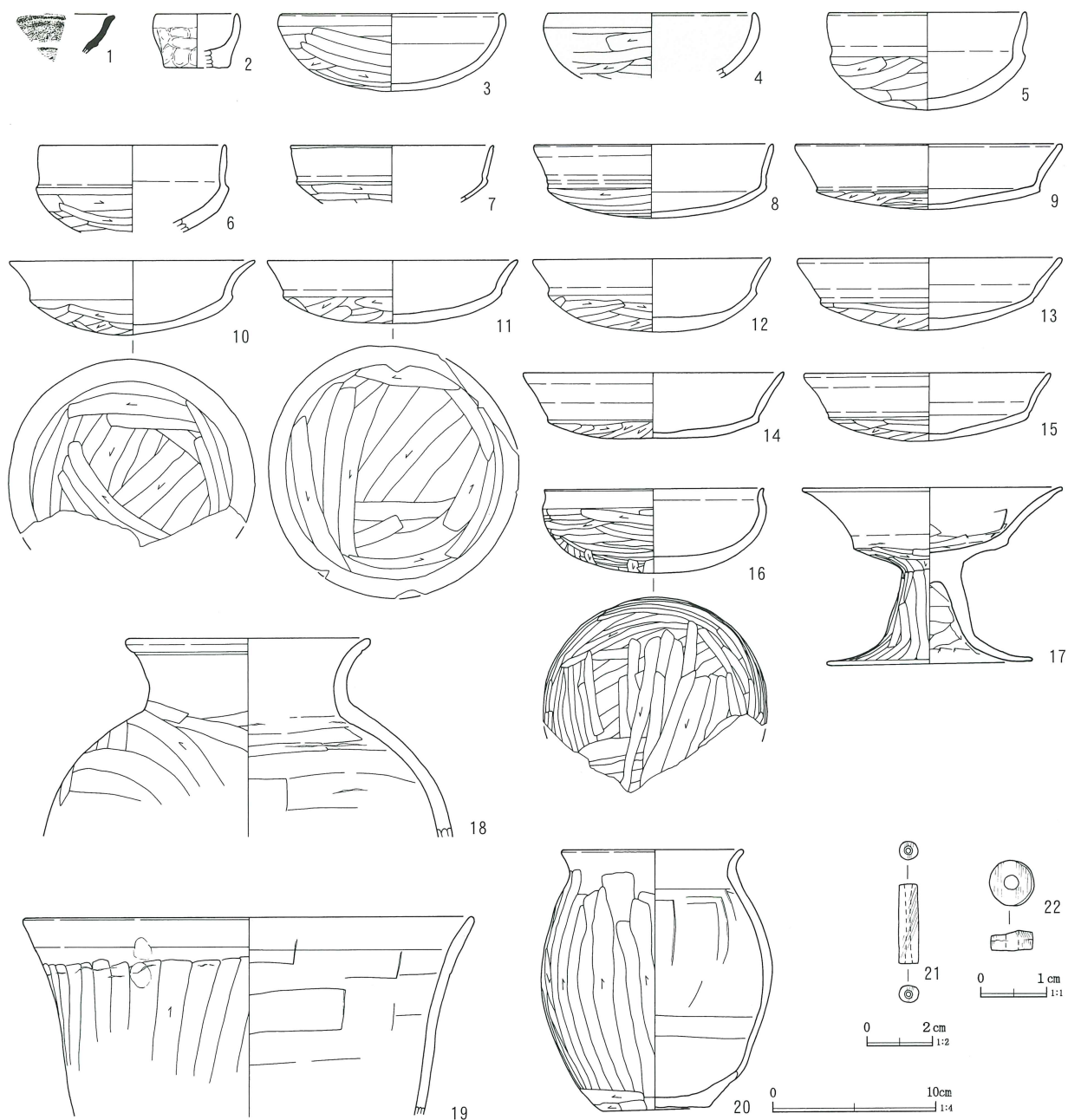
北東コーナーのみが検出された。その範囲は東西



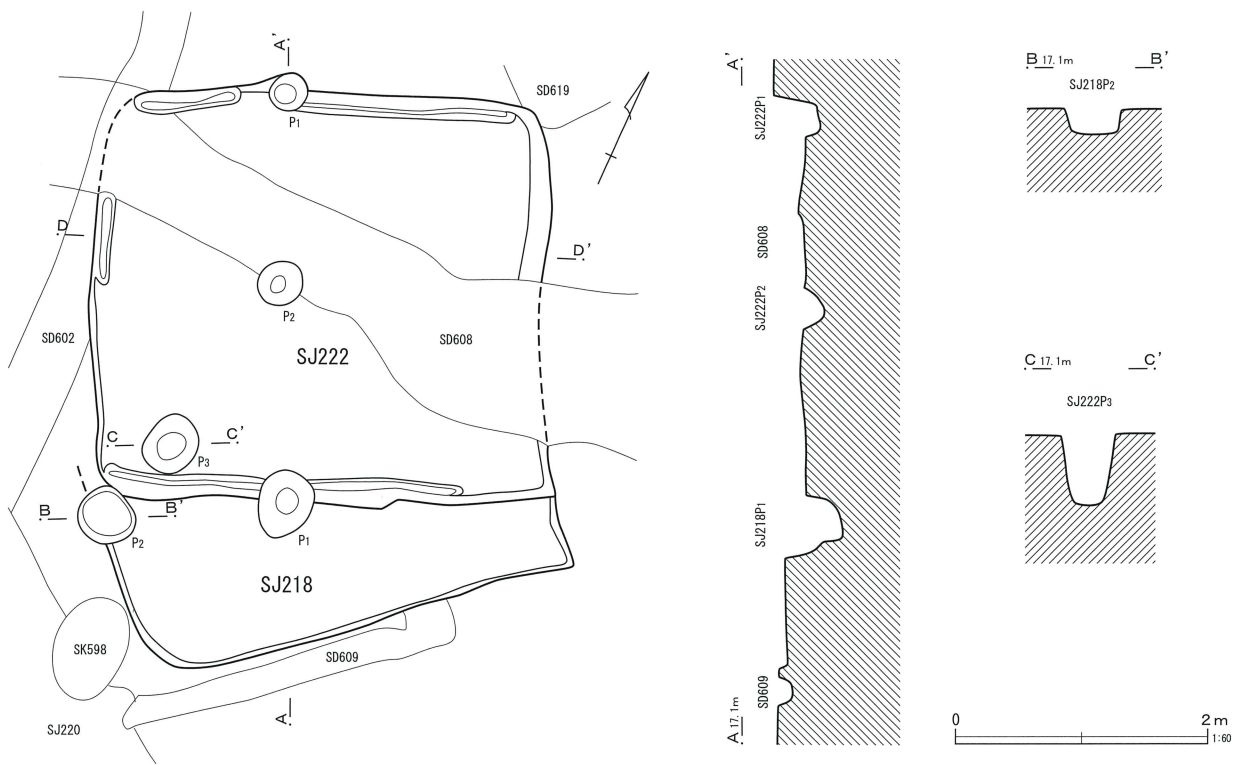
#### 第217号住居跡

1	黒褐色土	10YR2/3	地山ブロック (φ1~10mm)・炭化物含む 焼土ブロック	14	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 含む 焼土ブロック (φ3~10mm) 多量 (天井崩落土)
2	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量 焼土ブロック微量	15	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 含む 焼土ブロック (φ3~5mm) 少量 (煙道埋土)
3	黒色土	10YR2/1	地山ブロック (φ1~40mm) 多量 焼土ブロック微量	16	黒色土	2.5Y2/1	灰・炭化物多量 (灰層)
4	黒色土	10YR2/1	地山ブロック・焼土ブロック少量 炭化物含む	17	黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック (φ1~5mm) 少量 焼土ブロック微量 炭化物含む
5	黒色土	10YR2/1	地山ブロック (φ1~30mm) 含む 焼土ブロック少量	18	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~30mm)・炭化物含む
6	黒色土	10YR2/1	地山ブロック (φ1~20mm) 多量 炭化物含む	19	黒色土	10YR2/1	地山ブロック (φ1~30mm)・炭化物含む
7	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~40mm) 多量 炭化物含む	20	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒子微量 地山ブロック (φ1~50mm)・炭化物含む
8	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~30mm) 多量 炭化物含む	21	黒褐色土	5YR2/1	地山ブロック (φ1~30mm)・炭化物含む
9	黒褐色土	10YR2/2	地山ブロック・焼土ブロック少量	22	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~40mm)・炭化物含む
10	黄褐色土	2.5Y5/3	貼床	23	黒褐色土	7.5YR2/2	地山ブロック (φ1~40mm)・炭化物含む
11	黒色土	10YR2/1	地山ブロック (φ1~20mm) 含む 焼土ブロック少量	24	黒色土	5Y2/1	青灰色粘土ブロック (φ1~20mm) 含む
12	黒色土	N2	地山ブロック・焼土ブロック少量 炭化物含む	25	緑灰色土	5G5/1	
13	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量				

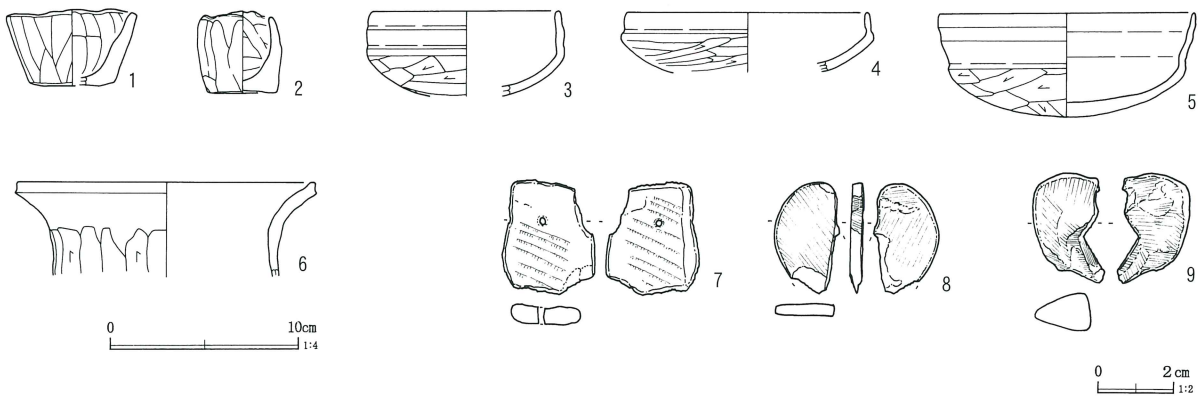
第214図 第217号住居跡 (2)



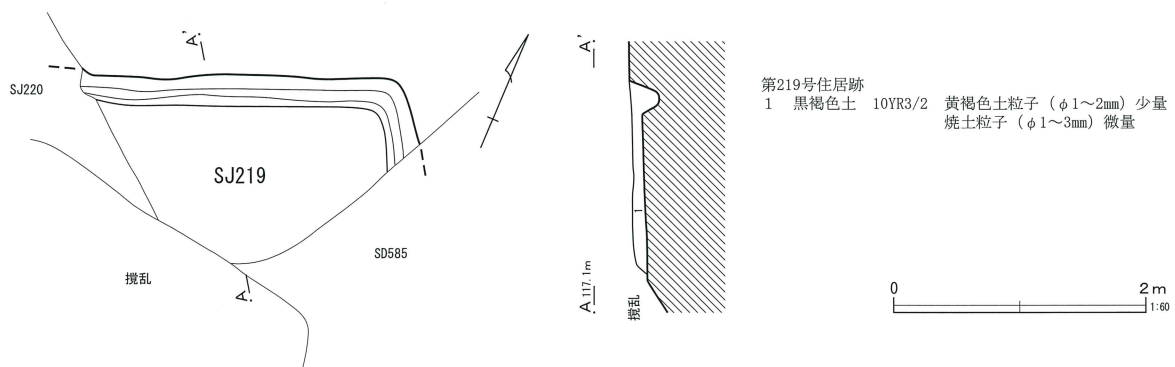
第215图 第217号住居跡出土遺物



第216图 第218・222号住居跡



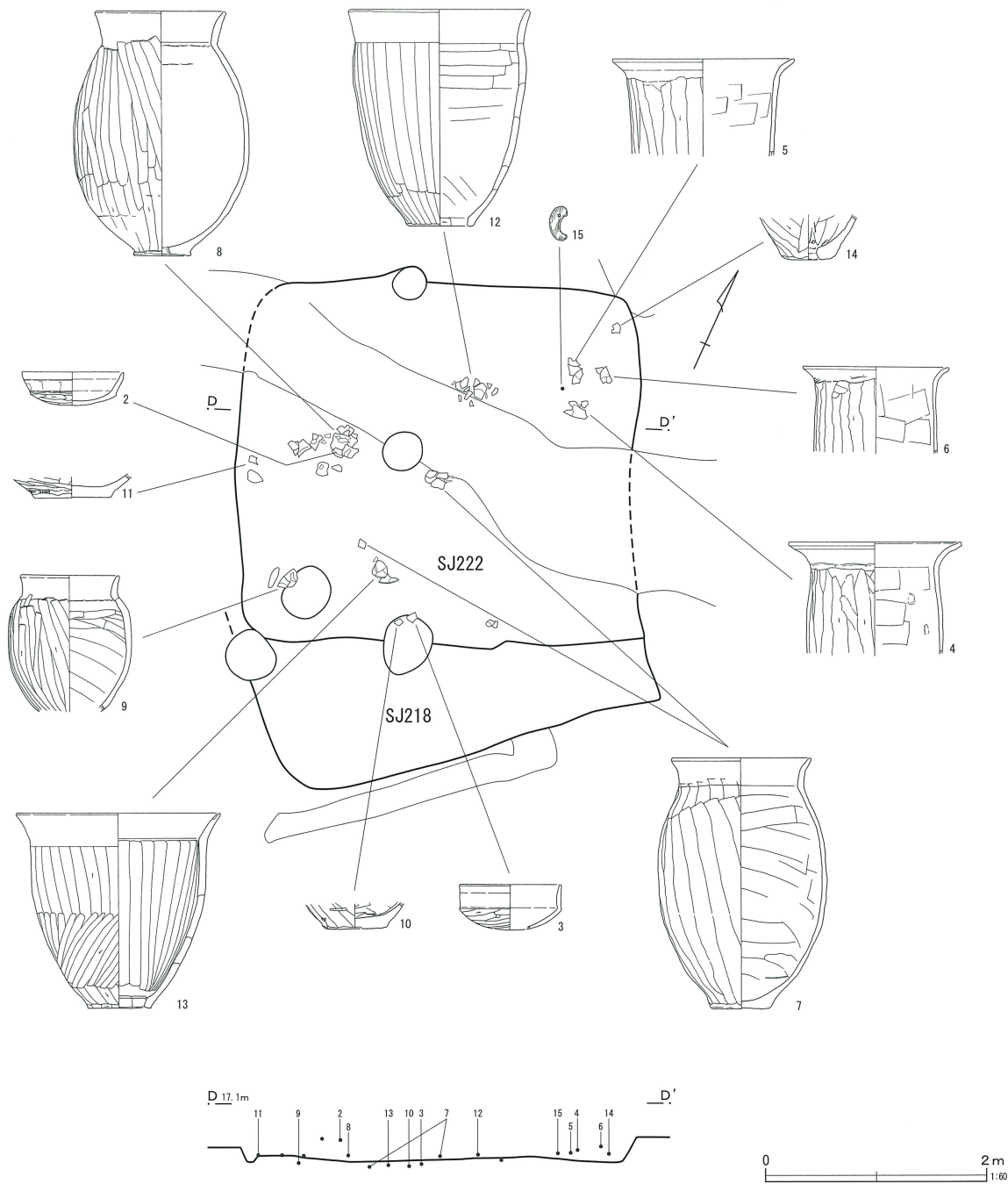
第217图 第218号住居跡出土遺物



第219号住居跡  
 1 黑褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量  
 烧土粒子 (φ1~3mm) 微量

第218图 第219号住居跡





第219図 第222号住居跡遺物出土状況

**第220号住居跡 (第220図)**

G・H-31・32グリッドに位置する。第173・219号住居跡、第2・602・609号溝跡、第598号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第173号住居跡よりも古く、第219号住居跡より新しい。

形状は方形と考えられる。検出されたのは北東壁

のみである。東北-南西4.4m、南西-北東3.8mまで検出された。埋土は二層で確認面から床面までの深さは22cmである。北東壁を東西の基準とした傾きはN-40°-Eである。

壁溝は北東壁の一部に検出された。掘り込みは浅く、幅9~15cm、深さ3~5cmである。

ピットは4基検出された。その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に28cm、10cm、10cm、29cmである。

遺物は床面直上から土師器甕が出土している。本住居跡の時期は下田町Ⅲ期である。

第221号住居跡 欠番

第222号住居跡 (第217・219図)

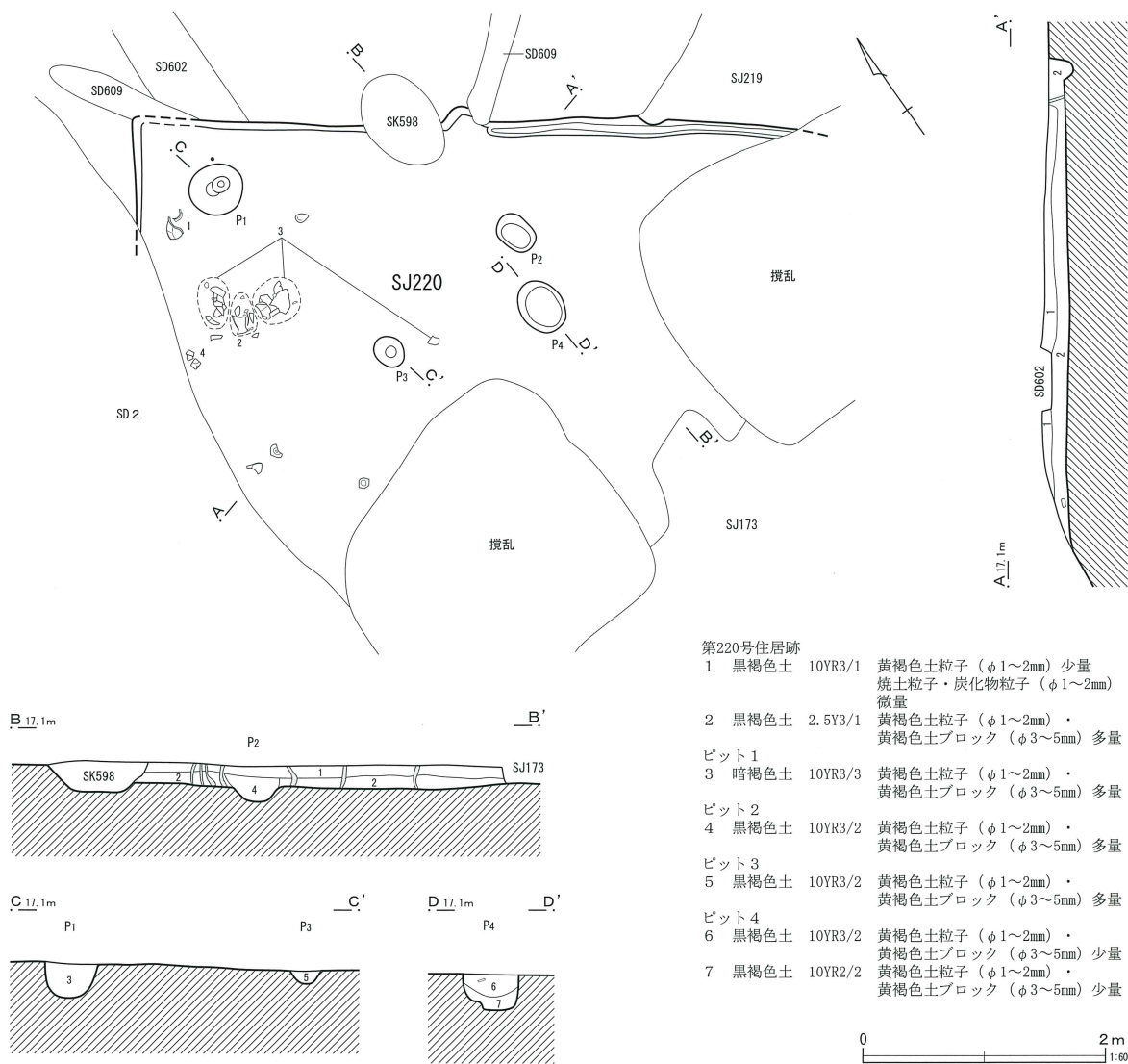
G・H-31グリッドに位置する。第218号住居跡、第602・608・619号溝跡と重複する。住居跡同士の切り合い関係は把握できなかった。

形状は正方形に近い方形である。規模は東西3.6m、南北3.3mである。確認面から床面までの深さは30cmである。南西壁を基準とした傾きはN-25°-Wである。

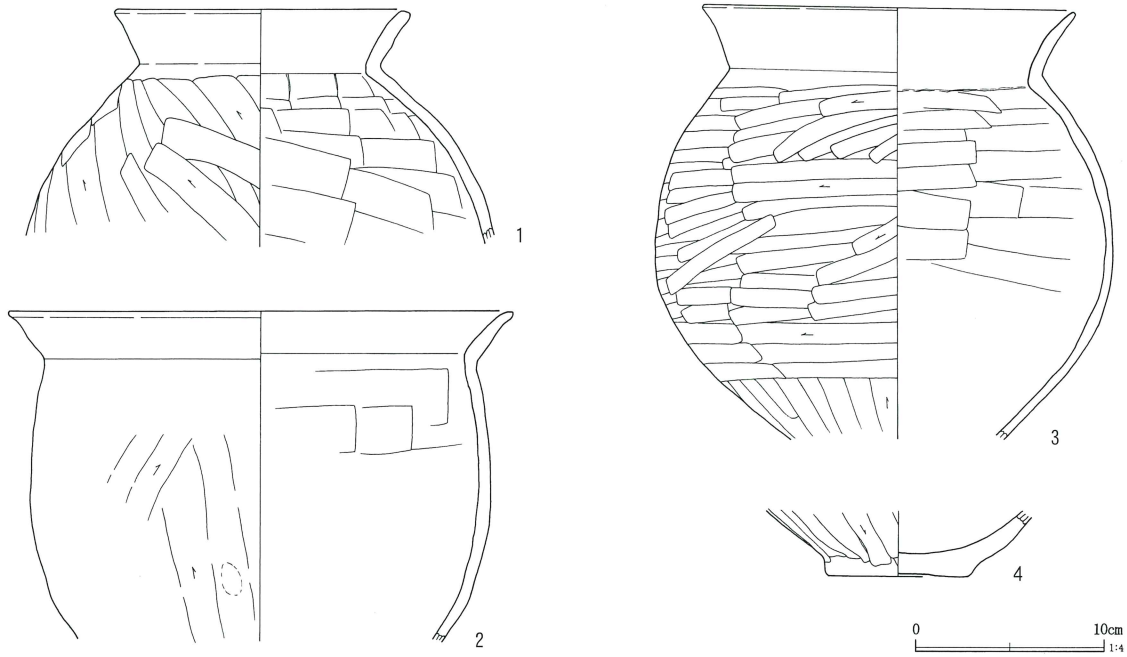
壁溝は北東壁と南西壁の一部を除いて検出された。掘り込みは浅く、幅13~18cm、深さ4~8cmである。

ピットは3基検出された。その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に12cm、16cm、55cmである。

出土遺物は住居跡の規模が小さい割には多い。埋土の床面近くから残りのよい遺物が出土している。



第220図 第220号住居跡



第221図 第220号住居跡出土遺物

土師器・甕・甔などのほかに、勾玉が出土している。

本住居跡の時期は下田町VII期である。

#### 第223号住居跡（第160・161図）

F・G-32グリッドに位置する。第188・189・195号住居跡、第600号溝跡と重複する。切り合い関係は、第188号住居跡より古く、第189・195号住居跡との関係は把握できなかった。

第188号住居跡の床下から検出された住居跡である。南西コーナーを中心に検出された。検出された範囲は、東北-西南4.4m、南東-北西3.8mである。埋土はほとんど削平されており、確認面から床面までの深さは8cmである。南西壁を基準とした傾きはN-47°-Wである。

カマドは検出されなかったが、南西壁近くに焼土ブロックの堆積（33層）があり、カマドの痕跡と考えられる。

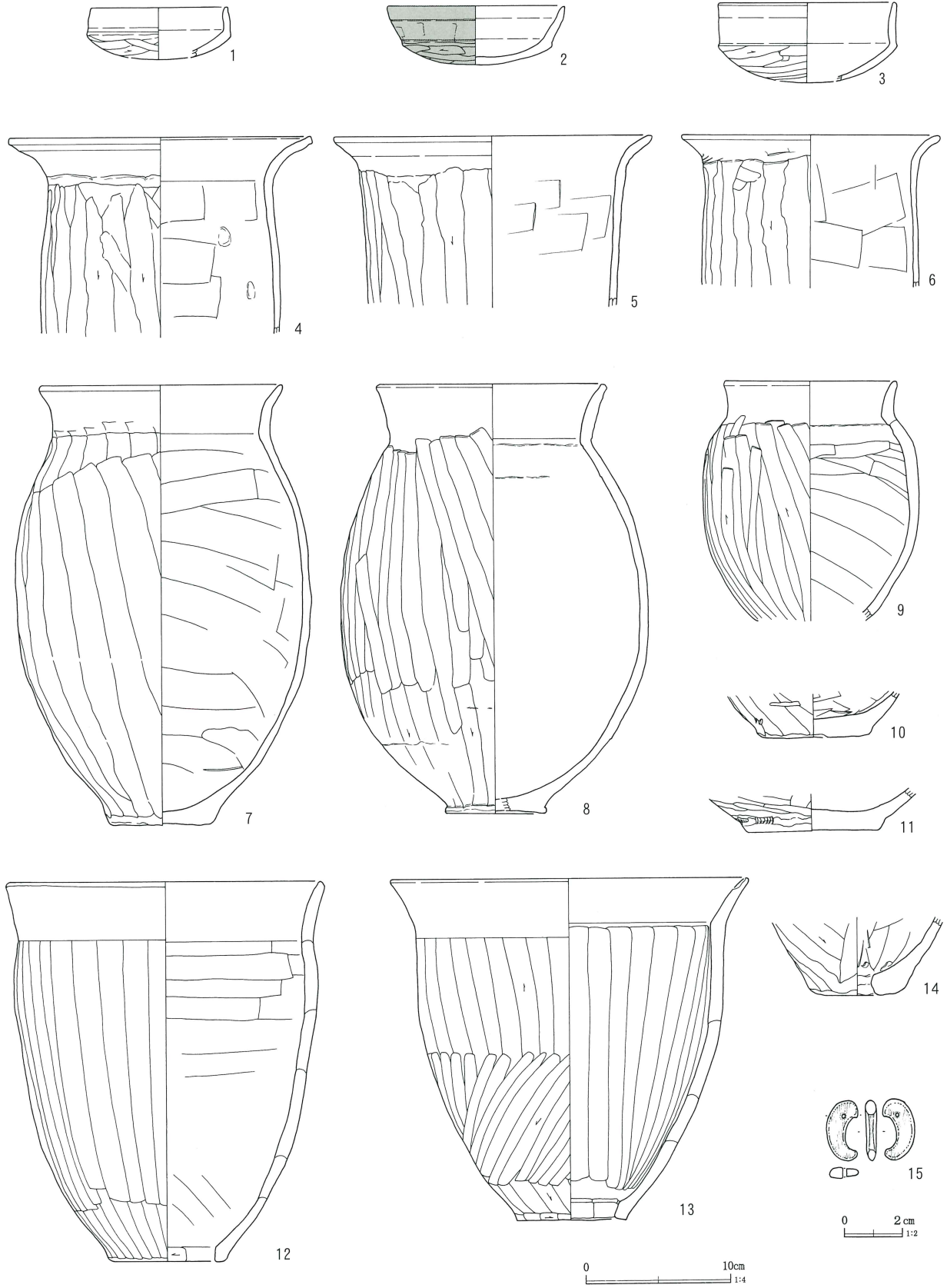
貯蔵穴は南西コーナーに設けられ、形状は楕円形で、規模は106×92cm、深さ36cm、バケツ状の掘り込みである。

壁溝は南西壁の一部が検出された。幅15~26cm、深さ5~10cmである。

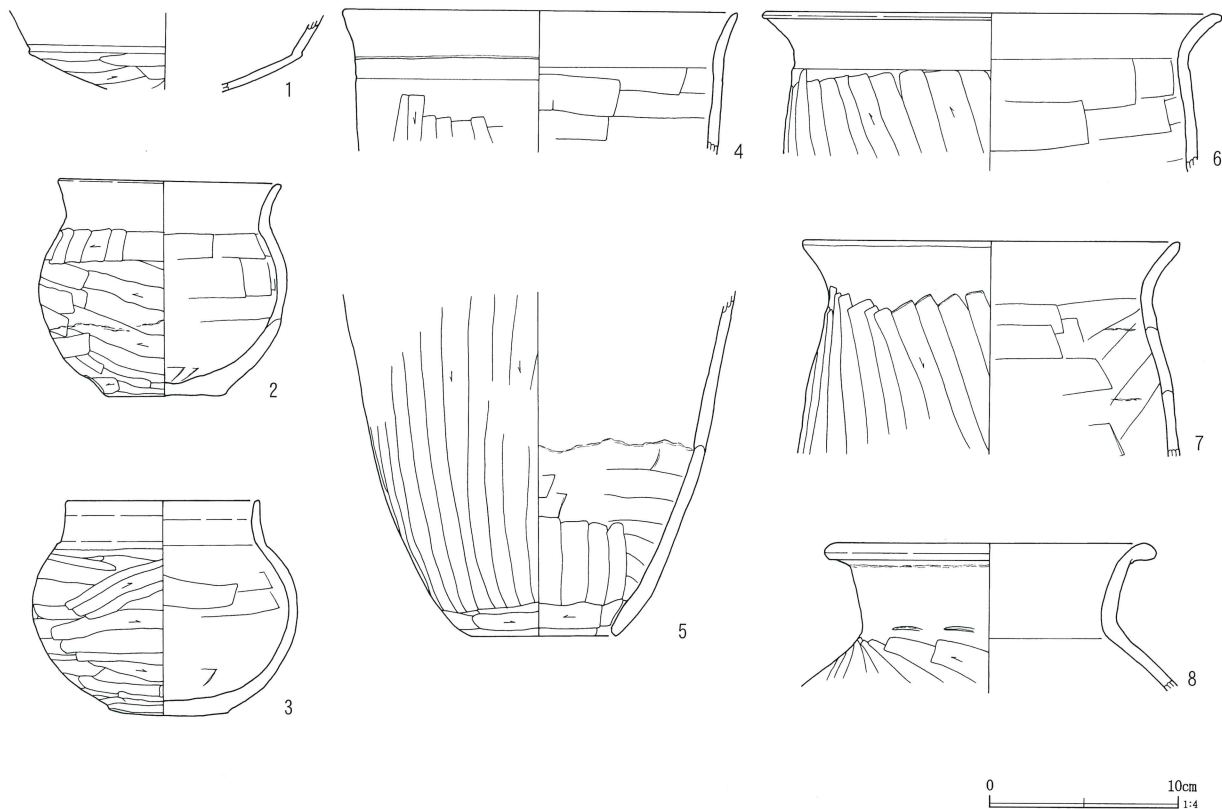
ピットは2基検出された。性格は不明である。ピットの深さはP1から順に22cm、25cmである。

埋土からの出土遺物はほとんどなく、遺物はおもに貯蔵穴周辺とその上層から出土している。土師器・甕・甔などがある。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第222図 第222号住居跡出土遺物



第223図 第223号住居跡出土遺物

#### 第224号住居跡（第224図）

H・I—32グリッドに位置する。第225・229・235・244号住居跡、第585号溝跡、第351号井戸跡、第10号方形周溝墓と重複する。住居跡の切り合い関係は、第235号住居跡よりも古く、第225号住居跡より新しい。第229・244号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は方形で、規模は南東—北西6.6m、西側の壁は確認できなかったが、西南方向には少なくとも8.0mまで伸びるものと考えられる。埋土の残りは薄く、一層で、確認面から床面までの深さは15cmである。東壁を基準とした傾きはN—30°—Wである。

壁溝は北—東壁で検出された。掘り込みは浅く、幅13~25cm、深さ2~8cmである。

ピットは4基検出された。性格は不明である。ピットの深さはP1から順に19cm、13cm、51cm、8cmである。

遺物は破片が多く出土した。土師器環・甕などがある。また、石製模造品や白玉が床面直上から出土

した。

本住居跡の時期は下田町VII~VIII期である。

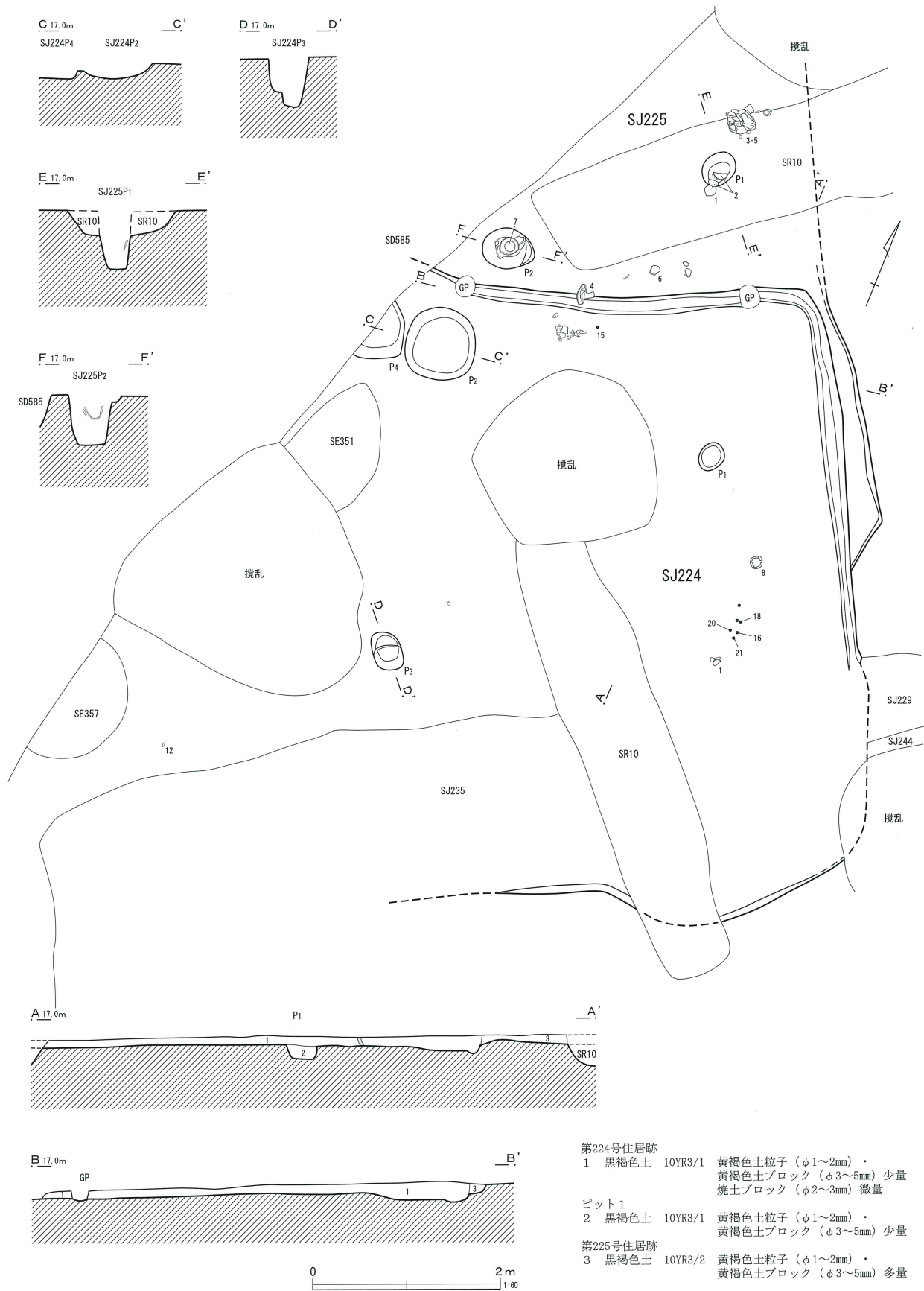
#### 第225号住居跡（第224図）

H—31・32グリッドに位置する。第224号住居跡、第585号溝跡、第10号方形周溝墓と重複する。住居跡の切り合い関係は、第224号住居跡よりも古い。規模・形状は不明である。埋土が浅く、北東壁の一部しか検出できなかった。東北—西南は4.1mまで確認された。埋土は浅く一層で、確認面から床面までの深さは10cmである。北東壁を基準とした傾きはN—35°—Wである。

ピットは2基検出された。ピットの深さはP1から順に62cm、52cmである。

出土遺物の量はあまり多くはないが、ピット内から残りの良好な土器が出土している。土師器環・甕・甑などがある。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第224図 第224・225号住居跡



第225図 第224号住居跡出土遺物

第226号住居跡 (第156図)

G・H-33グリッドに位置する。第186号住居跡、第585・606号溝跡と重複する。切り合う遺構よりも古く、大半が第186号住居跡と第585号溝跡によって切られている。

検出されたのは東壁から約1.2mで、南北の規模は6.6mである。埋土は一層で、残りは浅く、確認面から床面までの深さは7cmである。東壁を基準とした傾きはN-11°-Wである。

遺物は出土しなかった。

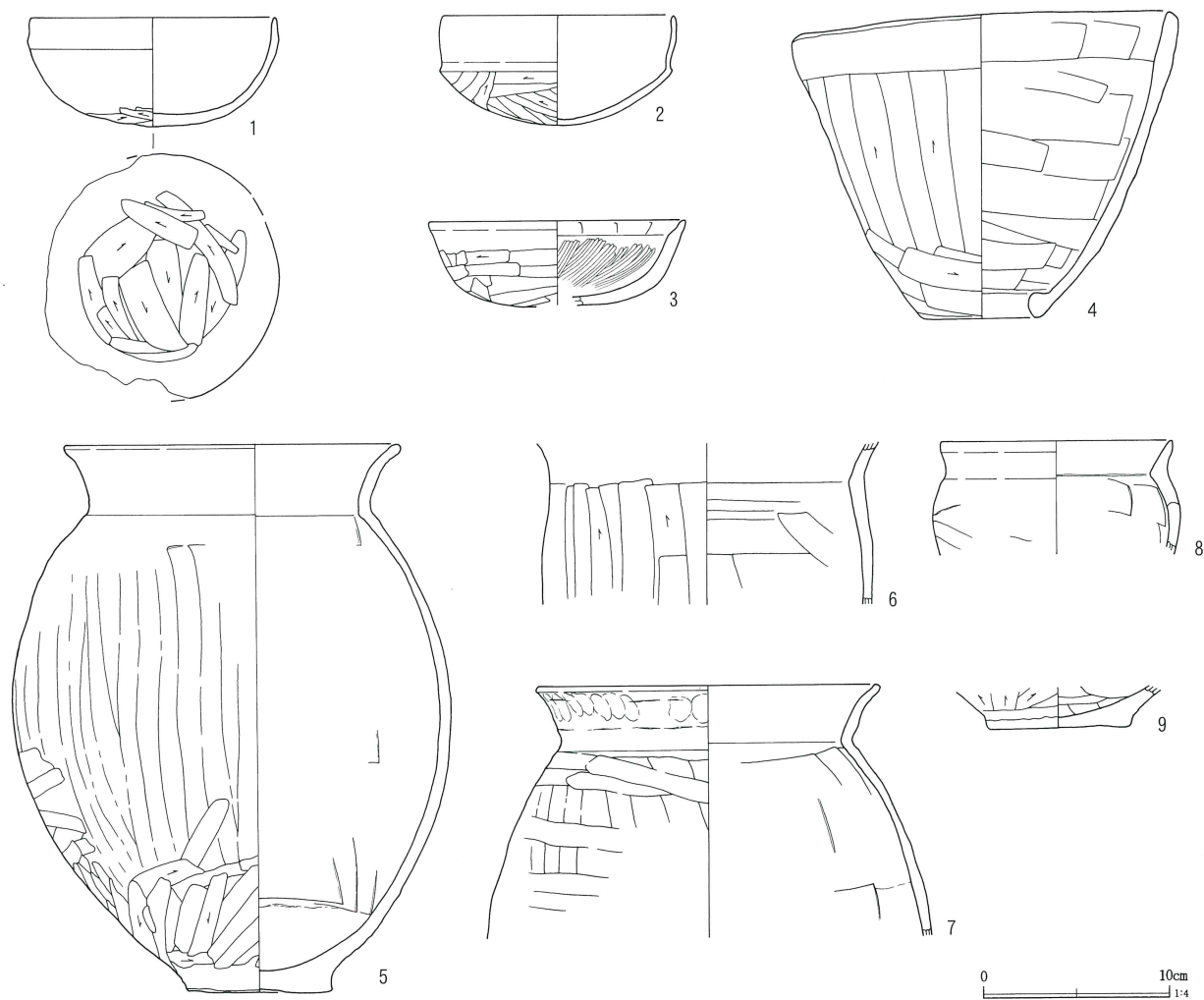
本住居跡の時期は不明である。

第227号住居跡 (第228図)

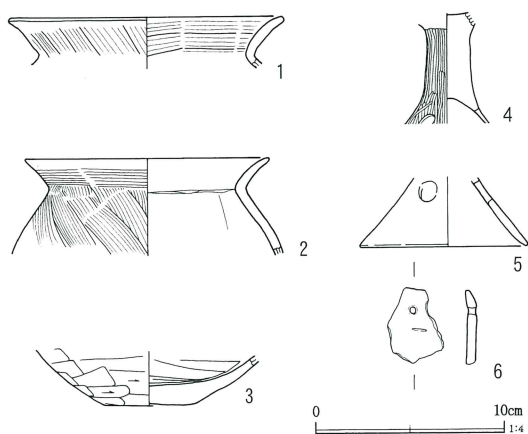
H-34グリッドに位置する。第205・214・230・243号住居跡、第597号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第214・230・243号住居跡より古い。第205号住居跡との関係は把握できなかった。

第214号住居跡の床面を精査して、炉と壁溝の一部が検出された住居跡である。形状・規模ともに不明である。検出された範囲は東北-西南約3.0m、南東-北西4.0mである。確認面は第214号住居跡の床面のレベルであり、埋土は確認できなかった。北東壁溝を基準とした傾きはN-46°-Wである。

炉は床面をわずかに掘りくぼめて火床面とする。被熱範囲は92×33cm、深さは1cmである。



第226図 第225号住居跡出土遺物



第227図 第227号住居跡出土遺物

壁溝は北西～北東壁のものである。幅9～21cm、深さ4～9cmである。

本住居跡に伴うと考えられるピットは1基である。深さは45cmである。

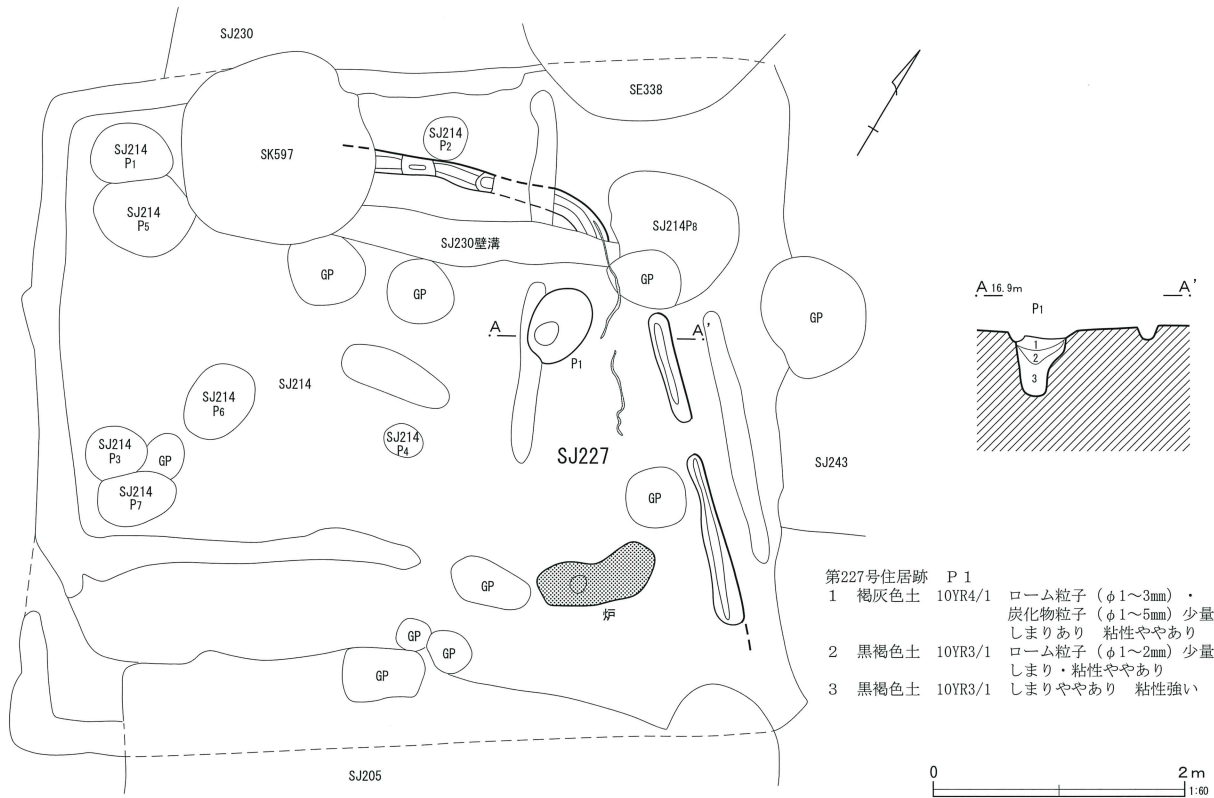
出土遺物は少ない。破片から図示したものは土師器甕・高坏などである。穿孔された土器片（第227図6）は本住居跡に伴うかどうか不明である。

本住居跡の時期は下田町II期である。

第228号住居跡

欠番





第228図 第227号住居跡

### 第229号住居跡 (第229図)

H・I-32グリッドに位置する。第216・224・244・247号住居跡、第10号方形周溝墓と重複する。住居跡の切り合い関係は、第244号住居跡よりも古く、第247号住居跡より新しい。第216・224号住居跡との関係は把握できなかった。切り合う第244号住居跡と埋土の区別がつかず、同時に掘り下げた。

形状は正方形に近い方形を呈している。規模は東西が推定で5.3m、南北は5.4mである。確認面から床面の深さは24cmである。北西壁を東西基準とした傾きはN-31°-Wである。

ピットは3基検出された。その形状や深さから、P1は貯蔵穴、P2・3は柱穴の可能性はある。ピットの深さはP1から順に65cm、43cm、37cmである。

遺物は、南東側の床面近くやピット内から残りのよい土器が出土している。土師器環・高環・甕など

がある。

本住居跡の時期は下田町VI期である。

### 第230号住居跡 (第232図)

H-33・34グリッドに位置する。第208・214・227・241・242・243号住居跡、第597・603号土坑、第338号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第208・214・242号住居跡よりも古く、第227・241号住居跡より新しい。第243号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は正方形に近い方形で、規模は東西5.8m、南北5.6mである。埋土の残りは非常に浅く、確認面から床面までの深さは6cmである。西壁を基準とした傾きはN-28°-Wである。

壁溝はほぼ全周するものと推定される。幅13~38cm、深さ10~16cmである。